KYOTO TACHIBANA
UNIVERSITY

履修の手引き　2018年度生用　〈発達教育学部〉

京都橘大学

履修の手引き

2018年度生用

〈発達教育学部〉

育ちあう、響きあう
京都橘大学

育ちあう、響きあう
京都橘大学

京都橘大学は「自立」「共生」「臨床の知」という教学理念を掲げ、人文・社会・医療系の多様な学部・学科で教育研究を行っています。

2005 年 4 月、本学では男女共学化とともに「自立した女性の育成」という従来の教学理念を、今日的・世界的課題との関連において発展させ、21 世紀にふさわしい男女両性の《自立》と《共生》としました。

めまぐるしく変化を遂げる今日の社会にあって、男女共同参画社会の実現、さらに民族・宗教・文化などの違いを越えた共生社会の実現が緊急の課題になっています。本学が培ってきた女性史・女性文化をはじめとする教育・研究資産を、新しい教学理念のなかで活かし、新しい男女共学の姿を追求しています。

また現在、大学と学問のあり方も問い直されています。学問を閉ざされた世界から開放し、社会とのつながりのなかで、その成果を問い直し再構築しようとする動きです。この要請に応え、本学では、社会と人々の幸福に貢献できる〝実践的な〟学門の追究と人材の養成をめざすという意味を《臨床の知》という教学理念に込めています。

■ブランドマーク

橘の紋章を現代的にアレンジし、未来を見つめるブランドをデザインしました。安定した形状の正円は自立を表し、背景と溶け合う橘の形は共生を意味しています。ブランドカラーの古代紫は、本学が教育で築いた 100 年の伝統と古都・京都をイメージしています。

学生憲章について

本学は、《自立》《共生》《臨床の知》という教学理念に基づいて教育・研究活動に取り組んでいます。この学生憲章は、本学が2017年に開学50周年を迎えるにあたり、学生一人ひとりが教学理念を体現し、未来を明るく豊かなものにするため、日々の学修のなかで大切にする行動の指針として策定しました。

京都橘大学

学生憲章

私たち京都橘大学の学生は、歴史に学び、社会の現実を見つめ、未来を明るくゆたかなものにするために、次の学生憲章を掲げ、行動の指針とします。

1．私たちは常に深く思索し、自分の意思で判断し、行動します
2．私たちは多様な意見や価値観を尊重し、協働して支え合う人間になります
3．私たちは地域や社会の現場から積極的に学び、真理を誠実に探究します
4．私たちは地域社会と国際社会に貢献するために、知恵と力を重ね、日々向上するよう努めます。

履修の手引き

2018年度生用

発達教育学部

京都橘大学

は　じ　め　に

　本学の学生は、入学から卒業までの間に、学則に定められた科目を学習し、所定の単位を修得しなければなりません。

　この「履修の手引き」は、それぞれの学生が、入学から卒業までどのような学習計画を立てるかを決定するために必要な情報をすべて掲載しているものです。

　この「履修の手引き」を熟読し、それぞれの学習が計画的に進められるようにしてください。

ポータルサイト配信・掲示板の確認を習慣に

　学生のみなさんに対する連絡は、ポータルサイトへの配信や、掲示板への掲示によって行います。

　配信・掲示されたものについては各自確認されたものとして取り扱いますので、毎日の習慣として必ず内容を確認するようにしてください。

　なお、配信・掲示内容の電話による問い合わせには応じません。

【ポータルサイトの利用方法】

京都橘大学ホームページ（http://www.tachibana-u.ac.jp）から

『在学生の方へ』→『ポータルサイト（在学生専用）』→『ポータル1・2・3』

目　　次

第１章　学籍
1．学籍番号と学生証 …… 4
2．修業年限、在学年限および回生 …… 4
3．卒業と学位 …… 4
4．学籍に関する異動 …… 5
5．証明書 …… 5
6．学籍と学費 …… 6

第２章　単位
1．単位とは …… 8
2．受講登録～単位の修得について …… 8
3．単位認定について …… 8
4．卒業に必要な単位 …… 12

第３章　受講登録
1．受講登録とは …… 13
2．科目の種類 …… 13
3．受講登録スケジュール …… 14
4．受講登録の流れ …… 14
5．受講登録上限 …… 15
6．注意事項 …… 15
7．履修辞退 …… 16

第４章　授業・試験
1．セメスター（学期） …… 17
2．授業時間 …… 17
3．各種講義 …… 17
4．休講と補講 …… 17
5．臨時休講措置 …… 18
6．出席・欠席 …… 18

第５章　成績
1．成績評価 …… 19
2．不正行為の禁止 …… 19
3．試験における注意事項 …… 20
4．成績通知 …… 20
5．成績疑義 …… 20
6．GPA（グレード・ポイント・アベレージ） …… 21
7．修学支援について …… 21
8．成績通知書の見かた …… 22

第６章　WEBシステム
1．ポータルサイト …… 24
2．KT-note（学習支援システム簡易マニュアル） …… 31
3．学習支援アプリeduca（エデュカ） …… 34

第７章　海外留学
○長期留学制度
1．交換留学制度 …… 35

2．認定留学 …… 36
3．海外留学に際しての特例措置 …… 36
4．長期留学の相談・手続き …… 36
5．SAP（スタディー・アブロード・プログラム） …… 37

○短期留学制度
1．海外語学研修 …… 37
2．短期海外研修 …… 38
3．短期海外研修（各学科・コース主催） …… 39

第８章　教育理念
1．全学 …… 40
2．児童教育学科 …… 41

第９章　教育課程（教養教育課程）
1．教養教育課程とは …… 43
2．基礎教育科目群とは …… 44
3．教養教育科目群とは …… 45
4．キャリア教育科目群とは …… 48
5．児童教育学科　教養教育課程　カリキュラムマップ …… 54

第10章　教育課程（専門教育課程）
1．児童教育コース …… 58
（1）　コースの特徴 …… 58
（2）　各回生の到達目標 …… 59
（3）　児童教育コース　専門教育科目群　カリキュラムマップ …… 60
2．幼児教育コース …… 64
（1）　コースの特徴 …… 64
（2）　各回生の到達目標 …… 65
（3）　幼児教育コース　専門教育科目群　カリキュラムマップ …… 66
3．履修条件 …… 70
4．卒業研究 …… 72

第11章　科目概要 …… 73

第12章　免許・資格
1．取得可能資格一覧 …… 92
2．教職課程 …… 93
3．保育士課程 …… 102
4．司書課程 …… 106
5．学校図書館司書教諭課程 …… 107
6．博物館学芸員資格課程 …… 108
7．社会教育主事課程 …… 110
8．日本語教員養成 …… 112
9．小学校英語指導者資格（J-SHINE認定） …… 114

その他
キャンパスマップ …… 118
教室一覧 …… 119
事務局連絡先一覧 …… 121

第1章　学　籍

1．学籍番号と学生証

「学籍」とは、本学での所属を示すものであり、入学時から在学中の間に発生します。また、本学の学生には、入学と同時に学籍番号が与えられます。この番号は、学内のすべての手続きに必要となります。

学生証は、あなたが本学の学生であることを証明する大切なものですので、常に携帯してください。紛失や盗難にあった場合は、速やかに学生支援課へ届け出てください。なお、学籍番号の仕組みは以下のとおりです。

学部生共通	学部・学科				入学年度		一連番号		
a	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（入学年度）西暦の下２ケタ
（一連番号）各学科ごとに001～

（学部・学科）

1020：文学部	日本語日本文学科
1030：文学部	歴史学科
1041：文学部	歴史遺産学科
2010：国際英語学部	国際英語学科
3110：発達教育学部	児童教育学科
5011：現代ビジネス学部	経営学科
5020：現代ビジネス学部	都市環境デザイン学科
7010：看護学部	看護学科
9020：健康科学部	心理学科
9030：健康科学部	理学療法学科
9035：健康科学部	作業療法学科
9040：健康科学部	救急救命学科
9050：健康科学部	臨床検査学科

2．修業年限、在学年限および回生

修業年限とは、教育課程を修了するために必要な期間であり、本学では４年と定められています。在学年限とは本学において学生として在学できる最大の期間であり、本学では８年と定められています。休学した学期は在学年限に算入しません。

回生は、入学と同時に１回生となり、単位の修得状況にかかわりなく、在学期間に基づき１か年単位で繰り上がっていきます。履修指導等は、回生を基準として行います。４回生終了時までに卒業に必要な単位が修得できなかった場合は、５回生、６回生と繰り上がりますが、在学年限を超えて在学することはできません。

3．卒業と学位

４年以上在学し、所定の要件にそって必要な単位を修得した場合、卒業となり、児童教育学科は学士（児童教育学）の学位が与えられます。また、４年以上在学し、前期セメスターで卒業に必要な単位を修得した場合には、前期末日である９月20日で卒業となります。

4．学籍に関する異動

（1）休学

・病気など、やむを得ない事由で学修を継続できない場合、許可を得てセメスター単位で休学することができます。
・休学するには、事前にアドバイザー教員および教務部各課の職員との面談が必要です。また、休学に関する詳細は、面談時にお伝えします。休学を考えている場合は、まずは、アドバイザー教員または、教務部各課の職員に相談してください。
※病気による休学の場合は、診断書の提出が必要です。
・休学期間中は授業料およびその他の学費は免除されます。
※学期途中からの休学は除きます。
・休学期間終了日までに次セメスターの学籍に関する案内を送付します。案内にしたがって次セメスターの学籍に関する手続きを行ってください。

（2）復学

・休学理由が消滅した場合、許可を得て復学することができます。復学期日は４月１日または９月21日です。
・復学前にアドバイザー教員および教務部各課担当者との面談が必要です。復学を考えている場合は、まずは、アドバイザー教員または、教務部各課の職員に相談してください。
※病気による休学の場合は、診断書の提出が必要です。

（3）在学留学

・本学「海外留学をする者の取扱に関する規程」の適用により、外国の大学に留学する許可を得た場合、その期間は休学ではなく、在学のまま留学することができます。そのため、４年間で卒業することが可能となります。詳しくは総合教育課へ相談してください。
※４回生時に留学する場合は、帰国後にさらに修学が必要となる場合があります。

（4）退学

・病気など、やむを得ない事由で退学する場合には、所定の手続きにしたがって退学願を提出して許可を得なければなりません。退学期日は原則として学期末日となります。
・退学期日の属する学期の学費は納入されていなければなりません。
・退学前にアドバイザーおよび教務部各課担当者との面談が必要です。また、退学に関する詳細は、面談時にお伝えします。退学を考えている場合は、まずは、アドバイザー教員または、教務部各課の職員に相談してください。

（5）除籍

・期日までに学費を納入しなかった場合など、本学で決められた条件に該当した場合は除籍となり、学生の身分を失います。
・前期は４月30日までに、後期は10月31日に納入されなければ、学費未納による除籍となります。
※期日までに学費の納入ができない場合、学費延納願を提出し、許可を得なければなりません。延納許可期限は、前期は８月５日、後期は２月５日までです。

（6）復籍

・学費未納や、休学期間終了日までに復学願、退学願または休学願を未提出であり、除籍となった者が、指定された期日までに復籍を願い出た場合、許可することがあります。

・復籍した場合は、除籍時の学部学科、回生、修得単位などをそのまま継続することとなります。

（7）再入学

・退学または除籍となった者が、再入学の出願を行った場合、選考の上、再入学を許可することがあります。詳しくは教務部各課に相談してください。

（8）転学部、転学科、転コースおよび転課程

・入学した学部・学科で学修することが原則です。しかし、特別の事由がある場合は、学則第30条(「特別の事情があるときは、学年の始めに限り選考の上これを許可することができる」)に基づき、転学部、転学科、転コースおよび転課程を認める場合があります。詳しくは教務部各課に相談してください。

5．証明書

在学生の方は、学内に設置された証明書自動発行機にて各種証明書を取得することができます。

（1）証明書自動発行機で発行できる証明書の種類

・在学証明書
・成績証明書
・成績通知書
・学生時間割表
・卒業見込証明書（卒回生のみ）
・資格取得見込証明書（一部資格を除く、卒回生のみ）
・健康診断証明書
・通学定期証明書
・学割証明書

（2）証明書自動発行機の設置場所

管理・特別教室棟２階（学務課カウンター横）

（3）取扱時間

授業期間中の平日　８：45～18：15
休校期間中の平日、授業期間中の土曜日　８：45～17：15
※ただし、健康診断証明書・通学定期証明書・学割証明書は、平日８：45～17：15のみ発行できます。

（4）証明書自動発行機の使用方法

① 証明書自動発行機に、学籍番号とパスワードを入力して、「ログイン」を押す。
② 必要な証明書の「発行通数」を選択して、「印刷」を押す。
③ 証明書自動発行機の下部より証明書が出力されます。

6．学籍と学費

学籍は、所定の納期までに学費を納入することによって各年度ごとに継続していくことになります。学費を納入しない場合は、学則に基づき除籍となり、学生の身分を失うことになります。

（1）学費の納入期日

学費は納入期日までに納入しなければなりません。前期分は４月30日、後期分は10月31日までに所定の振込用紙で納入してください（※納入期日が休・祝日の場合は翌営業日が納入期日となります）。

（2）学費の延納について

何らかの事情で、期日までに納入が困難な場合は、「学費延納願」を学生支援課へ提出して、事前に許可を受けなければなりません。許可なく期日を過ぎて未納の場合は、除籍になります。

延納許可期限　前期分　８月５日
　　後期分　２月５日

第2章　単　位

1．単位とは

本学の教育課程では、各科目について基準で定められている単位を修得し、卒業の要件や資格取得の要件を満たしていくという「単位制」をとっています。

本学では、大学設置基準に基づき、45時間の学習時間を１単位として計算しています。具体的には、授業15時間、自学自習時間（予習・復習時間）30時間で当該科目１単位として構成されています。ただし、科目の性格によっては、授業と自学自習時間（予習・復習時間）の時間構成が異なる場合があります。

なお、１回あたりの授業は90分を基本としていますが、これを２時間で計算しています。したがって、「前期セメスター・２単位」という授業科目は、通常、毎週１回（90分）の授業を前期セメスター中に15週行い、あわせて各自の予習・復習が行われることを意味しています。

2．受講登録～単位の修得について

（1）単位修得の流れ

単位を修得するには、まず科目の「受講登録」を行い、試験結果や平常の評価が合格点に達しなければなりません。

＊学則第13条　授業科目の履修は単位制とし、単位は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して認定する。成績評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。

受講登録 → 授　業 → 成績評価（合格） → 単位修得

3．単位認定について

（1）本学以外で修得した単位等の認定について

次の①～③に該当する場合は、あわせて60単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として認定することができます。なお、対応する科目を既に修得済み、または登録中の場合は認定できません。

①　入学以前に他大学等で修得した単位等の認定

学生が本学に入学する以前に他大学等で修得した単位等は、教育上有益と認められる場合に限り、本学において修得した単位とし認定されます。この単位認定は、本人の申請により行われます。申請は入学年度、４月の受講登録訂正期間の第１日目まで受け付けます。

②　在学中に他大学等で修得した単位の認定および大学以外の教育施設における学修の認定

在学中に他大学等で修得した科目の単位は、本学において修得したものとみなすことができます。該当する科目は次のとおりです。

・「大学コンソーシアム京都」単位互換履修科目
・本学と学術交流協定を締結している提携校（海外を含む）での履修科目
・「海外留学をする者の取り扱いに関する規程」に基づく認定留学による履修科目

また、大学以外の教育施設における学修も、要件を満たせば単位認定されることがあります。

③　技能審査・検定等に合格した場合の単位認定

以下の技能審査や検定に合格した場合も、本学において修得した単位として認定されることがあります。ただし、入学以前に合格したものの申請は、入学年度の定められた時期にのみ受け付けます。単位認定を希望する者は所定の手続きを行ってください。

●申請手続き

・資格取得が入学以前の場合（入学年度のみ）
　申請窓口　教務部各課
　申請期限　入学年度４月の受講登録訂正期間の第１日目まで
　　＊検定合格証（写し）の添付が必要
・資格取得が在学中の場合
　申請窓口　教務部各課
　申請期限　前期セメスター期間　６月末日まで
　　後期セメスター期間　１月末日まで
　　＊検定合格証（写し）の添付が必要

●単位認定可能な技能審査・検定

「技能審査・検定等に合格した場合の単位認定」は、下記のとおりです。

国際化と高度情報化が進展する社会にあって、言語や情報処理機器の運用能力が、ますます重要になっています。認定により、さらに上級をめざし、社会的評価に耐えうる力をつけてください。

・語学関係（英語）

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
実用英語技能検定（英検）	準１級～	8	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB
TOEIC（IP除く）	600～649 650～699 700～749 750～	2 4 6 8	
TOEFL iBT	72～	8	
国連英検	A級	8	
IELTS	5.5～	8	

・語学関係（第二外国語）

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
漢語水平考試（HSK）	１級 ２級 ３級～	2 4 8	中国語Ⅰ 中国語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
中国語検定試験（中検）	準４級 ４級～	4 8	中国語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
韓国語能力試験（TOPIK）	１級 ２級 ３級～	2 4 8	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅰ・Ⅱ 韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
「ハングル」能力検定試験（ハン検）	5級 4級 3級～	2 4 8	韓国語Ⅰ 韓国語Ⅰ・Ⅱ 韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
実用フランス語技能検定試験（仏検）	5級 4級～	2 4	フランス語Ⅰ フランス語Ⅰ・Ⅱ
ドイツ語技能検定試験（独検）	5級 4級～	2 4	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ

・数学関係

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
実用数学技能検定（数検）	2級 準1級～	2 4	数学演習Ⅰ 数学演習Ⅰ・Ⅱ

・情報処理技術関係

対象	級位 スコア等	認定 単位数	認定科目名
Microsoft Office Specialist検定 Word/Excel/PowerPoint	-	各1	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ 情報処理演習Ⅴ 情報処理演習Ⅵ
Microsoft Office Expert検定Word/Excel	-	各1	
日商PC検定試験 （データ活用）／（文書作成）	3級 2級～	1 2	
情報検定　情報活用試験	2級 1級	2 4	
ICTプロフィシエンシー検定試験（P検）	準2級 1級	1 2	
NTTコミュニケーションズ インターネット検定.com Master ADVANCE	★ ★★	1 2	
情報セキュリティスペシャリスト試験	-	4	
ITパスポート試験	-	4	
検索技術者検定	3級	1	

●注意事項

単位認定は、下記に記した規則の範囲内で行います。

・成績評価は「N」で認定されます（素点評価なし／GPAの計算対象外）。

・未修得の科目を、認定単位数の範囲において、履修順序に沿って認定します。

・修得済みまたは履修中の科目については、認定対象外とします。

（2）大学コンソーシアム京都単位互換履修科目

協定参加大学の提供する授業を相互に履修することができる制度です。

基本的に相手校が受講を認めれば履修することができ、合格した科目は、本学の教養教育科目群の単位として認定されます。大学によっては履修登録等の日程や条件が異なり、希望しても履修できない場合があります。また、この結果をうけて、本学の受講登録を変更することもできませんので、通学時間等を十分考慮して履修計画をたてることが必要です。

（3）インターンシップの単位認定

在学中に「本学主催のインターンシップ・プログラム」または「大学コンソーシアム京都主催のインターンシップ・プログラム」を修了した場合、本学における授業科目により修得した単位として認定が可能です。単位が認定されると、成績通知書、成績証明書には「N」と表示されます。

単位認定を希望する者は、所定の手続きを行ってください。

・認定の範囲　本学主催インターンシップ・プログラム、大学コンソーシアム京都主催インターンシップ・プログラム
※ただし、両方のプログラムの単位認定を申請することはできません。

・認定の条件　インターンシップ・プログラム修了認定を受けた者であること。
所定の手続きにもとづき、認定申請を行った者であること。

・認定の方法
下表のとおり

・申請方法　提出書類　単位認定申請書（所定様式）
インターンシップ・プログラム修了証（写し）
提出期限　11月中旬（インターンシップ・プログラム実施前ガイダンスにて指定します。）
提 出 先　キャリアセンター

プログラム	単位数	分野	認定科目	成績評価
① 本学主催インターンシップ				N
（民間企業等）	2	キャリア教育科目群	キャリア開発演習Ⅱ	
（図書館司書）	2	キャリア教育科目群	インターンシップB	
（行政）	2	キャリア教育科目群	インターンシップC	
（NGO・NPO）	2	キャリア教育科目群	インターンシップD	
② 大学コンソーシアム京都 インターンシップ	2	キャリア教育科目群	キャリア開発演習Ⅱ	

4. 卒業に必要な単位

（1）科目構成

卒業に必要な科目は、「要卒科目」と呼ばれ、次の分野に大別できます。

分　野	内　容
基礎教育科目群	大学での学修に必要な基本的な知識やスキルを学びます。
教養教育科目群	社会人として求められる教養を学びます。
キャリア教育科目群	社会人として自立していく準備（就業力の育成）のための将来設計や職業観の構築、社会のルールなどを学びます。
専門教育科目群	各学部・学科の専門的な知識やスキルを学びます。

（2）卒業単位配当表

卒業するためには、４年間以上在学して、学科・コースごとに定められた分野から、必要単位数以上を修得しなければなりません。

（詳細は各コースのカリキュラムマップから確認してください。）

学科	科目／コース	基礎教育科目	教養教育科目 キャリア教育科目		専門教育科目		合計
		必修	必修	選択	必修	選択	
児童教育学科	児童教育	12	3	22以上	56	32以上	125以上
	幼児教育	12	3	22以上	41	47以上	125以上

第３章　受講登録

1. 受講登録とは

受講登録とは、各年度当初の定められた時に、その年度に受講しようとする科目を登録するものです。受講登録は、すべて登録者本人の責任で行います。登録事項に間違いがあった場合、本人がその責を負います。また、登録していない科目の受講はできません。

2. 科目の種類

科目の種類や性格によって、さまざまな呼び方があります。その呼び方は、登録のガイダンスや大学からの連絡時にも使用されるので、理解しておくようにしましょう。

（1）カリキュラム上の種類

①　必修科目

必ず修得しなければならない科目です。あらかじめ登録されており、ポータルサイトの画面では青色で表示されています。

※一度不合格となり、次年度再履修する場合は、自身で登録する必要があります。

②　選択必修科目

決められた科目の中から、規定以上の単位を修得することが必修とされている科目です。自分の興味関心のある科目はもちろん、幅広い知識を身につけることを念頭に置きながら計画的な履修を心がけてください。

③　自由科目

必要または興味に応じて自由に選択することのできる科目です。卒業要件単位には数えません。

（2）受講登録上の種類

①　履修指定科目

必修科目ではありませんが、所属学科の方針や将来のキャリアデザインのために履修が強く推奨されている科目です。原則として削除することはできません。

②　クラス指定科目

必修科目や履修指定科目であらかじめクラスが指定されている場合は、原則的にクラスの変更はできません。

③　抽選実施科目

科目によっては定員を設定しており、その場合はシラバスに定員数を記載しています。登録申請者が定員を超えた場合は教務部各課で抽選を行い、受講者を決定します。抽選にもれた場合は登録が削除されますので、必要に応じて受講登録訂正期間に訂正を行ってください。また、当選した科目の登録を削除（辞退）することはできません。

なお、先の受講登録期間に定員に達さず、追加登録を受け付けた科目の申請者が定員を超えた場合は、追加申請者を対象にあらためて抽選を実施します。

④　定員到達科目

定員に到達した科目は、訂正期間中に追加で登録することができません。教務部各課からの連絡をよく確認するようにしてください。

3. 受講登録スケジュール

登録に関する年間のスケジュールは以下のとおりです。詳細な日にちについては、毎年度、事前に通知されます。教務部各課からの連絡は、必ず確認するようにしてください。

3月中旬	上回生　登録期間※
3月下旬	抽選結果ポータルサイト配信・掲示
4月初旬	新入生登録期間
4月上旬	前期授業開始
4月中旬	受講登録訂正期間
4月下旬	定員到達講義・抽選実施講義結果発表 「学生時間割表」確認期間
9月中旬	後期登録訂正期間
9月下旬	後期授業開始
10月上旬	定員到達講義・抽選実施講義結果発表 「学生時間割表」確認期間

4. 受講登録の流れ

（1）履修計画の立てかた

履修計画は、この『履修の手引き』をよく読んでポータルサイトから配信される各年度のシラバスや時間割を参考にしながら、慎重に行ってください。同時に、クラスアドバイザーや各学科教務委員、教務部各課の職員の指導も参考にしてください。

※シラバスとは「授業計画書」のことで、みなさんがその授業について知り、理解をするためのものです。シラバスを見て、自分が何のために何をどのように学び、何ができるようになるのかを明確化し、具体的にイメージしてみてください。その授業を履修するかどうかを判断しやすくなります。なお、シラバスは本学のホームページから閲覧できます。

（2）受講登録期間

受講登録は以下の手続きで行いますが、「指定された期間に登録・訂正・確認ができなかった」などの責任は全て学生自身の責任となります。この『履修の手引き』や学年暦、掲示や配布物による登録関係の連絡事項に十分注意して、間違いのないように行ってください。

①　登録期間・登録訂正期間（前期）

在学生の登録期間は３月中旬、新入生は４月初旬です。後期科目についても登録期間に一括して登録しなければいけません。登録期間後に登録訂正期間を設けていますので、科目の追加や削除ができます。ただし後期の科目を後期登録訂正期間の時に登録しようとしても、定員到達や抽選（13ページ参照）のため、登録できないことがあります。年間の履修計画を登録期間にしっかり立てるようにしましょう。

②　登録訂正期間（後期）

前期に行った登録のうち、後期科目の追加・削除ができますが、通年科目や秋期集中科目の追加・削除はできません。

（3）登録申請

登録はWeb上のポータルサイトから行いますが、登録期間以外は登録画面に入ることができません。また、ポータルサイト上にある「受講登録マニュアル」を確認してから受講登録を行うようにしてください（25ページ参照）。

（4）登録申請科目の確認

前期・後期ともに、登録期間終了後に時間割確認期間を設けています。これは、自身がどのような科目を登録したかを確認するための期間です。

受講登録期間に登録した内容は、ポータルサイト「受講確認」画面、また学務第２課横に設置のパソコンから印刷できる「学生時間割表」に随時反映されますが、抽選対象となる科目もあり、最終確定版ではありませんので注意してください。

5. 受講登録上限

学修すべき科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的として、各回生で登録できる単位数の上限を設けています。登録の際は、この上限単位数を超えて登録することはできません。

なお、本学以外で修得した単位等で申請により認定された単位（８ページ参照）およびインターンシップの単位認定は、上限の対象外とします。

要卒単位・資格関係科目	1回生	2回生	3回生	4回生
発達教育学部	51	54	48	48

6. 注意事項

（1）配当回生

各科目には履修できる回生が決められており、履修するには自身の回生が配当回生に達している必要があります。例えば、３回生の学生が１回生配当の科目を履修することはできますが、１回生の学生が３回生配当の科目を履修することはできません。

（2）重複履修

すでに単位を修得済みの科目を、もう一度登録することはできません。また、同一学期の同一講時に、２つ以上の科目を重複して登録することはできません。集中講義を複数登録する際は、授業日程に重複がないか、自身でよく確認を行ってください。

※教務部各課での日程重複のチェックは行いません。重複する科目の受講登録を行った場合、一方の科目に出席できなくなり、単位を修得できません。

（3）他学部・他学科科目の履修

資格取得などの関係により、所属する学部以外の科目を、一部の科目を除いて随意科目（要卒単位外）として履修できることがあります。希望する場合は、受講登録期間中に教務部各課へ申し出てください。

（4）秋期集中科目、通年集中科目の登録・削除

８月下旬～９月中旬の間に行われる「秋期集中科目」と、前後期通して不定期に行われる「通年集中科目」は、９月の後期登録訂正期間での登録・削除を認めていません。前期の登録訂正期間までに登録・削除をおこなってください。

（5）前提科目の合否と履修制限

科目によっては、「Ａ科目の単位を修得済みでないとＢ科目を受講登録できない」などの制限がある場合があります。『履修の手引き』でよく確認してください。

（6）登録に関する質問

『履修の手引き』『受講登録の注意事項』『履修ガイダンス等での配布資料』を読んでも、分からなかった場合の質問は、以下いずれかの方法にて受け付けます。

①教務部各課窓口にて『受講登録に関する質問票』を提出する。

②教務部のメールアドレス（academic@tachibana-u.ac.jp）へメール送信する。

※件名は、「【登録の質問】学籍番号・氏名・○○○○について」としてください。

7．履修辞退

登録した科目の履修ができない、また、履修を継続できない特別の理由が生じた場合、下記の条件で履修辞退を認めることがあります。許可された場合は、その科目の成績評価はGPAの計算対象外となり、「成績通知書」には履修辞退を表す「W」が表示されます。

また、履修辞退が許可された場合、辞退した科目の単位数分の科目を受講登録訂正期間に追加登録することができます。「履修辞退」の申請要領は、下記のとおりです。

（1）申請理由　以下の理由により、受講が困難となる場合を原則とします。

① 病気・事故による入院または加療

② 日時を指定された通院

③ 実習・介護等体験・インターンシップと集中講義との日程重複

（2）申請期間

各セメスター、学年暦上の授業終了日まで

※集中講義については、各集中講義期間の最終日まで申請を受け付けます。

（3）受付時間

教務部各課窓口時間

（4）提出先

教務部各課のカウンターで申し出てください。

（5）申請書類

以下の書類を一式として申請時に提出してください

① 所定の申請書（教務部各課前レターケース）

② 学生時間割表

③ 辞退理由を証明する書類

※病気等が辞退理由の場合は診断書、公募型インターンシップの場合は「理由書」が別途必要です。

第４章　授業・試験

1．セメスター（学期）

１年を２学期に分け、４月１日から９月20日までを前期セメスター（春学期）、9月21日から3月31日までを後期セメスター（秋学期）としています。授業は各15週、年間35週（ガイダンス、集中講義等を含む）を原則としています。

授業科目はこれによって、原則的に各セメスターで完結します。開講形態としては、週１回の授業を行うものと、週２回行うもの、曜日講時を固定せず、不規則に行うものとに大別されます。

ただし一部科目は、通年制をとるものがあります。

2．授業時間

授業は原則として、月曜日から金曜日まで行います。ただし、一部の授業は土曜日に実施されることがあります（図書館など大学の業務は一部行っています）。

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時
9：00～10：30	10：45～12：15	13：00～14：30	14：45～16：15	16：30～18：00	18：10～19：40

3．各種講義

（1）個別の日程で行われる講義

「毎週○曜日△講時」という決まった枠で行われない講義があります。一定の連続した期間や、不規則な日程で行うものがあり、それらをまとめて「集中講義」としています。

ポータルサイトの「時間割個別日程表」で講義日程を確認することができます。

（2）振替授業

授業担当教員の判断で、通常の授業のかわりに、他の催し等への参加をもって授業への出席とみなすものです。（ポータルサイトで連絡します。）

（3）ｅラーニング講義

ｅラーニング講義として開講する科目があります。インターネットによるビデオ視聴となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。

ビデオ視聴の際は、Internet Explorer、Google Chromeなどの推奨されたブラウザを使用してください。

4．休講と補講

大学または授業担当教員のやむを得ない事由により、授業を休講することがあります。休講連絡はポータルサイトで行います。

休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても授業担当教員が入室しない場合は、教務部各課に連絡して指示を受けてください。休講についての電話照会には応じません。

休講した授業は、必ず補講が実施されます。また、試験実施など、授業担当教員の判断で補講を行うことがあります。補講連絡はポータルサイトで行います。

5．臨時休講措置

次の①②③のいずれかに該当する場合、授業は休講となります。

①暴風警報もしくは暴風雪警報または特別警報が京都市または京都市を含む地域に出された場合

②台風等の災害やストライキ等のために京阪バス（山科・醍醐地域系統）と地下鉄東西線が両方とも不通になった場合

③下記の４交通機関のうち、３交通機関以上が不通の場合

JR西日本（大阪から草津を基準とします）

阪急電車（京都線梅田から四条河原町を基準とします）

近鉄電車（京都から橿原神宮前を基準とします）

京阪電車（本線・淀屋橋から出町柳を基準とします）

※上記の暴風警報等の解除・交通機関の開通の場合は、次の原則で授業を開始します。

ａ．午前６時30分までに解除・開通になった場合は平常通り授業を行います。

ｂ．午前10時までに解除・開通の場合は第３講時（13時）から授業を行います。

ｃ．午前10時を過ぎても解除・開通しない場合は全日休講となります。

6．出席・欠席

（1）出席管理について

入学時に出席管理用の学生証を配布しています。授業に出席した時には、カードリーダーに学生証をかざしてください。

学生証に関する質問等は、下記へ申し出てください。

・授業時に忘れた場合や出席・欠席の情報の間違い　→　授業担当教員

・紛失や破損・磁気不良（読み取りが出来ない等）　→　学生支援課

なお、授業担当教員の判断により、カードリーダー利用に加えて、別の方法で出席確認を実施する場合があります。

（2）欠席について

本学では、単位制度の考え方に基づき、授業はすべて受けることを前提とし、欠席した分の学修は自分で進めることを基本としています。やむを得ず授業を欠席する（した）場合は、自分の意志でその理由等について「欠席連絡票」を用いて担当教員に報告し、指導を受けてください。

※欠席の取り扱いは科目によって異なります。

※わずかな欠席でも単位修得が認められない科目もあります（シラバス参照）。

※「欠席連絡票」は、事由の発生前または発生後すみやかに担当教員へ申告してください。

第５章　成　績

1．成績評価

（1）評価種別

成績評価は、点数により評価し、評点と評価記号により通知します。評点は100点満点で、60点以上が合格で単位が認められます。59点以下の科目は不合格であり、単位は認められません。本学以外で修得した単位等が認定された場合、認定の種類に応じて評価記号が異なります。

評価方法	評価記号	評　点	ポイント	合　否	GPA算出対象
点数評価	S	100～90	4	合格	対象
	A	89～80	3	合格	
	B	79～70	2	合格	
	C	69～60	1	合格	
	D	59～0	0	不合格	
単位認定	T	あり	点数評価に準拠	合格	対象
	N	なし	なし	合格	対象外
	H	なし	なし	合格	対象外
評価外	W	なし	なし	履修辞退	対象外
	Y	なし	なし	履修条件未達	

※成績証明書には、合格科目の評価記号のみが記載されます。

（2）評価方法と項目

成績評価は、学習者が授業の到達目標をどの程度達成したかを確認するものです。科目や授業を担当する教員によって、評価方法や評価基準がことなります。評価方法・評価基準は、シラバスに記載されています。

評価項目は、「試験・レポート」、「小テスト」、「授業中課題」、「授業中発表等」、「参加度」の５つで、合計100％で配分されています。

成績評価方法	項目の説明
試験・レポート	期末に行われる、授業のまとめとして実施するテスト・レポート。
小テスト	授業中に任意の時期に実施する小テストなど。
授業中課題	授業中に提出を求める課題や、コミュニケーション・ペーパー、コメントシート、授業期間中の任意の時期に提出を求める小レポートなど。
授業中発表等	授業中のプレゼンテーション、制作発表やディスカッション内容、実技、実習など。
参加度※	出席率や、学生の授業への参加態度、積極性、クラスへの貢献度など。

※参加度とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したものです。授業に全回出席しても、参加度分の点数を獲得できるわけではありません。

2．不正行為の禁止

不正行為とは、成績評価の対象となる事項について正当でない手段をもって、自己または他人の便宜をはかる行為のことを指します。学生としての本分を守り、単に不正行為を行わないだけでなく、誤解を与えるような紛らわしい行為を行わないように十分注意してください。不正行為となる一例は、以下のとおりです。

（1）不正行為の例

①　試験などで指定された物品以外を使用する

②　試験などで監督者の指示に従わない

③　他人と答案や提出レポートを交換する

④　他人の答案をのぞき見する
⑤　他人の提出レポートを写す

（2）不正行為が発覚した場合

試験、レポートなどにおいて不正行為を行ったと認められた場合は、懲戒処分にするとともに、その学期に履修しているすべての科目の成績を「0点」とします。この単位不認定により、単位修得状況によっては4年間での卒業ができなくなることがあります。

3．試験における注意事項

試験については、以下の点に注意して受験してください。

（1）座席を指定された科目については、指定された席で受験してください。座席表は、教室入り口に掲示します（座席を指定しない場合もあります）。
（2）「学生証」の提示を指示された場合は、机上に写真面を上に提示してください。「学生証」を試験当日に忘れた場合は、試験監督に申し出て、指示に従ってください。
（3）「学生証」を忘れ、「仮学生証」が必要になった場合は、学生支援課に申し出てください。発行日および有効期限は試験日当日のみです。
（4）試験場では、試験のために必要な筆記用具および特に許可されたもの以外の携帯品は鞄等の中にしまってください。また、携帯電話やその他電子機器類は必ず電源を切った上で、鞄等にしまってください。
（5）試験開始後の入室、退室については、試験監督の指示に従ってください。
（6）一切の不正行為を厳禁とします。不正行為を行ったと認められる場合は、該当する学期の全ての受講登録科目の成績を『0点』とします。
（7）上記の他、試験場では試験監督の指示に従ってください。
（8）試験の受験にあたっては、不正行為はもちろんのこと、不正行為と誤解を招く行為についても十分注意してください。

4．成績通知

（1）通知時期

成績は、前期終了後（9月上旬～）と後期終了後（ 3月上旬～）に通知します。卒業回生の卒業判定結果については、 2月末に通知します。

一部科目においては、授業スケジュールの関係上遅れて通知することがあります。別途連絡があるので、確認するようにしてください。

（2）通知方法

学務課カウンター横の証明書自動発行機から「成績通知書」を各自出力して、確認してください。なお、ポータルサイトで確認することも可能です。また、父母へは、学生への通知日と同日に郵送で通知されます。

5．成績疑義

（1）成績疑義とは

成績通知を受けた学生が、不合格科目の結果について再確認を求めることができる制度です。対象の科目が不合格の場合（評価59点以下）に該当します。定められた期間に教務部各課まで申し出てください。

この制度は、成績訂正を求める制度ではありません。与えられた点数についての不服申し立てなど、疑義の内容によっては受付けることができませんので、ご注意ください。

（2）成績疑義の流れ

所定の申請用紙に記入後、教務部各課に提出してください。申請用紙は、教務部各課のカウンターにあります。

回答は教務部各課から口頭で伝えられます。内容によっては、すぐに回答ができないことがあります。その場合は、追って連絡があります。

6．GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

（1）GPAとは

GPAとは、「学業成績の平均点」のことです。修得単位数の水準を知るうえでの指標となります。S～Dの評価記号に応じて、それぞれ0～4ポイントが付与されます。

（2）GPAの活用方法と算出対象

GPAは、履修指導の対象者、資格課程、奨学金などの選抜に活用されることがあります。

算出の対象については、19ページの「評価種別」の表を確認してください。なお、過去に不合格となり、再履修後に合格となった場合、不合格科目はGPAの計算から除外されます。

算出方法については、以下の計算方法となります。

$$GPA = \frac{\text{（履修登録した科目のうちGPA算出科目の単位数×当該科目のポイント）の総和}}{\text{履修登録した科目のうちGPA算出科目の総単位数}}$$

7．修学支援について

各クラスにはクラスアドバイザーが配置されており、日常的に履修、学習上の相談や助言を行っています。履修にあたって聞きたいことなどがあれば、積極的にクラスアドバイザーに相談してください。また、各学期の単位修得状況や出席状況などによって一定の基準を設け、必要に応じてクラスアドバイザーからの面談等を行っています。

新しい学年が始まる前には学科ごとに「履修ガイダンス」を実施します。次年度の履修計画を立てる際に必要となる重要な事項を連絡しますので、必ず出席してください。履修ガイダンスの日程は毎年度ポータルサイトを通じて連絡します。

8. 成績通知書の見かた

成 績 通 知 書

a1020XX001　橘　太郎　　通常
学年クラス：４回生　　d
所　　属：文学部日本語日本文学科日本語日本文学コース
発 行 日：2016年○月×日

（1 / 1）

①

科　目　名	単 位	評 価	修得期
基礎教育科目・必修			
日本語表現Ⅰ	2	89 A	2013 前期
日本語表現Ⅱ	2	91 S	2013 後期
キャリアコミュニケーションⅠ	2	93 S	2014 前期
キャリアコミュニケーションⅡ	2	90 S	2014 後期
英語ⅠA	1	78 B	2013 前期
英語ⅠB	1	76 B	2013 前期
英語ⅡA	1	72 B	2013 後期
英語ⅡB	1	73 B	2013 後期
情報処理演習Ⅰ	1	100 S	2013 前期
情報処理演習Ⅱ	1	86 A	2013 後期
教養教育科目／キャリア教育科目・必修			
教養入門	2	95 S	2013 前期
キャリアデザイン入門	2	73 B	2014 前期
教養教育科目／キャリア教育科目・選択			
人間と知の伝達領域			
現代の思想分野			
日本人と宗教	2	100 S	2013 後期
メディアと情報分野			
現代のメディアと表現	2	82 A	2016 前期
数学演習Ⅰ	2	N認定	2013 前期
数学演習Ⅱ	2	N認定	2013 後期
人間と文化領域			
外国語と文化理解分野			
比較文化論	2	95 S	2013 前期
異文化コミュニケーション論（人文）	2	84 A	2013 後期
芸術と文化	2	96 S	2013 前期
中国語Ⅰ	2	99 S	2013 前期
中国語Ⅱ	2	96 S	2013 後期
中国語Ⅲ	2	59 D	2016 前期
人間と社会領域			
法律・行政・政治分野			
法学概論Ⅰ	2	75 B	2013 前期
経済・経営・社会分野			
家族の心理・社会学	2	67 C	2013 後期
時事問題研究	2	93 S	2013 後期
人間と自然領域			
自然と環境分野			
地球環境論	2	100 S	2015 前期
エコロジー研究	2	85 A	2013 前期
キャリア科目・選択			
キャリア開発演習Ⅰ	2	92 S	2014 後期
キャリア開発演習Ⅲ	2	83 A	2014 後期
よそおいの心理学	2	81 A	2014 前期
広告心理学	2	82 A	2016 前期
生涯学習概論Ⅰ	2	70 B	2014 前期
博物館学概論	2	86 A	2013 前期
博物館経営論	2	80 A	2014 後期
博物館資料論	2	72 B	2014 前期
博物館資料保存論	2	91 S	2014 前期
博物館展示論	2	85 A	2014 後期
博物館教育論	2	93 S	2013 後期
博物館実習Ⅰ	1	95 S	2015 前期
博物館実習Ⅱ	1	90 S	2015 後期
専門教育科目・必修			
研究入門ゼミⅠ	2	76 B	2013 前期
研究入門ゼミⅡ	2	85 A	2013 後期
基礎演習Ⅰ	2	89 A	2014 前期
基礎演習Ⅱ	2	83 A	2014 後期
日本語日本文学演習Ⅰ	2	85 A	2015 前期
日本語日本文学演習Ⅱ	2	85 A	2015 後期
日本語日本文学演習Ⅲ	2	90 S	2016 前期
専門教育科目・選択			
区分１			
日本語学概説Ⅰ	2	63 C	2013 前期
日本語学概説Ⅱ	2	77 B	2013 後期
区分２			
日本語日本文学講読ｅ（平安文学研究Ⅰ）	2	75 B	2014 前期
日本語日本文学講読ｆ（平安文学研究Ⅱ）	2	93 S	2014 後期
日本語日本文学講読ｇ（古典文学研究Ⅰ）	2	75 B	2014 前期
日本語日本文学講読ｋ（現代文学研究Ⅰ）	2	77 B	2014 前期
日本語日本文学講読ｌ（現代文学研究Ⅱ）	2	90 S	2014 後期
日本語日本文学講読ｍ（メディア・表現研究Ⅰ）	2	78 B	2014 前期
日本語日本文学講読ｎ（メディア・表現研究Ⅱ）	2	61 C	2014 後期
日本語日本文学講読ｐ（文芸創作実習）	2	88 A	2014 後期

科　目　名	単 位	評 価	修得期
区分３			
日本語日本文学特講ｅ（京都と文学）	2	90 S	2015 前期
日本語日本文学特講ｆ（女性文学研究）	2	80 A	2015 後期
日本語日本文学特講ｉ（近代文学研究Ⅲ）	2	80 A	2015 前期
日本語日本文学特講ｊ（近代文学研究Ⅳ）	2	75 B	2015 後期
日本語日本文学特講ｋ（現代文学研究Ⅲ）	2	70 B	2015 前期
日本語日本文学特講ｌ（現代文学研究Ⅳ）	2	95 S	2015 後期
日本語日本文学特講ｍ（メディア・表現研究Ⅲ）	2	86 A	2015 前期
日本語日本文学特講ｎ（メディア・表現研究Ⅳ）	2	94 S	2015 後期
その他選択必修科目			
日本美術史Ⅰ	2	100 S	2015 前期
日本美術史Ⅱ	2	71 B	2015 後期
文化史・文化交流史Ⅰ	2	93 S	2014 前期
文化史・文化交流史Ⅱ	2	93 S	2014 後期
古都学Ⅰ	2	74 B	2015 前期
古都学Ⅱ	2	93 S	2015 後期
資格関係科目			
博物館情報・メディア論	2	85 A	2014 後期
** 合計 **	136		

②

単 位 修 得 状 況	必要単位	修得単位
基礎科目・必修	14	14
教養／キャリア・必修	4	4
教養／キャリア・選択	44	44
人間と知の伝達	4	8
人間と文化	4	10
人間と社会	4	6
人間と自然	4	4
キャリア科目・選択		24
専門科目・必修	22	14
専門科目・選択	40	40
区分１	4	4
区分２	16	16
区分３	16	16
その他選択必修科目から		12
【卒業所要単位合計】	124	116
資格関係科目		2
随意科目		16
卒業判定	△	

③

免 許 ・ 資 格 等	判 定
博物館学芸員	△

④

G P A セ メ ス タ 期	
累計	3.0
2013年度(前期)	2.9
2013年度(後期)	3.0
2014年度(前期)	2.6
2014年度(後期)	3.2
2015年度(前期)	3.1
2015年度(後期)	3.2
2016年度(前期)	3.4
2016年度(後期)	

⑤ 現在認定されている単位数は合計　4単位です。
（ただし、Hの認定は除く。）

①　履修科目別単位・成績（評点・評価記号）・履修年度記載欄

履修したすべての科目（合格科目・不合格科目・履修辞退した科目）の単位・成績（評点および評価記号）・履修年度および履修学期が表示されます。

②　単位修得状況・卒業判定欄

卒業に必要な単位数に加えて、各自が修得した単位が分野別に集計して記載されます。分野ごとの修得単位数が記載されます。

卒業要件単位として集計されない単位は、随意科目の集計欄に表示されます。

卒業回生（４回生以上）には下欄に卒業見込判定を記載しています。修得済み単位および履修中単位数の合計が卒業要件単位数を満たしている場合は卒業見込を表す「△」が標示され、卒業要件単位数が足りていない場合は、卒業不可を表す「×」が表示されます。

なお、卒業決定時には「△」のかわりに、「○」が表示されます。

③　免許・資格の取得状況を表示するエリア

取得（または受験）可能な資格の取得状況を記載します。記号の意味は、卒業判定欄と同じです。

④　GPAを表示するエリア

入学から成績通知書作成時点までの累計およびセメスターごとのGPAを表示します。

⑤　単位認定によって修得した単位を表示するエリア

単位認定によって修得した合計単位数を表示します。

1．ポータルサイト

1　はじめに

ポータルサイトでは受講登録や授業の教室、時間割やシラバスの確認をはじめ、休講・補講掲示の確認や大学からの重要な連絡事項の確認などを行うことができます。

（1）機能一覧

タブ名称	機能名	機　能
ポータル	メッセージ	大学からの連絡を確認します。
	教務情報参照	時間割や教室の確認授業の休講・補講、教室変更情報や授業に関する連絡を確認します。
履修	受講登録	受講登録を行います。
	成績照会	成績を確認します。
シラバス	検索する	シラバスを検索します。
	お気に入り	お気に入りに登録したシラバスを閲覧します。

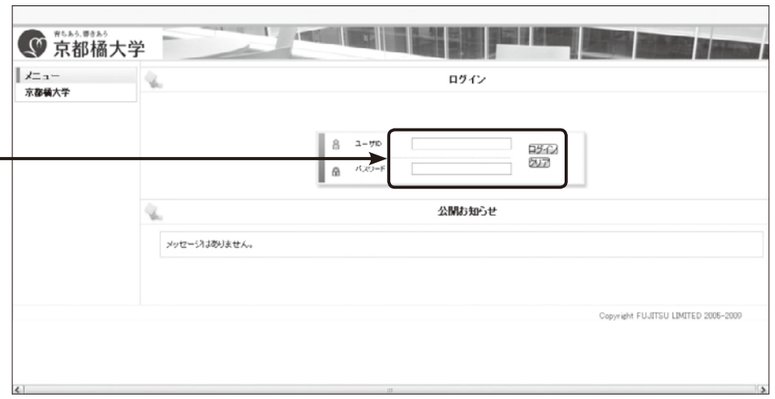
（2）ログイン

ポータルサイトを利用するにはログインを行う必要があります。

※ポータルサイトのID・パスワードは入学時に配布されます。無くさないようにしてください。

① 京都橘大学HPより「在学生の方へ＞ポータル1,2,3」と進み、ポータルサイトを開きます。(https://portal1.tachibana-u.ac.jp/portal/top.do)

② 「ユーザID」「パスワード」を入力し、「ログイン」ボタンを押します。



※ポータルサイトへログイン中は、ブラウザの「戻る」ボタンを使用しないでください。

2　受講登録

受講登録とは、各年度当初の定められた時に、その年度に受講しようとする科目を登録するものであり、受講登録は年間の受講科目を定める重要な作業です。

受講登録はポータルサイトから行います。このマニュアルをよく読んで、入力間違いや登録漏れがないようにしてください。

卒業要件を満たすためにはどの科目を受講すれば良いのか、「履修の手引き」や「受講登録注意事項」を参考にして、よく考えてから登録を行ってください。

（1）受講登録を行う

受講登録の手順は以下のとおりです。なお、入力ミスや誤って別の画面に移動してしまったなどして、**前のページに戻りたい場合は、画面内にある「戻る」をクリックしてください。**ブラウザバック（インターネット画面の左上の「←」）のボタンを押すと、**エラーになり、入力した内容が消えてしまいますので、注意してください。**万が一、エラーになってしまった場合は、ポータルサイトへのログインからやり直す必要があります。

① 画面上部のタブより「履修」を選択します。

② 画面左側のメニューより「受講登録」を選択します。

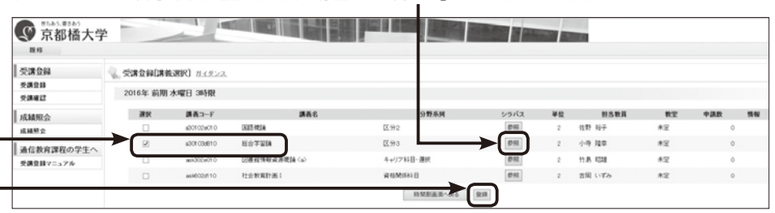
③　受講登録を行う曜日・時限の鉛筆ボタンをクリックします。

必修科目など、必ず受講しなければならない科目はあらかじめ登録されています。それらは青色で表示され、削除することはできません。

後期の科目を登録するには時間割表の上部にある「後期へ」をクリックします。

④　鉛筆ボタンをクリックすると、その時限での履修可能科目が表示されるので、**受講したい科目のチェックボックスにチェックを入れ、「登録」ボタンをクリックします。**

シラバスの記載事項を確認したい場合は、「参照」をクリックします。



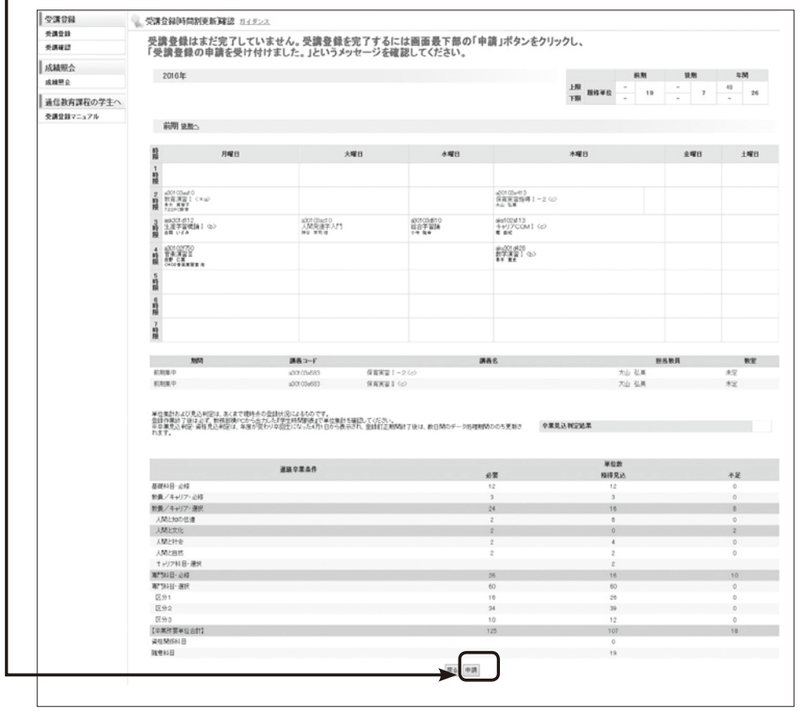
⑤　「登録」ボタンを押すと、先ほど選択した講義が時間割表に黒で表示されます。選択した科目が正しく反映されていることを確認してください。**この段階ではまだ登録は完了していませんので、注意してください。**

⑥　③～⑤の手順を繰り返し行って、受講登録作業を進めていきます。

全ての科目を登録し終えたら、「確認画面へ」のボタンをクリックします。

⑦　「確認画面へ」のボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。**登録をした科目が全て反映されているかを確認した上で、「申請」ボタンをクリックします。**「申請」ボタンをクリックすると、「申請してもよろしいですか？」と最終確認の画面が出ますので、「はい」をクリックします。

「申請」ボタンをクリックしない限り、受講登録を完了したことにはなりません。
なお、登録期間中は何度でも申請することが出来ます。

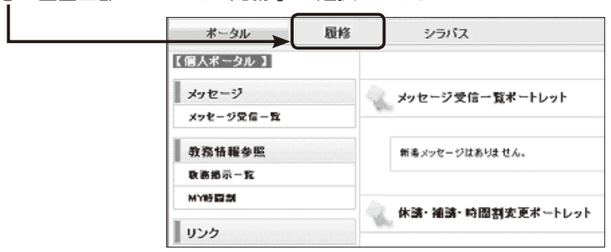


（2）受講登録した科目を確認する

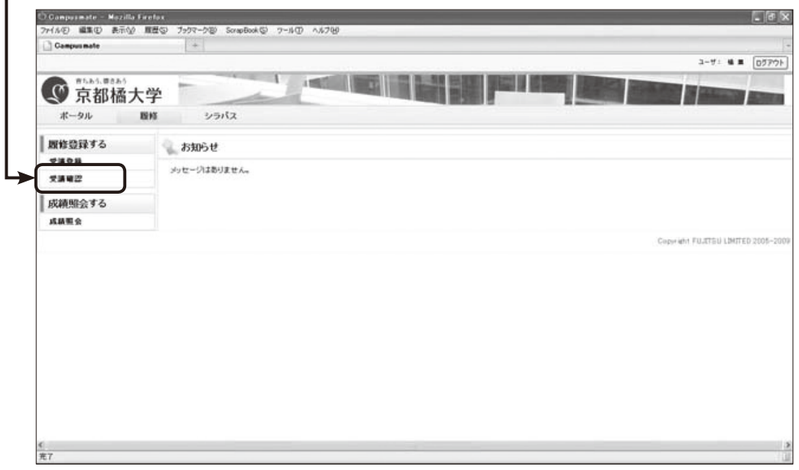
登録作業を行っている際に**インターネットの接続状況が不安定だったり、通信中・ページ移動中に画面を閉じてしまったりすると、受講登録の申請ができていないことがあります。**

これらの不具合による受講登録の未申請を防ぐため、**受講登録を終えた後は、必ず受講確認画面を見るようにしてください。**受講確認画面の見かたは、以下のとおりです。

① 画面上部のタブより「履修」を選択します。



② 画面左側メニューより「受講確認」をクリックします。



③ 受講登録の申請が問題なく完了している場合は、登録した全ての科目が時間割表に表示されます。また、画面上部の「最終申請日時」に申請ボタンを押した日時が表示されます。

「最終申請日時」に日時が表示されていない場合は、受講登録が完了できていません。５ページに書かれている手順を再度行ってください。なお、「受講確認」メニューは、受講登録期間中に使用するものです。受講登録期間終了後は、「MY時間割」より確認してください。

※受講確認画面に表示される科目は、**「受講登録申請」をした科目**です。**抽選等により、実際の受講科目は変更される場合があります。**

最終的な受講科目は、**時間割確認期間中に「学生時間割表」で必ず確認するようにしてください。**学生時間割表は、学務第２課カウンター横にある証明書発行端末から出力できます。

3　メッセージ転送

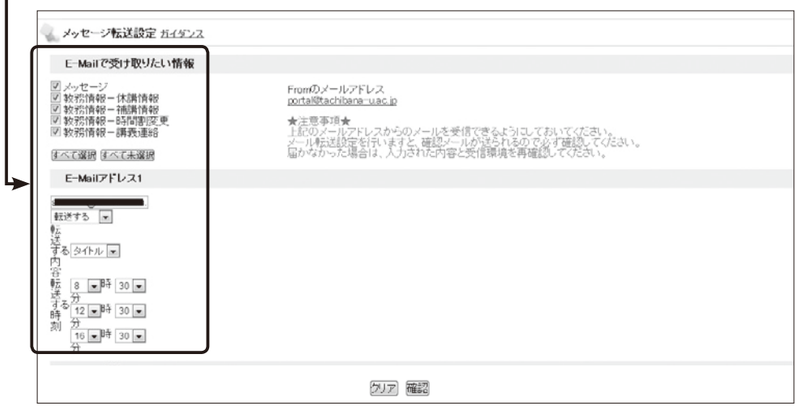
メッセージおよび教務掲示に配信される情報は、任意のアドレスへ転送することができます。

① 左側のメニューより「メッセージ転送設定」を選択します。
※「ポータル」が選択されていない場合は、画面上部のタブより「ポータル」を選択します。

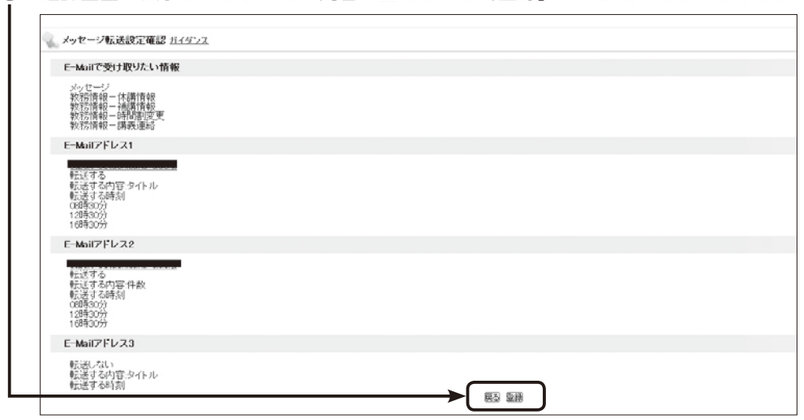
② それぞれの項目に値を設定し、「確認」ボタンをクリックします。

・E-Mailで受け取りたい情報
転送したい情報にチェックを入れます。

・E-Mailアドレス
転送先のアドレス、転送する内容（タイトル、またはメッセージの件数）、転送時刻を指定します。アドレスは最大３つまで設定できます。



③ 確認画面が表示されますので、内容が正しければ「登録」ボタンをクリックします。



※転送設定を登録するとportal@tachibana-u.ac.jpから登録したメールアドレスへメッセージが送られます。メッセージが受信できない場合は再度入力内容を確認してください。

※携帯電話などに転送する場合は、portal@tachibana-u.ac.jpからのメールを受信できるように設定してください。

2. 学習支援システム KT-note

本学では、学生のみなさんが主体的・積極的な学習姿勢を獲得することを支援するとともに、教職員によるより適切な学習支援に役立てるために学習支援システムKT-noteを運用しています。

KT-noteでは、①授業のレポートや課題を提出する、②各種アンケートに回答する、③自身の学習状況を確認する、といったことができます。KT-noteでは、出席状況や単位修得状況などとあわせて、いつでも自身の学習状況を確認することができるようになっています。このシステムを利用し、自身の学習の振り返りと学習計画立案のツールとして活用してください。

なお、KT-note では、教職員による学生支援に活かすことを目的として、みなさんの学修の記録をはじめ、従来から大学で管理していた成績情報や面談記録などを管理し、必要に応じて関係する教職員で共有しますが、閲覧権限は厳格に管理しており、学生の学修指導以外の目的には利用しません。

（1）ログイン

QRコードを読み込み「KT-note」へアクセスします。
https://portfolio.tachibana-u.ac.jp/

HPの「在学生の方へ」からもアクセスできます。

ID、パスワードを入力し、ログインボタンをクリックします。ID、パスワードはポータルサイトと同じです。

（2）トップページ

トップページには未確認の授業中課題、レポートや実施中のアンケートが表示されます。

（3）提出物の確認

「確認する」や「回答する」をクリックすると、それぞれの授業中課題、レポートなどの提出物やアンケートに回答することができます。授業資料の確認もここからすることができます。

「過去の○○を見る」をクリックすると、既に提出した提出物や授業資料を確認することができます。

（4）基本情報の確認

大学に登録されているさまざまな情報を確認することができます。「出席情報」からは出席カードの読み取り状況を、「提出物情報」からは過去の提出物をすべて確認することができます。過去の自分の学習状況を振り返ることができますので、定期的に確認すると良いでしょう。

3. 学習支援アプリ educa（エデュカ）

本学では、学生のみなさんがスマートフォン等を使用し、スキマ時間を利用した学習支援に役立てるために学習支援アプリ educa（エデュカ）を運用しています。

educa では、①授業の予習復習ドリルを行う②授業の予習復習資料を閲覧する③授業の予習復習動画を閲覧する、といったことができます。このアプリを利用し、習慣的な学習ツールとして活用してください。

なお、educa では、教職員による学生支援に活かすことを目的として、みなさんの学習状況に関する記録を管理・共有しますが、閲覧権限は厳格に管理しており、学生の学習指導以外の目的には利用しません。

（1） ダウンロード

① iOS 対応スマートフォンの方は Appstore、Android 対応スマートフォンの方は GooglePlay へアクセスします。

② 「educa」と検索し、京都電子計算株式会社（Kyoto Information Processing Service co .ltd）提供のアプリを選択し、ダウンロードします（無料）。

※ 類似する名前のアプリが複数ありますので、注意してください。

（2） ログイン

① アプリ立ち上げ後、教育機関コード入力画面になりますので、６桁の数字【012194】と入力します。

② ユーザーログイン画面になりますので、ポータルサイトで使用しているものと同じ ID とパスワードを入力します。

（3） トップページ・科目コンテンツ選択画面

トップページには課題が出ている科目など、あなたが取り組むことができる科目が表示されます。

（4） 単元選択画面

科目もしくはコンテンツを選択すると、学習する単元が表示されますので、学習したい分野を選択し、学習をはじめます。

第７章　海外留学

本学では、海外留学を通じて学生が国際的視野を広め、異文化理解を深めることを期待して、さまざまな海外留学の機会を設けています。海外留学に関する業務は「総合教育課」（リバティホール１F）で取り扱っています。

制度	対象学部・学科
交換留学・認定留学・各種海外研修	全学部・全学科 ※各学部・学科・コース主催研修は所属生のみ
SAP （スタディー・アブロード・プログラム）	・国際英語学部 ・現代ビジネス学部経営学科 ※経営学科生の場合は、半年プログラムのみ

◉長期留学制度

1. 交換留学制度

（1）制度

本学と交換留学協定を締結している下記の大学へ約１年間留学する制度です。留学期間は在学期間に算入されます。

（2）単位

・留学期間中に修得した単位は８～12ページの単位認定とあわせて、60単位を上限として本学の卒業に必要な単位として認定されますので、４年間で卒業が可能です。
・４回生時に留学する場合は、帰国後さらに修学が必要となる場合があります。

（3）派遣先大学

国名	派遣先大学	人数	本学学費	海外学費	海外寮費	滞在費	派遣時期
オーストラリア	ラ・トローブ大学	2	要納入	免除	自己負担	自己負担	2月～11月
カナダ	オカナガン大学	1	要納入	免除	自己負担	自己負担	9月～5月
中国	西北大学	1	要納入	免除	免除	自己負担	3月～1月
韓国	カトリック大学	2	要納入	免除	免除	自己負担	3月～12月
	慶熙（きょんひ）大学	1	要納入	免除	免除	自己負担	3月～2月

ラ・トローブ大学

オカナガン大学

西北大学

カトリック大学

慶熙（きょんひ）大学

（4）募集、応募

- 交換留学生の募集は、例年１月頃から掲示およびポータルサイトで通知します。
- 応募時にTOEFLスコア等の一定の書類が必要となりますので、早期から窓口で相談・質問することや、留学説明会・留学生帰国報告会へ出席するなど、計画的な準備が必要です。

2．認定留学

（1）制度

海外姉妹校・協定校以外の大学でも、正規の高等教育機関（大学に相当）であれば「正規留学」することができます。この場合、各人は希望する海外大学に自分で出願手続きをし、入学許可書を取得しなければなりません。先に留学希望者が取得した単位等を本学が後から認定するため、この留学制度を「認定留学制度」と呼びます。

（2）単位

- 留学期間は在学期間に算入され、留学期間中に修得した単位は、60単位を上限として本学の卒業に必要な単位として認定されますので、４年間で卒業が可能です。
- ４回生時に留学する場合は、帰国後さらに修学が必要となる場合があります。

（3）認定基準

- 本学海外協定校と同等、またはそれ以上のレベルの大学であることが必要です（本学協定校は後述の「◎協定校一覧」を参照）。
- 留学先の大学で、語学以外の正規科目を１科目以上履修し、単位を取得する必要があります。語学学校等での語学学修のみでは認定留学と認めていません。
- 認定留学中は、本学の一部学費が免除されることがあります。
- このケースで留学を希望する者は、事前に具体的な資料を揃えて、総合教育課で早期に指導を受けてください。

国名	派遣先大学	人数	本学学費	海外学費	海外寮費	滞在費
特定しない	正規の高等教育機関（大学は特定しない）	制限なし	要納入	自己負担	自己負担	自己負担

3．海外留学に際しての特例措置

本学の海外留学制度の適用を受けて留学する場合、海外との教育制度の違いによって生じる、主として受講登録に関する諸問題については特例措置を取っています。

（1）海外に留学した者は、翌年５月31日までに帰国し所定の手続きを行えば、帰国年度の受講登録が認められます。

（2）４月１日～５月31日までの不在期間は、担当教員の了解が得られれば欠席扱いとならない場合があります。

4．長期留学の相談・手続き

（1）海外留学に関する学生指導は総合教育課で行います。総合教育課では、海外の大学に関する資料収集・情報提供等を行うほか、留学希望者に対する個別相談も随時行っています。また、留学に関する奨学金制度や成績、学籍、帰国後の履修等に関する相談にも対応します。

（2）出願の受け付けも総合教育課で行います。「留学志願票」等、本学所定の書類の他に留学先の大学が設けている語学レベルの基準に達していることを証明する書類（TOEFLスコア等）が必要です。

（3）海外留学制度の適用を受けて海外留学した学生は、帰国後直ちに帰国報告の諸手続きを行わなければなりません。「留学終了届」の他に留学先大学で取得した成績証明書等の必要な書類を揃えて手続きを行ってください。指定された期日に遅れたり、書類上の不備があったりする場合は、単位認定がされないばかりでなく、正規留学が１年前に遡って取り消されることもありますので注意してください。

5．SAP（スタディー・アブロード・プログラム）

（1）１年間の留学プログラム　※国際英語学部生のみ

- 留学先はアメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、アジアの６カ国を予定。各国でトップレベルの英語教育実績を持つ大学と提携しています。自らの興味や目的に合う、厳選された留学先を選べます。
- １年間の留学期間中は、単なる語学留学ではなく、自らの進路に合わせた専門科目も履修の予定です。

※プログラムの詳細や派遣先大学等は、説明会で確認をしてください。

（2）半年間の留学プログラム　※教員志望の国際英語学部生、経営学科生

- ２回生後期の約６ヵ月間、ホームステイをしながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア等の提携大学に留学。世界各国の留学生と一緒に受ける英語の授業をはじめ、現地の人々や文化と触れあう体験プログラムも豊富です。
- 留学前の１年間でしっかりコミュニケーション力を高め、留学先では現地スタッフがきめ細かなサポートを行ってくれるため、不安なく留学を経験できます。

※プログラムの詳細や派遣先大学等は、説明会で確認をしてください。

◉短期留学制度

1．海外語学研修

（1）制度

全学部全学科の学生を対象に、正課の外国語教育を補完するため、１か月程度の期間、提携大学の語学プログラムに参加するものです。現地の文化体験プログラム等も受講します。また、長期留学を目指す学生にとっては、その準備段階としても役立つものとなります。

なお、英語文化研修については、最少催行人数に満たない場合は実施しないこともあります。

（2）単位認定

事前説明会、現地での成績評価、レポート提出により２単位が認定されます（学科によって科目名は異なります）。帰国後には「帰国報告会」を実施します。

（3）募集、応募

掲示およびポータルサイトで通知しますので、各自確認してください。また、早期から窓口で相談・質問することや、留学説明会・留学生帰国報告会へ出席するなど、計画的な準備を推奨します。

（4）受付窓口

総合教育課（学生会館１F）

プログラム名	実施時期	国	派遣大学	期間	単位認定
英語文化研修	2月上旬～下旬	カナダ	オカナガン大学	3週間	あり
英語研修	8月下旬～9月中旬	ニュージーランド	ワイカト大学	3週間	あり
中国語研修	8月上旬～下旬	台湾	淡江大学	3週間	あり
韓国語文化研修		韓国	カトリック大学	3週間	あり
			慶熙大学	3週間	あり

韓国語学研修

中国語学研修

英語文化研修

2．短期海外研修

（1）制度

本学グローバル教育推進室主催で、下記の短期研修の機会を全学部全学科生対象に設けています。渡航先やプログラム内容には変更の可能性もありますので、詳細は実施年度の案内を確認してください。また、最少催行人数に満たない場合は実施しないこともあります。

（2）単位認定

なし

（3）募集、応募

- 掲示およびポータルサイトで通知しますので、各自確認してください。また、早期から窓口で相談・質問することや、留学説明会・留学生帰国報告会へ出席するなど、計画的な準備を推奨します。

（4）受付窓口

総合教育課（リバティホール１F）

プログラム名	時期	国	プログラム内容	期間	単位認定
海外体験企画	9月上旬	台湾	・現地学生との交流 ・日系企業見学 ・文化施設視察	5日間	なし
		ベトナム		6日間	
	2月or3月	台湾		5日間	
		韓国		5日間	
海外インターンシップ	8月下旬～9月下旬	オーストラリア	・最初の1週間、語学学校に通学し、英語学習 ・残り3週間を、各派遣先でインターンシップ実施	1か月	なし
		ニュージーランド			

海外インターンシップ

海外体験企画（台湾）

海外体験企画（ベトナム）

3．短期海外研修（各学科・コース主催）

各学科やコースなどの主催で、授業で学ぶ専門分野に現地で実際触れることを目的に行われる研修も実施しています。詳細は、各学科・コースの説明会等で確認してください。なお、最少催行人数に満たない場合は実施しないこともあります。

○キャリアゼミⅢ（海外研修）《文学部のみ》
○書道コース海外研修《日本語日本文学科書道コースのみ》
○文学部海外研修《文学部のみ》
○学校・地域調査（海外）《児童教育学科のみ》
○観光臨地演習《都市環境デザイン学科のみ》
○国際看護学研修《看護学科のみ》
○理学療法学科海外研修《理学療法学科のみ》
○救急救命特別実習《救急救命学科のみ》

◉協定校一覧（2017年12月現在）

国　名	地　域	大学名	留学制度
カナダ	ブリティッシュコロンビア州	オカナガン大学	交換留学、SAP派遣、英語文化研修（春）
	オンタリオ州	ヨーク大学	
アメリカ合衆国	オレゴン州	オレゴン州立大学	SAP派遣
		コンコーディア大学（ELSポートランド校）	SAP派遣
	カリフォルニア州	カリフォルニア大学デービス校	SAP派遣
		カリフォルニアルーセラン大学（ELSサウザンドオークス校）	SAP派遣
		ドミニカン大学カリフォルニア校（ELSサンラファエル校）	SAP派遣
	ニューヨーク州	ホフストラ大学（ELS NYホフストラ校）	SAP派遣
	フロリダ州	南フロリダ大学	SAP派遣
	マサチューセッツ州	ボストン大学	SAP派遣
		レズリー大学	
オーストラリア	メルボルン	ラ・トローブ大学	交換留学
	シドニー	ニューサウスウェールズ大学	SAP派遣
	ニューカッスル	ニューカッスル大学	SAP派遣
	ブリスベン	クイーンズランド大学	SAP派遣
	ブリスベン他	オーストラリア・カトリック大学	
	メルボルン	ディーキン大学	SAP派遣
	リズモー	サザンクロス大学	SAP派遣
	パース	西オーストラリア大学	
イギリス	イーストサセックス	サセックス・ダウンズ・カレッジ	SAP派遣
	ウエストサセックス	チチェスターカレッジ	SAP派遣
	スターリング	スターリング大学	
	リーズ	リーズ・ベケット大学	
フランス	カンペール	EMBAブルターニュアトランティック・ビジネススクール	
ニュージーランド	ハミルトン（北島）	国立ワイカト大学	SAP派遣、英語文化研修（夏）
中華人民共和国	西安	西北大学	交換留学
	天津	南開大学	
	南京	中国伝媒大学（南広学院）	
中華民国（台湾）	淡水	淡江大学	中国語学研修、日本語教育実習生派遣、日本語TA派遣（大学院生）
	台北および高雄	実践大学	
	台中	国立台中教育大学	
大韓民国	ソウル	慶熙大学（国際教育院）	交換留学、韓国語学研修
		カトリック大学	交換留学、韓国語学研修
	慶州	慶州大学	
タイ	チェンマイ	チェンマイ・ラチャパット大学	
マレーシア	クアラルンプール	サンウェイ大学	SAP派遣
		アジア・パシフィック大学	SAP派遣

第８章　教育理念

京都橘大学では、教学理念として《自立》《共生》《臨床の知》という３つの教育理念を掲げています。教学理念とは「教育活動の目標」と言い換えることができます。つまり、本学で大学生活を４年間過ごしたみなさんが修得すべき力を端的に表したものと考えてください。

《自　　立》とは、社会人として自立できる知識や能力、素養を身につけること
《共　　生》とは、他者と適切に交流し、人への配慮ができるような感性やセンスを身につけること
《臨床の知》とは、社会人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけることによって、さまざまな課題に自信を持って取り組み、解決できるようになること

このように、京都橘大学では学生のみなさんはもちろん、社会に対しても「このような目標を立て、教育活動を展開しています。そして、本学の学生はこれらの力を養って成長し、社会へと巣立っていきます」という公約をしていると考えてください。少し難しい言葉ですが、こういった公約を**「ディプロマポリシー（学位授与方針）」**といいます。

本学の教育課程は、さまざまな科目によって構成されていますが、これらは上述の「ディプロマポリシー」を達成するために必要な科目から成り立ち、それぞれの授業科目は「ディプロマポリシー」を達成するための基本的な考え方に基づいて実施されることとなります。この教育課程の編成や教育内容・方法についての基本的な考え方のことを**「カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）」**といいます。

「カリキュラムポリシー」に基づき、それぞれの科目群には《必修科目》として必ず履修しなければならない科目や、《選択必修》として設定され、決められた科目の中から規定以上の単位を修得することが必修とされている科目群が存在していますので、それらを中心に自分の興味関心のある科目はもちろん、幅広い知識を身につけることを念頭に置きながら計画的な履修を心がけてください。

次の項目からは、大学全体におけるディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとみなさんの所属学科におけるポリシーが記載されています。みなさんは大学を卒業した後、社会人として社会で活躍することとなります。そのために、これらのポリシーを念頭におきながら、４年間でどのような力を身につけて卒業に向かうのか、しっかりと履修計画を立て、それぞれの授業に臨み、必要な力を身につけてください。

１．全学

（１）教育研究上の目的

本学は、教育基本法および学校教育法の規定に基づき、広く一般教養を施すとともに、深く専門の研究に根ざす学芸および技能の教授を行い、もって、教養高く情操豊かにして地域社会および国際社会の発展に貢献しうる、社会に有為なる人材を育成することを目的とする。

（２）ディプロマポリシー（学位授与方針）

京都橘大学は、教学理念および大学の目的に則り、次のような能力を身につけ、各学科のディプロマポリシー（学位授与方針）を満たした者に学士の学位を授与する。

①自立した社会人として社会に貢献するための知識や能力、素養を身につけている。
②他者と適切に交流し、人への配慮ができるような能力を身につけている。
③自立した社会人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけることによって、さまざまな課題に自信を持って取り組み、解決できる力を身につけている。

（３）カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

京都橘大学は、学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、以下の方針で教育課程を編成する。

①文学部・国際英語学部・発達教育学部・現代ビジネス学部の教育課程は、《教養教育》《専門教育（専門教育科目群）》《免許・資格課程（資格教育科目群）》の３つに分け、さらに《教養教育》を「基礎教育科目群」「教養教育科目群」「キャリア教育科目群」に区分し、５つの科目群で構成する。《教養教育》《専門教育》においては、基礎から応用へと段階的に科目を配置する。
②看護学部は、看護系大学の教育課程として、資格取得とリベラルアーツを有機的に結合した５つの科目区分で構成する。区分４では、総合大学としての利点を生かし、「多様な学問分野に触れ、知性と感性を育成する」科目を配置する。
③健康科学部の教育課程は、「こころとからだの健康と臨床」をテーマとして、主体的に学習する姿勢と幅広い教養を学ぶ「基礎分野」、および心理学、理学療法学、作業療法学、救急救命学、臨床検査学それぞれの専攻に関する知識と技術を学ぶ「専門分野」で構成する。

２．児童教育学科

（１）教育研究上の目的

発達教育学部は、人間の発達と教育に関する専門的な知識と洞察力を身につけ、現代の課題に対応する実践的教育力を備えた人材を養成する。発達教育学部児童教育学科は、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を養成するとともに、多様化する社会のさまざまな教育・保育サービスに対応できる人材を養成することを目的とする。

（２）ディプロマポリシー（学位授与方針）

発達教育学部児童教育学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養、保育と教育に関する専門的知識の習得、そして他者とのパートナーシップを構築する力の涵養を通じ、豊かな知識と人間性を基礎に、専門職として学び続ける力を育て多様化する社会の様々な教育・保育サービスに適切に対応できる人材を養成することをめざしている。

この教育目標に基づき、次のような知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（児童教育学）の学位を授与する。

①教師・保育士として必要とされる基礎的な知識や考え方
②子どもが育つ道筋を理解し、子どもに働きかける力
③人間の尊厳への敬意を払い、相手の気持ちや考えを尊重する態度
④多様な背景を持つ人々を受け入れ、他者と協働する力
⑤専門的な知識に基づき自ら問題を発見し、探求する態度

（３）カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力を修得するために、発達教育学部児童教育学科では、児童教育コースおよび幼児教育コースにおいて、以下の方針で教育課程を編成する。

〈児童教育コース・幼児教育コース共通〉

①自立した社会人としての基礎的な素養を身につけるため、教養教育に関する科目（基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群）および専門関連科目を配置する。
②積極的に人と関わる態度を育て、主体的な学習に取り組むために、１回生時に「研究入門ゼミ」を配置する。

〈児童教育コース〉

③教育に関する基本的な知識や考え方を修得するため、１回生時に「現代と教育」「教育原論」「教育心理学」「教職入門」を配置する。

④各教科・領域の指導内容や指導方法を理解し実践する力を養成するため、１～３回生まで段階的に、各教科における「教育法」「概論」および「音楽演習」を配置するとともに、「教育方法論」「生徒・進路指導」「総合学習論」「表現教育論」などの科目を配置する。
⑤子どもを取り巻く社会、地域、家庭、人々との関わりについて専門的な知識と技能を育て、子どもや保護者に共感する態度を身につけるため、２・３回生時に「教育制度論」「教育課程論」「特別支援教育論」「児童と発達教育」などの科目を配置する。
⑥学校でのフィールドワークや教育実習、地域との関わりを通じて、子どもを理解しつつ、授業や学級指導の実践力と反省力を身につけ、教師や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨くことを目的に、１～４回生まで段階的に、各種の「演習（ゼミ)」や「実習」および「卒業研究」を配置する。
⑦教育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を論理的に探求し展開できる能力と、社会人として学び続ける態度を養成するため、「教育演習Ⅰ～Ⅳ」「教職実践演習（初等)」「卒業研究」を３・４回生時に配置する。

〈幼児教育コース〉

③教育・保育に関する基本的な知識や考え方を修得するため、１回生時に「現代と教育」「教育原論」「発達心理学」「教職入門」を配置する。
④保育に関する専門的な知識を修得し、保育を構想・実践し、振り返ることのできる力を育てるため、２・３回生時に、各種の「保育原理」「保育内容演習」「音楽演習」を配置するとともに、「児童家庭福祉」「障害児保育」「保育相談支援」などの科目を配置する。
⑤子どもを取り巻く社会、地域、家庭、人々との関わりについて専門的な知識と技能を育て、子どもと保護者を支援する専門的知識を身につけるため、３回生時に「家庭支援論」「特別支援教育論」「教育課程論」「児童と発達教育」などの科目を配置する。
⑥保育所や幼稚園でのフィールドワークや保育・教育実習、地域との関わりを通じて、子どもと保育者の役割を理解しつつ、保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨くことを目的に、１～４回生まで段階的に、各種の「演習（ゼミ)」や「実習」および「卒業研究」を配置する。
⑦保育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を論理的に探求し展開できる能力と、社会人として学び続ける態度を養成するため、「教育演習Ⅰ～Ⅳ」「教職実践演習（初等)」「卒業研究」を３・４回生時に配置する。

第９章　教育課程（教養教育課程）

１．教養教育課程とは

本学の「教養教育課程」は、「基礎教育科目群」「教養教育科目群」「キャリア教育科目群」の３つの科目群で構成しており、７つの教育目標を掲げています。

【３つの科目群】

（1）基礎教育科目群	大学での学修に必要な基本的な知識やスキルを学びます。
（2）教養教育科目群	社会人として求められる教養を学びます。
（3）キャリア教育科目群	社会人として自立していく準備（就業力の育成）のための将来設計や職業観の構築、社会のルールなどを学びます。

【７つの教育目標】

①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成
③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成
④異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成
⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の養成
⑥物事を論理的に分析する能力の養成
⑦読む力や書く力、話す力や聞く力の養成

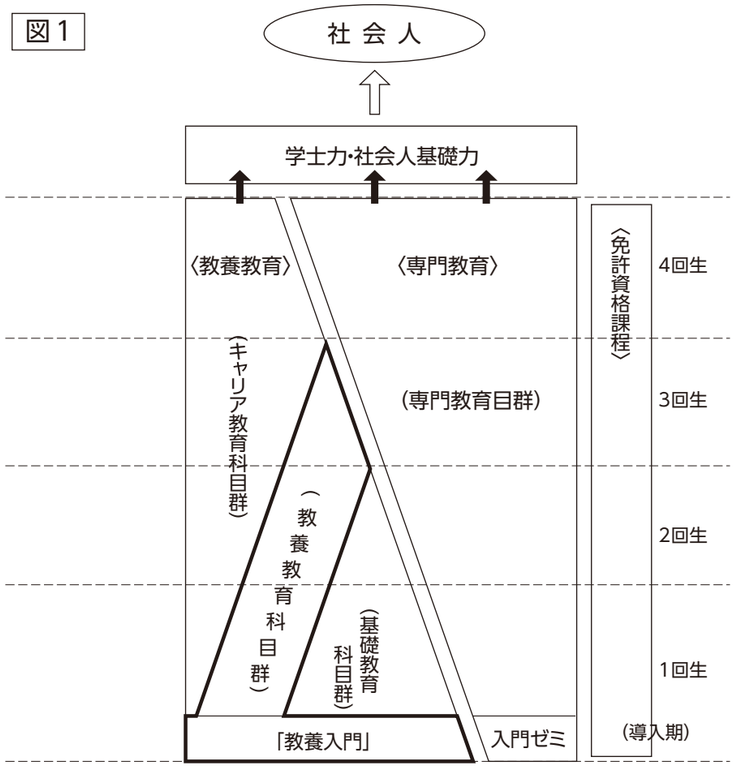
- ３つの科目群それぞれが、「ディプロマポリシー」を実現するために重要な役割を果たしていますので、各科目群には《必修科目》として必ず履修しなければならない科目や、決められた科目の中から規定以上の単位を修得することが必修とされている《選択必修》科目が存在しています。それらを中心に、自分の興味関心のある科目はもちろん、幅広い知識を身につけることを念頭に置いて計画的な履修を心がけてください。

- 大学卒業後は、社会人として社会で活躍することとなります。そのために、卒業（学士学位取得）時には、「学士力」・「社会で生きる力」（社会人基礎力）をしっかりと身につけておくことが必要です。後述の【図１】からも、「学士力」・「社会人基礎力」を支える大きな柱は《教養教育》と《専門教育》だと言えます。

- 《教養教育》、《専門教育》、加えて《免許・資格課程》科目それぞれ、回生毎の学びにあわせた科目を配置していますので、自分の将来を見通し、毎年度履修計画を立て、計画的に学修を深める必要があります。

- 大学での学修は、みなさんの選択で自由に形を変えることができるといっても過言ではありません。従って、みなさんの学びの範囲は非常に広く設定されていますが、他方で、責任をもって、計画的に、卒業に必要な単位修得することが求められます。

図1



2．基礎教育科目群とは

大学での学修活動に必要とされる基本的な知識や能力を身につけるための科目群です。多くの科目が必修として配置されており、大別すると次のようになります。なお、学部・学科により、必修科目および履修指定科目や区分、科目名称は異なります。

【アカデミックライティング／日本語表現Ⅰ、教養ゼミ／日本語表現Ⅱ】

全学必修科目である、前期の「アカデミックライティング」／「日本語表現Ⅰ」では、大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての読解力や文書作成能力などの日本語運用能力の獲得をめざします。原稿用紙の使い方など大学生活で役立つ実用的な「書く」能力を身につけることからはじめ、高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高めます。

後期の「教養ゼミ」／「日本語表現Ⅱ」では、教養とは何か、大学で教養を学ぶ意義はどこにあるのか、を考えます。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学び、幅広い分野から選定したテキストを使用して、ゼミ形式で検討していきます。

【英語教育】

英語では、基本科目である「英語ⅠA～ⅣB」において、大学での学修において必要とされる英語力の獲得を目指すと同時に、企業就職に際して重視されることも多いTOEICのスコアアップを目指すクラスも開かれています。到達度別でクラス編成を行うので、無理なく英語力を向上させることができます。

また、本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、履修条件（履修制限）を設定しています。

対象科目	履修条件
英語ⅢA	英語ⅠAまたはⅡAを修得済みであること
英語ⅢB	英語ⅠBまたはⅡBを修得済みであること
英語ⅣA	英語ⅠAまたはⅡAを修得済みであること。
英語ⅣB	英語ⅠBまたはⅡBを修得済みであること。

【情報教育】

コンピュータ･リテラシーつまりコンピュータを主体的に使いこなす能力や情報を利用･活用する能力は、在学中はもちろん社会に出てからも不可欠です。全学必修の「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ／情報科学Ⅰ・Ⅱ」では、コンピュータの基本操作に始まり、一般に広く用いられているワードやエクセル、さらにはパワーポイントなどのアプリケーションの操作方法を学びます。また基本ソフトの操作方法の修得と共に、インターネット利用時のルールやマナー、情報の活用についても学びます。

【キャリアコミュニケーション科目】

大学卒業後、多くの人が社会人として社会に出ます。アカデミックライティング／日本語表現Ⅰ、教養ゼミ／日本語表現Ⅱと平行し、<社会人として通用すること>に主眼を置きながら、正しい話し方や、書き方、また就職活動でも活かせるコミュニケーションマナーやプレゼンテーション技能なども学びます。

3．教養教育科目群とは

教養教育科目群は７つの教育目標を掲げ、卒業後、社会人として自立していくにあたっての、目指すべき方向を示しています。学生のみなさんには、それぞれの科目群や科目の持つ目標や役割を正確に理解し、学びに参加し、卒業後は社会人として精神的にも経済的にも自立していけるような成長を実現してほしいと、強く願っています。

また、科目を履修するに当たって、どのような領域のことを学ぶのかイメージしやすいよう、テーマごとに４領域に分類されています。さらに、それぞれの領域は２分野（合計８分野）に整理されています。

	領域			
	【人間と知の伝達】	【人間と文化】	【人間と社会】	【人間と自然】
分野	現代の思想	外国語と文化理解	法律・行政・政治	健康・こころ・からだ
	メディアと情報	歴史・文化	経済・経営・社会	自然と環境

【人間と知の伝達】

現代の思想（分野）

- 哲学、思想、宗教についての基礎的な知識を身につけ、自らの生き方に役立つ世界観をひとりひとりが構築できるようになることを目指しています。
- 『人間とは？』『人生とは？』『世界とは？』といった問いに取り組んできた先人たちのものの考え方や分析の仕方を修得することで、論理的にものごとを考える力を身につけることを目指します。
- さまざまなものの考え方や価値観、宗教観、倫理観を学び、異なる文化をもつ人々と共生し、異なる価値観をもった人々との交流ができる人間性の獲得を目指します。

メディアと情報（分野）

- 情報が発信者から受信者に伝達される際のメディア（媒体）について理解を深め、情報化社会において必要な知識を身につけることを目指します。
- メディアの特性を知ることによって、発信者の意図や伝え方、また、受信者の認識や態度によってさまざまに変化する情報を、さまざまな場面において適切に受け取り、処理できる力を養います。
- また、情報の正しい発信力や受信力は、異なる考えを持った人と共生するために必要な力です。情報を冷静に分析し、他人の意見を理解できる力を獲得することを目指します。

【人間と文化】

外国語と文化理解（分野）

- グローバル化する社会の中で生活を送るために必要な語学の能力および外国の文化を理解し、日本と海外との相互理解を促進するために必要な知識・教養を身につけることを目指します。
- それを通じて、異なった意見にも耳を傾けて理解し、独断ではなく多面的に思考して自己の意見を形成する力を修得します。さらに、社会における異なった文化や価値観を持った人々の共生のために必要な世界観を獲得します。

また、本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、履修条件（履修制限）を設定しています。

対象科目	履修条件
中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
中国語Ⅲ	「中国語Ⅱ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
中国語Ⅳ	「中国語Ⅲ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
韓国語Ⅲ	「韓国語Ⅱ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
韓国語Ⅳ	「韓国語Ⅲ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。
ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」を修得済み、もしくは同等以上の者。

歴史・文化（分野）

- ますます複雑化する現代社会を生き抜くために必要な基礎的教養として、歴史に関する入門的知識を修得するとともに、日本の歴史や文化の中心である京都を題材として、伝統文化や歴史遺産、古典から現代までの文学についての基礎的な知識の修得を目指します。
- それらを通じて、物事や出来事を考える際にその歴史的な根元まで立ち返って考えるという思考方法、目先の物質的欲望に惑わされず文化的価値や伝統を尊重する態度を身につけます。このような姿勢を修得することで、私たちは、社会に出てから、さまざまな諸問題に対処する際の、表面ではなくその本質を洞察することができるようになります。

【人間と社会】

法律・行政・政治（分野）

- 法律、行政、政治に関わる基礎的な知識を身につけ、身近に起こる出来事について、「社会的なルール」を基準に評価することのできる思考力を養います。
- また、成熟した市民として、裁判や選挙など、社会で定められた手続きに沿って、社会にはたらきかけていく実行力を身につけます。そのうえで、国際社会の中で異なる文化をもつ人々と共生し、人権に配慮しつつ、市民として責任ある行動をとることのできる人間性の確立を目指します。

経済・経営・社会（分野）

- 経済、経営、会計の基礎知識を修得することで、私たちのくらしを支えるさまざまな活動を理解するとともに、社会の一員として生活を営むために必要な分析力や論理的思考力を獲得します。
- また、現代の社会全体が抱える諸問題を多角的に分析できる広い視野を身につけ、他者の立場に配慮しながら、自ら進んでその解決に乗り出すことのできる人間性を身につけることを目指します。

【人間と自然】

健康・こころ・からだ（分野）

- 日々の生活を振り返り、「健康」の意味を考えることを通じて、人間の心身の仕組みと働きの基礎を理解します。これらの知識は、長い人生を生きていく上で、自分や家族、社会の幸福や健康を維持・増進していくために必要な力となります。

自然と環境（分野）

- 自然と環境の仕組みについて総合的に理解し、自然科学の基本的知識を身につけます。
- それらを通じて、災害対策、地球温暖化問題や放射能汚染の問題など、環境にまつわる地球規模の課題の解決に向けた取り組みについて考え、「自然」との共生を軸に据えた、これからの時代にふさわしい世界観・倫理観・文明観・人間性の獲得を目指します。

4．キャリア教育科目群とは

みなさんがこれから京都橘大学のキャリア教育を理解し学修していくにあたって、大きく次の３点を理解する必要があります。

①卒業後の人生あるいは業種を選択するという点に関して、学部学科によってはすでに入学時から決まっている場合もあります。

例）看護学部へ入学→卒業後は看護職（看護師・保健師・助産師）になることを選択。発達教育学部児童教育学科や、健康科学部理学療法学科、救急救命学科も同様です。これらの学部・学科のキャリア教育は、各学部・学科で行われます。

それ以外の学部・学科のみなさんは、本学におけるキャリア教育の概要をしっかり理解し、一人ひとりが夢を現実のものにできるよう、１回生の時からしっかりと学修する必要があります。

②《キャリア教育》という考え方と《キャリア関連科目》は同じ概念ではありません。

本学では「キャリアデザイン入門」、「キャリア開発講座Ⅰ～Ⅳ」、「キャリア開発演習Ⅰ～Ⅳ」などの科目を配置しています。では、これらの科目だけを勉強すれば就業力が身につくのか、夢が現実のものになるのかというと決してそうではありません。直接的な就業対策に取り組むためには、その前提となる基礎学力や一般教養が身についていなければなりません。

例）公務員試験や教員採用試験を受験←基本的な数学の力や政治経済の知識必要。

また、様々な文章を作成するにあたり、論理的思考力や表現力も必要とされます。したがって、《キャリア教育》という枠組みは、キャリア関連科目をコアとしつつも、基礎学力を身につける科目群や教養教育科目群と連携をとりながら有機的にキャリア開発をすすめるシステムとして組み立てられています。《キャリア教育》とは、基礎教育科目と教養教育科目、キャリア関連科目を包括している教育システムであると理解してください。

③京都橘大学のキャリア教育の大きな特色は、就職進路課（キャリアセンター）とも深く連携していることです。就職進路課（キャリアセンター）は、正課におけるキャリア科目の編成、科目の位置づけ、授業内容編成について深く関わっています。正課外の各プログラムを実施する際には、正課授業での取組内容を確認の上、内容を編成しています。正課の授業でインプットした内容を正課外の講座やセミナーでアウトプットする、この繰り返しによって正課授業と正課外プログラムが有機的につながり、みなさんの就業力向上の一助となります。いわば、キャリアセンターのセミナーや講座は、主にキャリア関連科目で学習した内容を実践して経験を積み重ねていく場だと理解してください。

そして、前述の（１）基礎教育科目、（２）教養教育科目、（３）キャリア教育科目と、課外で実施される対策講座を４つのパッケージにまとめて、一般企業就職志望者や公務員志望者を対象とした「キャリア開発プログラム」を設定しています。

１回生の間は、どの「キャリア開発プログラム」においても、キャリア開発のために必要とされる基礎的な学力を身につけるための科目群と、課外講座である「たちばなアカデミー」を履修します。それぞれの「キャリア開発プログラム」の学修は２回生から開始され、２回生以降でキャリア形成を目指す科目を履修することとなります。

京都橘大学のキャリア開発プログラムおよび主な対象学部・学科は次のとおりです。

【キャリア開発プログラム】

①地域密着型の一般企業就職志望者	②大手企業就職志望者
③公務員行政職志望者	④警察官・消防官志望者
⑤教員、その他　※受講科目は基本的に①と同じとなります。	

【主な対象学部・学科】

文　　学　　部：日本語日本文学科、歴史学科、歴史遺産学科
国際英語学部：国際英語学科
発達教育学部：児童教育学科（一部異なる科目があります）
現代ビジネス学部：経営学科、都市環境デザイン学科
健康科学部：心理学科（一部異なる科目があります）、救急救命学科（一部異なる科目があります）

①地域密着型の一般企業就職志望者、⑤教員、その他の志望者

内容	回生	主な科目
基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English CommunicationⅠ・Ⅱ（心理のみ） English LiteracyⅠ・Ⅱ（心理のみ） 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ（心理は除く） 時事問題研究（心理、救急救命は除く）
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB
キャリアデザイン・キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ インターンシップA／インターンシップ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ キャリア開発講座Ⅲ・Ⅳ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅲ （児童教育、救急救命は除く）
	3回生	キャリア開発研究Ⅰ キャリア開発研究Ⅵ
教養科目	1回生	教養入門（心理は除く） くらしと経済、経営学概論、会計学概論、 社会学概論Ⅰ・Ⅱ、日本国憲法
	2回生	情報処理演習Ⅲ～Ⅵ、国際関係入門、 経済学概論Ⅰ・Ⅱ、民法
課外講座	1回生	たちばなアカデミー（単位認定あり）
	2回生	公務員試験対策講座 公務員試験レベルで学習をすることは、民間試験の十分な対策になります。

- 履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。
- 教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。
- また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

②大手企業就職志望者

基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English CommunicationⅠ・Ⅱ（心理のみ） English LiteracyⅠ・Ⅱ（心理のみ） 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ（心理は除く） 時事問題研究（心理、救急救命は除く）
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB English CommunicationⅢ（心理のみ） English LiteracyⅢ（心理のみ）
キャリアデザイン・キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ インターンシップA／インターンシップ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ キャリア開発講座Ⅲ・Ⅳ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅲ （児童教育、救急救命は除く） キャリア開発演習Ⅳ〈G〉
	3回生	キャリア開発研究Ⅰ、キャリア開発研究Ⅱ〈G〉 キャリア開発研究Ⅲ・Ⅳ〈G〉 キャリア開発研究Ⅵ
教養科目	1回生	教養入門（心理は除く） くらしと経済、経営学概論、会計学概論、 比較文化論、異文化コミュニケーション論、 中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ、地球環境論、 エコロジー研究
	2回生	情報処理演習Ⅲ～Ⅵ、中国語Ⅲ・Ⅳ、韓国語Ⅲ・Ⅳ、国際関係入門
課外講座	1回生	たちばなアカデミー（単位認定あり）
	2回生	公務員試験対策講座 公務員試験レベルで学習をすることは、民間試験の十分な対策になります。

その他、海外体験企画・海外インターンシップ・語学研修・留学生との交流などの企画への参加を強く推奨。

- 履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。
- 教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。
- また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

③公務員行政職志望者

基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English CommunicationⅠ・Ⅱ（心理のみ） English LiteracyⅠ・Ⅱ（心理のみ） 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ（心理は除く） 時事問題研究（心理、救急救命は除く）
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB
キャリアデザイン・キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ インターンシップA／インターンシップ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅰ キャリア開発演習Ⅲ （児童教育、救急救命は除く）
教養科目	公務員試験1次試験と重なる学びです。	
	1回生	教養入門（心理は除く）、日本国憲法、 法学概論Ⅰ・Ⅱ、政治学概論Ⅰ・Ⅱ、経営学概論、会計学概論、社会学概論Ⅰ・Ⅱ、地理学概論、 物理学基礎、化学基礎、生物学基礎
	2回生	民法、行政法、国際関係入門、行政学、 経済学概論Ⅰ・Ⅱ
課外講座	1回生	たちばなアカデミー（単位認定あり）
	2回生 〜 4回生	公務員試験対策講座 公務員試験支援センターが主催する「公務員試験対策プログラム」を受講します。公務員試験対策の専門予備校と本学が共同して実施する、合格対策プログラムです。

その他、自治体でのインターンシップへの参加を強く推奨。

- 履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。
- 教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。
- また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

④警察官・消防官志望者

基礎力育成	1回生	日本語表現Ⅰ・Ⅱ／アカデミックライティング・教養ゼミ 英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB English CommunicationⅠ・Ⅱ（心理のみ） English LiteracyⅠ・Ⅱ（心理のみ） 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 数学演習Ⅰ・Ⅱ（心理は除く） 時事問題研究（心理、救急救命は除く）
	2回生	英語ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣB
キャリアデザイン・キャリア開発	1回生	キャリア開発講座Ⅰ
	2回生	キャリアデザイン入門 キャリアコミュニケーションⅠ・Ⅱ
業種別キャリア開発	2回生	キャリア開発演習Ⅲ （児童教育、救急救命は除く）
教養科目	警官、消防官採用試験1次試験と重なる学びです。	
	1回生	教養入門、日本国憲法、法学概論Ⅰ・Ⅱ、 政治学概論Ⅰ・Ⅱ、経営学概論、地理学概論、 物理学基礎、化学基礎、生物学基礎、 スポーツコースⅠ〜Ⅳ
	2回生	国際関係入門、経済学概論Ⅰ・Ⅱ
課外講座	1回生	たちばなアカデミー（単位認定あり）
	2回生 〜 4回生	公務員試験対策講座 公務員試験支援センターが主催する「公務員試験対策プログラム」を受講します。公務員試験対策の専門予備校と本学が共同して実施する、合格対策プログラムです。

- 履修回生や科目名等は年度によって変更される場合がありますので、必ず毎年シラバスや注意事項で確認してください。
- 教員志望者であっても、必修科目および履修指定科目は受講しなければなりません。
- また、あくまでも履修例であって、学部学科により必修科目および履修指定科目や区分等は異なります。

5　児童教育学科　教養教育課程　カリキュラムマップ

(1) 児童教育学科　基礎教育科目群・教養教育科目群　カリキュラムマップ

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考	備考
基礎教育科目／基礎教育科目群	BA101	日本語表現Ⅰ	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦		15単位必修
	EN101	英語ⅠA	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	EN101	英語ⅠB	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	EN102	英語ⅡA	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	EN102	英語ⅡB	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	EN201	英語ⅢA	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦		
	EN201	英語ⅢB	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦		
	EN202	英語ⅣA	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦		
	EN202	英語ⅣB	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦		
	IN101	情報処理演習Ⅰ	1	必修	演習	1回生	①②⑥		
	IN102	情報処理演習Ⅱ	1	必修	演習	1回生	①②⑥		
	IS101	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	外国人留学生用科目	
	IS102	日本語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑦		
	IS201	日本語Ⅲ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦		
	IS202	日本語Ⅳ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦		
	IS101	日本事情Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦		
	IS102	日本事情Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦		
	IS201	日本事情Ⅲ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦		
	IS202	日本事情Ⅳ	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦		
	IS301	日本文化演習Ⅰ	2	選択	演習	3回生	①②④⑦	※履修許可者のみ	
	IS302	日本文化演習Ⅱ	2	選択	演習	3回生	①②④⑦	※履修許可者のみ	
教養教育科目／教養教育科目群	GE101	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦		教養教育科目群・キャリア教育科目群選択必修22単位以上
	GE101	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦		
人間と知の伝達／現代の思想	GE101	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥	2単位以上選択必修	
	GE101	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	GE101	日本人と宗教	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
	GE101	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦		
	GE201	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤		
	GE201	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤		
人間と知の伝達／メディアと情報	GE101	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦		
	BA102	日本語表現Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②④⑥⑦		
	CA101	キャリアコミュニケーションⅠ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦		
	CA201	キャリアコミュニケーションⅡ	2	選択	演習	2回生	①②④⑦		
	GE101	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤		
	GE101	情報社会論	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦		
	GE101	数学演習Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②⑥		
	GE102	数学演習Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②⑥		
	IN201	情報処理演習Ⅲ	1	選択	演習	2回生	①②⑥		
	IN201	情報処理演習Ⅳ	1	選択	演習	2回生	①②⑥		
	IN201	情報処理演習Ⅴ	1	選択	演習	2回生	①②⑥		
	IN201	情報処理演習Ⅵ	1	選択	演習	2回生	①②⑥		
人間と文化／外国語と文化理解	GE101	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	2単位以上選択必修	
	GE101	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④		
	GE101	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥		
	GE101	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
	GE101	中国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE102	中国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE103	中国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE104	中国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE101	韓国語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE102	韓国語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE103	韓国語Ⅲ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE104	韓国語Ⅳ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE101	フランス語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE102	フランス語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE101	ドイツ語Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE102	ドイツ語Ⅱ	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	CA101	外国語臨地演習	2	選択	演習	1回生	①②③④⑤⑦		
人間と文化／歴史・文化	GE101	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥		
	GE101	京都講座Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③		
	GE101	京都講座Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③		
	GE101	京都の歴史・文化Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		
	GE101	京都の歴史・文化Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③		
	GE101	文学と京都	2	選択	講義	1回生	①②④		

科目区分	科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考	備考
教養教育科目／教養教育科目群／人間と社会／法律・行政・政治	GE101	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	2単位以上選択必修	教養教育科目群・キャリア教育科目群選択必修22単位以上
	GE101	法学概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		
	GE101	法学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		
	GE101	政治学概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③④		
	GE101	政治学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③④		
	GE201	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥		
	GE201	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥		
	GE201	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥		
	GE201	人権と教育	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤		
	GE201	国際関係入門	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤		
人間と社会／経済・経営・社会	GE101	くらしと経済	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥		
	GE101	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥		
	GE101	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥		
	GE101	福祉とボランティア	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦		
	GE101	社会学概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
	GE102	社会学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥		
	GE101	時事問題研究	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
	GE201	経済学概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②④		
	GE202	経済学概論Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②④		
人間と自然／健康・こころ・からだ	GE101	健康に生きるⅠ	2	選択	講義	1回生	①②④⑤	2単位以上選択必修	
	GE101	健康に生きるⅡ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥		
	GE101	健康に生きるⅢ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦		
	GE101	体育理論	2	選択	講義	1回生	①②⑤		
	GE101	スポーツコースⅠ	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦		
	GE101	スポーツコースⅡ	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦		
	GE101	スポーツコースⅢ	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦		
	GE101	スポーツコースⅣ	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦		
人間と自然／自然と環境	GE101	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥		
	GE101	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤		
	GE101	エコロジー研究	2	選択	講義	1回生	①②③⑤		
	GE101	自然の探求	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦		
	GE101	地理学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥		
	GE101	生活の中の数学	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥		
	GE101	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥		
	GE101	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥		
	GE101	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥		

※「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」における日本人学生の履修は、履修許可者のみ履修可とし、修得した単位は【教養教育科目群】の単位に算入する。

全学共通の到達目標	
	①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
	②知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
	③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
	④異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
	⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
	⑥物事を論理的に分析する能力の獲得
	⑦読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

◆「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。
各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。
ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

〈科目ナンバーの見方〉
[例]　〇〇 － 1　1　1
　　　①　　　②　③　④

①区分　ＢＡ：基礎　ＧＥ：教養　ＣＡ：キャリア　ＥＮ：英語　ＩＮ：情報
　　　　ＩＳ：留学生科目
②回生　1：1回生　2：2回生　3：3回生　4：4回生
③期間　1：前期　2：後期　3：通年　4：秋期集中　5：春期集中
④履修順序　同系科目中の履修順序（指定なしは0）

(2) 児童教育学科　キャリア教育科目　カリキュラムマップ

科目区分		科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考	
教養教育科目	キャリア教育科目群	CA101	キャリア開発講座Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦		教養教育科目群・キャリア教育科目群選択必修22単位以上
		CA101	キャリア開発講座Ⅱ	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦		
		CA201	キャリア開発講座Ⅲ	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦		
		CA201	キャリア開発講座Ⅳ	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦		
		CA201	キャリア開発演習Ⅰ	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦		
		CA201	キャリア開発演習Ⅱ	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦		
		CA201	キャリア開発演習Ⅲ	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦		
		CA201	キャリア開発演習Ⅳ	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦		
		CA301	キャリア開発研究Ⅰ	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥		
		CA301	キャリア開発研究Ⅱ	2	選択	演習	3回生	①②③		
		CA301	キャリア開発研究Ⅲ	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦		
		CA301	キャリア開発研究Ⅳ	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦		
		CA301	キャリア開発研究Ⅴ	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦		
		CA301	キャリア開発研究Ⅵ	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦		
		CA201	インターンシップA（ビジネス）	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦		
		CA201	インターンシップB（図書館司書）	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦		
		CA201	インターンシップC（行政）	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦		
		CA201	インターンシップD（NGO・NPO）	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦		
		CA201	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④		
		CA201	産業心理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥		
		CA301	広告と消費の心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥		
		CA301	教職・保育職教養講義Ⅰ	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦		
		CA302	教職・保育職教養講義Ⅱ	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦		
		CA401	教職・保育職教養講義Ⅲ	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦		
		CA402	教職・保育職教養講義Ⅳ	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦		
		CA101	教職入門	2	選択	講義	1回生	①②③		
		CA101	教育心理学	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦		
		CA201	教育原論	2	選択	講義	1回生	①④⑤		
		CA201	教育制度論	2	選択	講義	2回生	①⑤⑥		
		CA201	教育課程論	2	選択	講義	2回生	①④⑤		
		CA201	道徳教育の理論と方法	2	選択	講義	2回生	①③④⑥		
		CA201	特別活動論	2	選択	講義	2回生	①③⑤		
		CA201	教育方法論	2	選択	講義	2回生	①③⑥		
		CA301	生徒・進路指導	2	選択	講義	3回生	①③④⑤		
		CA201	教育相談	2	選択	講義	2回生	①③⑤		
		CA401	教職実践演習（中等）	2	選択	演習	4回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA401	教育実習Ⅰ	2	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑥⑦		
		CA301	教育実習Ⅱ（事前事後指導を含む）	3	自由	実験・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦		
		CA101	生涯学習概論Ⅰ	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦		
		CA101	図書館概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦		
		CA201	図書館制度・経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	図書館情報技術論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA201	図書館サービス概論	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑦		
		CA201	情報サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA201	児童サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	情報サービス演習Ⅰ	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA202	情報サービス演習Ⅱ	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA201	図書館情報資源概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	情報資源組織論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA201	情報資源組織演習Ⅰ	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA201	情報資源組織演習Ⅱ	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦		
		CA202	図書館情報資源特論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	図書館施設論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA301	図書館実習	1	自由	実験・実習	3回生	①②③④⑤⑥⑦		

科目区分		科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考	
教養教育科目	キャリア教育科目群	CA201	学校経営と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		教養教育科目群・キャリア教育科目群選択必修22単位以上
		CA201	学校図書館とメディアの構成	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	学習指導と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	読書と豊かな人間性	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	情報メディアの活用	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA101	博物館学概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦		
		CA201	博物館経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	博物館資料論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	博物館資料保存論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	博物館展示論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦		
		CA101	博物館教育論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦		
		CA101	博物館情報・メディア論	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦		
		CA301	博物館実習Ⅰ	1	選択	実験・実習	3回生	①②③⑤⑦		
		CA302	博物館実習Ⅱ	1	選択	実験・実習	3回生	①②③⑤⑦		
		CA401	博物館実習Ⅲ	1	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑦		
		CA101	生涯学習概論Ⅱ	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦		
		CA201	社会教育計画Ⅰ	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA202	社会教育計画Ⅱ	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	社会教育演習	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	社会教育課題研究	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦		
		CA201	日本語教授法Ⅰ	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦		
		CA201	日本語教授法Ⅱ	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦		
		CA202	日本語教授法Ⅲ	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦		
		CA301	日本語教授法Ⅳ	2	選択	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦		
		CA302	日本語教材研究	2	選択	演習	4回生	①②③④⑥⑦		
		CA401	日本語教育実習	2	選択	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑦		
		CA201	社会調査論	2	選択	講義	2回生	⑤⑥⑦		
		CA201	統計学基礎論	2	選択	講義	2回生	⑤⑥⑦		

※自由科目は卒業要件単位に含まれません。

全学共通の到達目標	①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
	②知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
	③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
	④異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
	⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
	⑥物事を論理的に分析する能力の獲得
	⑦読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

◆「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。
各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。
ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

〈科目ナンバーの見方〉
［例］ ○○ － 1 1 1
①　②　③　④

①区分　BA：基礎　GE：教養　CA：キャリア　EN：英語　IN：情報　IS：留学生科目
②回生　1：1回生　2：2回生　3：3回生　4：4回生
③期間　1：前期　2：後期　3：通年　4：秋期集中　5：春期集中
④履修順序　同系科目中の履修順序（指定なしは0）

1．児童教育コース

（1）コースの特徴

児童教育コースは、主として小学校教諭を中心とした教員養成を行います。また、幼稚園教諭１種免状許も取得できます。教育への情熱を持ち、子どもを深く理解し、積極的にかかわろうとする意欲のある教師の養成をめざします。

小学校教育は、何よりも知・情・意の全領域においてバランスの取れた人間を育てる課題を担っています。日本は経済的にも文化的にも高度に発達した社会です。そのような社会で一人前に生きていくためには、あらゆる分野における基礎的能力と統合力を身につけている必要があります。

さらに人間としての倫理性、すなわち正義感や友情、思いやりを身につけさせ、自然の美しさや芸術的表現に感動する心を育てることもまた小学校教育の課題です。

そのため、児童教育コースでは以下のことを重視します。

【小学校教諭をめざす場合】

1）子どもと教育についての理論と実践を学び、自らの子ども観・教育観を磨く。

現代社会に生きる子どもたちの状況を様々な面から深くとらえ、その子どもたちの成長・発達のために何ができるかを主体的に考え、情熱を持ち粘り強く取り組みことができる教師を育てる。そのために、子どもの発達や教育について深く掘り下げる姿勢、そして現代社会の様々な困難に直面する子どもたちに共感的に関わる中で自らも学び成長しようとする姿勢を育む。

2）教えること、育むことの基本を理解し実践する力をつける。

教えることの要は授業づくりである。カリキュラムを考え、授業をデザインし、子どもと共に授業をつくる力が求められる。教え込みに陥らず子どもの主体的な学びを引き出す授業づくりは単なる技術ではない。各教科内容の背後に横たわる学問への深い理解に基づく指導が求められる。そのために各教科の概論を学び、それらをふまえて教科・領域での教育方法を学ぶ。さらに、現実的な課題についての総合的な学び、子ども同士の学び合いや話し合いを重視した授業、ICTの活用など新たな学習のあり方についても理解を深める。そうして獲得した知識や技能を、教育実習を通して検証し、より実践的なものとしていく。

育むことの要は学級づくりである。子どもが安心して過ごすことができ、仲間との豊かな関係を築けるような学級づくりのためには、教師の人間性や子どもに対する共感的なまなざしが不可欠である。それを深めるために、日本の教師たちの学級づくりや生活指導の豊かな実践から学ぶことを重視する。

3）教育実践への反省力を身につける。

授業づくりも学級づくりも、生きた子どもと教師との相互の関わりの中でなされる。そこで教師に求められるのは、子どものつぶやきや小さな変化をとらえ、評価と自己反省を行いながら前へ進む姿勢である。様々な失敗はつきものであり、それにめげずに失敗から学ぶことのできる姿勢を育む。そのためにゼミなどで、自分の実践を客観的に分析し、批判的に検討することを不断に行う。

4）人間的な魅力にあふれ、子どもたちに共感できる教師になる。

大学生活でも授業だけでなく、サークル活動、地域での社会的な活動、読書や芸術や自然体験などに積極的に取り組む中で、他者との協同の経験を豊かに積み、人間的な成長をめざしてほしい。

5）ゆたかな共感能力と交流能力を育てる

（2）各回生の到達目標

次ページからの表は、各学科・コース別に、専門教育科目の獲得目標を一覧化したものです。その後のページに続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、４年間でどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。

ディプロマ・ポリシー(DP)	①教師・保育士として必要とされる基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②子どもが育つ道筋を理解し、子どもに働きかける力を身につけている。 ③人間の尊厳への敬意を払い、相手の気持ちや考えを尊重する態度を身につけている。 ④多様な背景を持つ人々を受け入れ、他者と協働する力を身につけている。 ⑤専門的な知識に基づき自ら問題を発見し、探求する態度を身につけている。
4回生	①教育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を理論的に探求し、自分自身の考えを論理的に述べることのできる能力を育てる。 ②現代社会における教育の課題をふまえて、教師として、社会人として学び続ける態度を育てる。 ③学校や地域と関わる中で、教師や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。
3回生	①子どもを支援し、子どもを取り巻く人々とつながることのできる専門的な知識と技能を育てる。 ②各教科・領域の指導を構想し実践する能力を育てる。 ③教育実習を通して、実践力とそれを振り返る反省力を育てる。
2回生	①教育を社会、地域、家庭の現実との関わりの中でとらえ、子どもや保護者に共感する態度を育てる。 ②各教科・領域の指導内容や指導方法について理解し、実践する能力を育てる。 ③フィールドワークを通して、授業や学級指導の実際についての理解を深める。
1回生	①主体的に学習に取り組むとともに積極的に人に関わる態度を育てる。 ②教育のあり方についての基礎的な考え方や知識を得る。 ③フィールドワークでの観察を通して、子ども理解を深める。

(3) 児童教育学科　児童教育コース　専門教育科目群　カリキュラムマップ

科目区分				科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コースごとのディプロマ・ポリシー	備考	
専門教育科目群	必修科目			CE-Z111	研究入門ゼミⅠ	2	必修	演習	1回生	②③⑦	①②③		専門教育科目群88単位以上のうち必修56単位、選択必修32単位以上（区分1から10単位以上、区分2から16単位以上、区分3から6単位以上）を修得
				CE-Z112	研究入門ゼミⅡ	2	必修	演習	1回生	②③⑦	①②③		
				CE-Z121	教育原論（初）	2	必修	講義	1回生	①④⑤	①⑤		
				CE-Z121	現代と教育	2	必修	講義	1回生	①⑤⑥⑦	①⑤		
				CE-Z211	基礎演習Ⅰ	2	必修	演習	2回生	①②③⑦	①③⑤		
				CE-Z211	基礎演習Ⅱ	2	必修	演習	2回生	①②③⑦	①③⑤		
				CE-Z221	教育課程論（初）	2	必修	講義	2回生	①④⑤	①⑤		
				CE-Z221	教育方法論（初）	2	必修	講義	2回生	①③⑥	①⑤		
				CE-Z311	教育演習Ⅰ	2	必修	演習	3回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z312	教育演習Ⅱ	2	必修	演習	3回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z411	教育演習Ⅲ	2	必修	演習	4回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z412	教育演習Ⅳ	2	必修	演習	4回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z431	教育相談（初）	2	必修	講義	4回生	①③⑤	①②③④⑤		
				CE-Z411	卒業研究	6	必修	演習	4回生	①⑥⑦	③⑤		
	選択必修科目	学科共通	区分1	CE-Z121	教職入門（初）	2	選択	講義	1回生	①②③	①②③	学科共通区分1と合計で10単位以上選択必修	
				CE-Z121	教育心理学（初）	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦	①②③		
				CE-Z121	音楽概論	2	選択	講義	1回生	①④⑦	①④		
				CE-Z121	美術概論	2	選択	講義	1回生	①②⑥	③④⑤		
				CE-Z121	数学概論	2	選択	講義	1回生	①②⑥	①②⑤		
				CE-Z121	体育概論	2	選択	講義	1回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-Z122	音楽演習Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C221	こども理解Ⅰ（幼児）	2	選択	講義	2回生	①④⑤	①②		
				CE-P121	絵画・工芸演習	2	選択	演習	1回生	①②④	①⑤		
			区分2	CE-Z221	教育制度論（初）	2	選択	講義	2回生	①⑤⑥	①⑤	学科共通区分2と合計で16単位以上選択必修	
				CE-Z221	国語概論	2	選択	講義	2回生	①④⑥	①②⑤		
				CE-Z221	生活科概論	2	選択	講義	2回生	①⑤⑦	①②		
				CE-C331	保育内容総論	2	選択	講義	3回生	①④⑤	①②		
				CE-C331	保育内容演習（環境）Ⅰ	1	選択	演習	3回生	②④⑤	①②⑤		
				CE-C332	保育内容演習（環境）Ⅱ	1	選択	演習	3回生	②④⑤	①②⑤		
				CE-C331	保育内容演習（表現）Ⅰ	1	選択	演習	3回生	①②⑦	①②⑤		
				CE-C332	保育内容演習（表現）Ⅱ	1	選択	演習	3回生	①②⑦	①②⑤		
				CE-C331	保育内容演習（健康）Ⅰ	1	選択	演習	3回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C332	保育内容演習（健康）Ⅱ	1	選択	演習	3回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C331	保育内容演習（人間関係）Ⅰ	1	選択	演習	3回生	①②⑤	①②③④		
				CE-C332	保育内容演習（人間関係）Ⅱ	1	選択	演習	3回生	①②⑦	①②③④		
				CE-C331	保育内容演習（言語）	1	選択	演習	3回生	①④⑥	①②④⑤		
				CE-C332	保育の言語表現	1	選択	講義	3回生	①④⑥	①②④⑤		
				CE-C221	幼児体育Ⅰ	1	選択	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C222	幼児体育Ⅱ	1	選択	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C221	幼児体育指導法Ⅰ	1	選択	講義	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C221	幼児体育指導法Ⅱ	1	選択	講義	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-Z121	音楽演習入門	2	選択	演習	1回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C221	音楽演習Ⅱ	2	選択	演習	2回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C321	音楽演習Ⅲ	2	選択	演習	3回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C321	音楽演習Ⅳ	2	選択	演習	3回生	①②⑦	①⑤		
				CE-Z241	学校・地域調査（国内）Ⅰ	1	選択	実験・実習	2回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z321	児童と発達教育	2	選択	講義	3回生	①②④	①④		
			区分3	CE-P341	教育実習指導	1	選択	演習	3回生	①⑤⑥	①②	児童教育コース区分3と合計して6単位以上選択必修	
				CE-P341	教育実習	4	選択	実験・実習	3回生	①⑤⑥	①②		
				CE-P441	教育実習（小学校）Ⅱ	2	選択	実験・実習	4回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-Z321	特別支援教育論	2	選択	講義	3回生	①③⑤	①②③④		
				CE-P321	表現教育論	2	選択	講義	3回生	①②④	③④⑤		
				CE-Z321	総合学習論	2	選択	講義	3回生	②③④⑤	①②③④		
				CE-Z321	児童の教育統計	2	選択	講義	3回生	②⑥	①⑤		
				CE-Z321	児童文学研究	2	選択	講義	3回生	①④⑦	①⑤		
				CE-Z321	児童文化論	2	選択	講義	3回生	①④⑦	①⑤		
				CE-Z321	児童英語教育研究	2	選択	講義	3回生	②③④	①②		
				CE-Z331	児童英語教材研究	2	選択	講義	3回生	②③④	①②		
				CE-Z431	児童英語指導演習Ⅰ	2	選択	演習	4回生	②③④	①②		
				CE-Z432	児童英語指導演習Ⅱ	2	選択	演習	4回生	②③④	①②		
				CE-Z441	教職実践演習（初等）	2	選択	演習	4回生	①⑤⑦	①②④⑤		

科目区分				科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コースごとのディプロマ・ポリシー	備考	
専門教育科目群	選択必修科目	児童教育コース	区分1	CE-P221	道徳教育の理論と方法（初）	2	必修	講義	2回生	①③④⑥	①③④		専門教育科目群88単位以上のうち必修56単位、選択必修32単位以上（区分1から10単位以上、区分2から16単位以上、区分3から6単位以上）を修得
				CE-P221	特別活動論（初）	2	必修	講義	2回生	①③⑤	①⑤		
				CE-P231	生徒・進路指導（初）	2	必修	講義	2回生	①③④⑤	①②③		
				CE-P231	教科教育法（算数）	2	必修	演習	2回生	①②⑥	①②③		
				CE-P231	教科教育法（理科）	2	必修	演習	2回生	①②⑥	①⑤		
				CE-P231	教科教育法（音楽）	2	必修	演習	2回生	①⑤⑦	①⑤		
				CE-P231	教科教育法（家庭）	2	必修	演習	2回生	①②④	①⑤		
				CE-P331	教科教育法（国語）	2	必修	演習	3回生	①②⑦	①②⑤		
				CE-P331	教科教育法（社会）	2	必修	演習	3回生	①⑤⑦	①②⑤		
				CE-P331	教科教育法（図画工作）	2	必修	演習	3回生	①②⑥	①②⑤		
				CE-P331	教科教育法（生活）	2	必修	演習	3回生	①②⑥	①②⑤		
				CE-P331	教科教育法（体育）	2	必修	演習	3回生	①⑤⑥	①②⑤		
			区分1	CE-P121	自然科学概論	2	選択	講義	1回生	①⑤⑦	①⑤	学科共通区分1と合計で10単位以上選択必修	
				CE-P121	こども理解Ⅱ（児童）	2	選択	講義	1回生	①④⑤	①②		
				CE-P131	ディベート指導技術入門（小学校）	2	選択	演習	1回生	⑥⑦	①③⑤		
			区分2	CE-P221	社会科概論	2	選択	講義	2回生	①⑤⑦	①②⑤	学科共通区分2と合計で16単位以上選択必修	
				CE-P221	家庭科概論	2	選択	講義	2回生	①②③	①⑤		
				CE-P231	学級担任論	2	選択	講義	2回生	①②⑤	①②⑤		
				CE-P241	小学校ICT教育演習	2	選択	演習	2回生	②⑥	①⑤		
			区分3	CE-P321	児童社会学	2	選択	講義	3回生	③④	①③④	学科共通区分3と合計して6単位以上選択必修	
自由科目				CE-Z241	学校・地域調査（国内）Ⅱ	1	自由	実験・実習	2回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z341	学校・地域調査（国内）Ⅲ	1	自由	実験・実習	3回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z341	学校・地域調査（国内）Ⅳ	1	自由	実験・実習	3回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z341	学校・地域調査（海外）	1	自由	実験・実習	3回生	①④⑦	③④⑤		
				CE-Z331	英語教育論	2	自由	講義	3回生	①②④	①④⑤		

※自由科目は卒業要件単位に含まれません。

全学共通の到達目標	①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 ②知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得 ③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得 ④異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得 ⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得 ⑥物事を論理的に分析する能力の獲得 ⑦読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得
学科・コース別のディプロマ・ポリシー	①教師・保育士として必要とされる基礎的な知識や考え方を身につける。 ②子どもが育つ道筋を理解し、子どもに働きかける力を身につける。 ③人間の尊厳への敬意を払い、相手の気持ちや考えを尊重する態度を身につける。 ④多様な背景を持つ人々を受け入れ、他者と協働する力を身につける。 ⑤専門的な知識に基づき自ら問題を発見し、探求する態度を身につける。

◆「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。
各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。
ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

〈科目ナンバーの見方〉

[例] CE（①） − ○（②） 1（③） 1（④） 1（⑤）

①学科　ＣＥ：児童教育学科
②コース　Ｚ：学科共通　Ｐ：児童教育　Ｃ：幼児教育
③回生　１：１回生　２：２回生　３：３回生　４：４回生
④教育目標　０：基礎的な知識や教養の獲得　１：主体的な態度の育成
２：子ども理解と専門的知識の獲得　３：教育・保育の方法、技術の習得
４：教育・保育に関わる実践的能力の育成
⑤履修順序　同系科目中の履修順序（指定なしは１）

発達教育学部　児童教育学科　児童教育コース　カリキュラム表

基礎教育科目群

	単位	回生		単位	回生		単位	回生
日本語表現Ⅰ	2	1〜	英語Ⅱ B	1	1〜	英語Ⅳ B	1	2〜
英語Ⅰ A	1	1〜	英語Ⅲ A	1	2〜	情報処理演習Ⅰ	1	1〜
英語Ⅰ B	1	1〜	英語Ⅲ B	1	2〜	情報処理演習Ⅱ	1	1〜
英語Ⅱ A	1	1〜	英語Ⅳ A	1	2〜			

必修12単位

教養教育科目群・キャリア教育科目群 必修

教養入門　単位 2　回生 1〜　＋　地域課題研究　単位 1　回生 1〜　＝　必修 3 単位

教養教育科目群・キャリア教育科目群 選択必修

選択必修22単位以上

人間と知の伝達（領域）

●現代の思想（分野）

	単位	回生
哲学概論	2	1〜
倫理学概論	2	1〜
日本人と宗教	2	1〜
ジェンダー研究	2	1〜
宗教学概論	2	2〜
心理学概論	2	2〜

●メディアと情報（分野）

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1〜
日本語表現Ⅱ	2	1〜
ｷｬﾘｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	2	2〜
ｷｬﾘｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	2	2〜
現代のメディアと表現	2	1〜
情報社会論	2	1〜
情報処理演習Ⅲ	1	2〜
情報処理演習Ⅳ	1	2〜
情報処理演習Ⅴ	1	2〜
情報処理演習Ⅵ	1	2〜
数学演習Ⅰ	2	1〜
数学演習Ⅱ	2	1〜

人間と文化（領域）

●外国語と文化理解（分野）

	単位	回生
比較文化論	2	1〜
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論（人文）	2	1〜
文化人類学	2	1〜
芸術と文化	2	1〜
中国語Ⅰ	2	1〜
中国語Ⅱ	2	1〜
中国語Ⅲ	2	1〜
中国語Ⅳ	2	1〜
韓国語Ⅰ	2	1〜
韓国語Ⅱ	2	1〜
韓国語Ⅲ	2	1〜
韓国語Ⅳ	2	1〜
フランス語Ⅰ	2	1〜
フランス語Ⅱ	2	1〜
ドイツ語Ⅰ	2	1〜
ドイツ語Ⅱ	2	1〜
外国語臨地演習	2	1〜

●歴史・文化（分野）

	単位	回生
歴史学入門	2	1〜
京都講座Ⅰ	2	1〜
京都講座Ⅱ	2	1〜
京都の歴史・文化Ⅰ	2	1〜
京都の歴史・文化Ⅱ	2	1〜
文学と京都	2	1〜

人間と社会（領域）

●法律・行政・政治（分野）

	単位	回生
日本国憲法	2	1〜
法学概論Ⅰ	2	1〜
法学概論Ⅱ	2	1〜
民法	2	2〜
行政法	2	2〜
人権と教育	2	2〜
政治学概論Ⅰ	2	1〜
政治学概論Ⅱ	2	1〜
国際関係入門	2	2〜
行政学	2	2〜

●経済・経営・社会（分野）

	単位	回生
くらしと経済	2	1〜
経済学概論Ⅰ	2	2〜
経済学概論Ⅱ	2	2〜
経営学概論	2	1〜
会計学概論	2	1〜
福祉とボランティア	2	1〜
社会学概論Ⅰ	2	1〜
社会学概論Ⅱ	2	1〜
時事問題研究	2	1〜

人間と自然（領域）

●健康・こころ・からだ（分野）

	単位	回生
健康に生きるⅠ	2	1〜
健康に生きるⅡ	2	1〜
健康に生きるⅢ	2	1〜
体育理論	2	1〜
スポーツコースⅠ	1	1〜
スポーツコースⅡ	1	1〜
スポーツコースⅢ	1	1〜
スポーツコースⅣ	1	1〜

●自然と環境（分野）

	単位	回生
地球生命論	2	1〜
地球環境論	2	1〜
エコロジー研究	2	1〜
自然の探求	2	1〜
地理学概論	2	1〜
生活の中の数学	2	1〜
物理学基礎	2	1〜
化学基礎	2	1〜
生物学基礎	2	1〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
キャリア開発講座Ⅰ	2	1〜
キャリア開発講座Ⅱ	2	1〜
キャリア開発講座Ⅲ	2	2〜
キャリア開発講座Ⅳ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅰ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅱ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅲ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅳ	2	2〜
キャリア開発研究Ⅰ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅱ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅲ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅳ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅴ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅵ	2	3〜
インターンシップA（ビジネス）	2	1〜
インターンシップB（図書館司書）	2	2〜
インターンシップC（行政）	2	2〜
インターンシップD（NGO・NPO）	2	2〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
よそおいの心理学	2	2〜
産業心理学	2	2〜
広告と消費の心理学	2	3〜
教職・保育職教養講義Ⅰ	2	3〜
教職・保育職教養講義Ⅱ	2	3〜
教職・保育職教養講義Ⅲ	2	4
教職・保育職教養講義Ⅳ	2	4
※教職入門	2	1〜
※教育心理学	2	1〜
※教育原論	2	1〜
※教育制度論	2	2〜
※教育課程論	2	2〜
※道徳教育の理論と方法	2	2〜
※特別活動論	2	2〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
※教育方法論	2	2〜
※生徒・進路指導	2	3〜
※教育相談	2	2〜
※教職実践演習（中等）	2	4
生涯学習概論Ⅰ	2	1〜
図書館概論	2	1〜
図書館制度・経営論	2	2〜
図書館情報資源概論	2	2〜
博物館学概論	2	1〜
博物館経営論	2	2〜
博物館資料論	2	2〜
博物館資料保存論	2	2〜
博物館展示論	2	2〜
博物館教育論	2	1〜
博物館実習Ⅰ	1	3〜
博物館実習Ⅱ	1	3〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
日本語教授法Ⅰ	2	2〜
日本語教授法Ⅱ	2	2〜
日本語教授法Ⅲ	2	3〜
日本語教授法Ⅳ	2	3〜
日本語教材研究	2	4
日本語教育実習	2	4
社会調査論	2	2〜
統計学基礎論	2	2〜

※科目は中等教職科目となります。

専門教育科目群 必修

1回生 + 2回生 + 3回生 + 4回生 ＝ 必修56単位

1回生	単位	回生	小学校	幼稚園
研究入門ゼミⅠ	2	1〜		
研究入門ゼミⅡ	2	1〜		
教育原論（初）	2	1〜	●	●
現代と教育	2	1〜		

2回生	単位	回生	小学校	幼稚園
基礎演習Ⅰ	2	2〜		
基礎演習Ⅱ	2	2〜		
教育課程論（初）	2	2〜	●	●
道徳教育の理論と方法（初）	2	2〜	●	
特別活動論（初）	2	2〜	●	
教育方法論（初）	2	2〜	●	●
生徒・進路指導（初）	2	2〜	●	
教科教育法（算数）	2	2〜	●	
教科教育法（理科）	2	2〜	●	
教科教育法（音楽）	2	2〜	●	
教科教育法（家庭）	2	2〜	●	

3回生	単位	回生	小学校	幼稚園
教育演習Ⅰ	2	3〜		
教育演習Ⅱ	2	3〜		
教科教育法（国語）	2	3〜	●	
教科教育法（社会）	2	3〜	●	
教科教育法（生活）	2	3〜	●	
教科教育法（図画工作）	2	3〜	●	
教科教育法（体育）	2	3〜	●	

4回生	単位	回生	小学校	幼稚園
教育演習Ⅲ	2	4		
教育演習Ⅳ	2	4		
教育相談（初）	2	4	●	●
卒業研究	6	4		

専門教育科目群 選択必修

選択必修32単位以上

〔区分1〕 10単位以上

	単位	回生	小学校	幼稚園
教職入門（初）	2	1〜	●	●
教育心理学（初）	2	1〜	●	●
自然科学概論	2	1〜	●	
音楽概論	2	1〜	●	●
美術概論	2	1〜	●	●
数学概論	2	1〜	●	●
体育概論	2	1〜	●	●
音楽演習Ⅰ	2	1〜		●
絵画・工芸演習	2	1〜		●
こども理解Ⅰ（幼児）	2	2〜		●
こども理解Ⅱ（児童）	2	1〜	△	
ディベート指導技術入門（小学校）	2	1〜	△	

〔区分2〕 16単位以上

	単位	回生	小学校	幼稚園
教育制度論（初）	2	2〜	●	●
国語概論	2	2〜	●	●
社会科概論	2	2〜	●	
生活科概論	2	2〜	●	●
家庭科概論	2	2〜	●	
保育内容総論	2	3〜		●
保育内容演習（環境）Ⅰ	1	3〜		●
保育内容演習（環境）Ⅱ	1	3〜		●
保育内容演習（表現）Ⅰ	1	3〜		●
保育内容演習（表現）Ⅱ	1	3〜		●
保育内容演習（健康）Ⅰ	1	3〜		●
保育内容演習（健康）Ⅱ	1	3〜		●
保育内容演習（人間関係）Ⅰ	1	3〜		●
保育内容演習（人間関係）Ⅱ	1	3〜		●
保育内容演習（言語）	1	3〜		●
保育の言語表現	1	3〜		●
幼児体育Ⅰ	1	2〜		
幼児体育Ⅱ	1	2〜		
幼児体育指導法Ⅰ	1	2〜		●
幼児体育指導法Ⅱ	1	2〜		●
音楽演習Ⅱ	2	2〜		
音楽演習Ⅲ	2	3〜		
音楽演習Ⅳ	2	3〜		
学級担任論	2	2〜	○	○
音楽演習入門	2	1〜	△	
小学校ＩＣＴ教育演習	2	2〜	△	
学校・地域調査（国内）Ⅰ	1	2〜	△	
児童と発達教育	2	3〜	△	

幼児体育Ⅰの履修を幼児体育指導法Ⅰに読み替えます
幼児体育Ⅱの履修を幼児体育指導法Ⅱに読み替えます

〔区分3〕 6単位以上

	単位	回生	小学校	幼稚園
教育実習指導	1	3〜	●	●
教育実習	4	3〜	●	●
教育実習（小学校）Ⅱ	2	4		
特別支援教育論	2	3〜	△	
表現教育論	2	3〜		
総合学習論	2	3〜	△	
児童の教育統計	2	3〜	△	
児童文学研究	2	3〜	△	
児童文化論	2	3〜	△	
児童社会学	2	3〜	△	
児童英語教育研究	2	3〜	○	
児童英語教材研究	2	3〜	○	
児童英語指導演習Ⅰ	2	4	○	
児童英語指導演習Ⅱ	2	4	○	
教職実践演習（初等）	2	4	●	●

自由科目

	単位	回生	小学校	幼稚園
学校・地域調査（国内）Ⅱ	1	2〜		
学校・地域調査（国内）Ⅲ	1	3〜		
学校・地域調査（国内）Ⅳ	1	3〜		
学校・地域調査（海外）	1	3〜		
英語教育論	2	3〜		

●小学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状取得に必須となる科目
○小学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状取得に選択となる科目（選択の条件等については、履修の手引き第12章免許・資格の各カリキュラム表で確認をすること）
△小学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状取得に必須または選択とされていないが、小学校教諭を目指すために児童教育学科が推奨する科目

注1：教職課程については、課程のカリキュラム表により、必ず履修方法等を確認の上、履修すること。
注2：　の科目は、時間割において、科目名の後ろに（初）と表記されている科目を履修しなければなりません。（初）と表記されていない科目は、中等教職課程の科目となるので注意してください。

基礎教育科目群＋教養教育科目群＋キャリア教育科目群 37単位以上 ＋ 専門教育科目群 必修 56単位以上 ＋ 専門教育科目群 選択必修 32単位以上 ＝ 125単位以上

2．幼児教育コース

（1）コースの特徴

幼児教育コースは、主として保育士と幼稚園教諭を養成します。両者は資格としては異なりますが、どちらも（乳児あるいは）幼児という、人間としての基礎を形づくる重要な時期を理解し、それにふさわしい保育を行うという共通性を持っています。したがって本コースでは、保育士資格ならびに幼稚園教諭１種免許状の両方を取得することを基本とし、豊かな教養と高い専門性を身につけた人材を養成します。

【保育士をめざす場合】

保育士が保育をする子どもの対象年齢は広く、保育所では０歳児から就学前まで（その他の児童福祉施設では18歳まで）含まれます。したがって、子どもの発達について幅広く理解することが求められます。また、子どもの生活全体を理解し、長い保育時間にふさわしい保育のあり方を構成する視点が必要です。幼稚園教諭の項に加えて、以下のことを重視し、保育士としての専門性を高めます。

1）乳幼児を理解する知識と技術を習得する

乳幼児を理解するには、乳幼児の発達のみちすじについての知識がまず必要である。さらに、乳幼児を取り巻く社会環境、生活環境の知識も必要となる。カリキュラムでは、乳幼児の発達や学習に関する知識を学ぶと共に、乳幼児を取り巻く親子関係、仲間関係、対人関係などの人間関係のありようを理解し、個々の乳幼児の発達課題を理解し、それを支援できる技術力を育成する。

2）保護者とのパートナーシップのもとに子育て支援を行う力を身につける

乳幼児の発する一言や表現に心動かされる豊かな感性、乳幼児観察から得られる小さな気づきを保育の見直しにいかす積極性などをもとに保育計画を立て、保護者とのパートナーシップのもとに子育て支援を行う力を身につける。さらに、乳幼児とのコミュニケーション能力ばかりでなく、保護者や家族とコミュニケーションすることのできる能力も身につける。

3）乳幼児の最善の利益を追求し、プライバシーを保護する倫理観と方法を身につける

一人ひとりの乳幼児をかけがえのない存在としてとらえ、乳幼児の最善の利益を追求し、乳幼児の発達保障、保護者との協力協同の関係づくり、関連するプライバシーの保護などを行える保育士としての技能を身につけ倫理観を発達させる。

【幼稚園教諭をめざす場合】

幼稚園教育では、基本的な生活習慣を身につけるとともに、人間的情感、生きる意欲、人と関わる楽しさを身につけ、感性においても知性においても、さらに社会性を身につける領域においても、適切で充実した意図的で系統的な働きかけである教育が行われます。この時期の教育は、人間の人格形成と能力発達においてきわめて大きな意義を持ちます。そのため、本学科の幼稚園教諭の養成においては以下のことを重視し、幼児を総合的に理解し、その発達を援助できる人材を養成します。

1）幼児を総合的に理解する力を身につける

言語や数認識の発達を個別的要素的に評価して、その個別的データにのみ依拠してその幼児を理解してはいけない。幼児をひとりの人間として、同時に発達可能体としてとらえ、総合的に理解しようとすることが大切である。そのような理解の過程で幼児の全人的発達を支援できる。そのような幼児を総合的に理解する力を身につける。

2）幼児を生育環境の中で深く理解できる力を身につける

幼児教育では、幼児の生育歴や生育環境の理解が大切である。それらを知ることを単に情報の豊富化としてとらえるのではなく、暖かな共感的まなざしの中で、働きかけの土壌として理解できる教員となれるよう研鑽を行う。

3）幼児をよりよく理解するための姿勢・態度を培う

明るく笑顔で日々幼児と接することができることは幼稚園教諭として大切なことである。これができるためには幼児の発達課題を理論的に深く把握するとともに、一人ひとりの成長によりそい、きめ細かな支援を行おうとする姿勢や態度が必要である。児童教育学科の教育ではこのような姿勢や態度を育てる。

4）専門家としての教師集団を自覚的に形成できる力を育成する

少子化、核家族化、都市化、情報化といった社会の変化の中で、幼児の生活も変化している。自然の中の遊びは少なくなり、テレビやコンピュータ・ゲームなどの室内遊びが増えている。こういった状況の下での幼児教育は、一人の教員の個別的努力だけで進むものではない。幼稚園のうちそとにおける協力協同が必要であり、教師は幼児教育の専門家として集団的にそのリーダーシップを取らなくてはならない。そのような指導力、組織力を身につける。

（2）各回生の到達目標

次ページからの表は、各学科・コース別に、専門教育科目の獲得目標を一覧化したものです。その後のページに続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、４年間でどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。

ディプロマ・ポリシー(DP)	①教師・保育士として必要とされる基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②子どもが育つ道筋を理解し、子どもに働きかける力を身につけている。 ③人間の尊厳への敬意を払い、相手の気持ちや考えを尊重する態度を身につけている。 ④多様な背景を持つ人々を受け入れ、他者と協働する力を身につけている。 ⑤専門的な知識に基づき自ら問題を発見し、探求する態度を身につけている。
4回生	①保育や人間発達に関する課題を見つけ、その課題を理論的に探求し、自分自身の考えを論理的に述べることのできる能力を育てる。 ②現代社会における保育の課題を踏まえ、保育者として、社会人として学び続ける態度を育てる。 ③保育などの現場と関わる中で、保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。
3回生	①保育に関する専門的な知識を習得し、保育を構想・実践し、振り返ることのできる能力を育てる。 ②子どもを取り巻く家庭、地域、社会の実際についての理解を深める。 ③子どもと子どもを取り巻く人々を支援することのできる専門的な知識と技能を育てる。
2回生	①自分の考えを整理し、論理的に表現することができる。 ②保育に関する基礎的な知識を習得し、その知識に基づいて保育実践を構想することのできる能力を育てる。 ③保育現場における体験的な学習を通して、保育の現状や問題を知り、それらの課題を探究することができる。
1回生	①大学での学習を深めるための基礎的な教養を得る。 ②保育に関する課題に関心をもち、大学での学習を主体的に取り組む態度を育てる。 ③保育現場における乳幼児の観察を通して、子ども理解を深めると同時に保育者の役割を知る。

(3) 児童教育学科　幼児教育コース　専門教育科目群　カリキュラムマップ

科目区分				科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考	
専門教育科目群	必修科目			CE-Z111	研究入門ゼミⅠ	2	必修	演習	1回生	②③⑦	①②③		専門教育科目群88単位以上のうち、必修41単位、選択必修47単位以上（区分1から14単位以上、区分2から25単位以上、区分3から8単位以上）を修得
				CE-Z112	研究入門ゼミⅡ	2	必修	演習	1回生	②③⑦	①②③		
				CE-Z121	教育原論（初）	2	必修	講義	1回生	①④⑤	①⑤		
				CE-Z121	現代と教育	2	必修	講義	1回生	①⑤⑥⑦	①⑤		
				CE-Z211	基礎演習Ⅰ	2	必修	演習	2回生	①②③⑦	①③⑤		
				CE-Z212	基礎演習Ⅱ	2	必修	演習	2回生	①②③⑦	①③⑤		
				CE-Z321	教育課程論（初）	2	必修	講義	3回生	①④⑤	①⑤		
				CE-Z321	教育方法論（初）	2	必修	講義	3回生	①③⑥	①⑤		
				CE-Z311	教育演習Ⅰ	2	必修	演習	3回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z312	教育演習Ⅱ	2	必修	演習	3回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z411	教育演習Ⅲ	2	必修	演習	4回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z412	教育演習Ⅳ	2	必修	演習	4回生	①⑥⑦	③⑤		
				CE-Z431	教育相談（初）	2	必修	講義	4回生	①③⑤	①②③④⑤		
				CE-Z411	卒業研究	6	必修	演習	4回生	①⑥⑦	③⑤		
	選択必修科目	学科共通	区分1	CE-Z121	教職入門（初）	2	選択	講義	1回生	①②③	①②③	幼児教育コース区分1と合計して14単位以上選択必修	
				CE-Z121	教育心理学（初）	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦	①②③		
				CE-Z121	音楽概論	2	選択	講義	1回生	①④⑦	①④		
				CE-Z121	美術概論	2	選択	講義	1回生	①②⑥	③④⑤		
				CE-Z121	数学概論	2	選択	講義	1回生	①②⑥	①②⑤		
				CE-Z121	体育概論	2	選択	講義	1回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-Z122	音楽演習Ⅰ	2	選択	演習	1回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C221	こども理解Ⅰ（幼児）	2	選択	講義	2回生	①④⑤	①②		
				CE-C121	絵画・工芸演習	2	選択	演習	1回生	①②④	①⑤		
			区分2	CE-Z321	教育制度論（初）	2	選択	講義	3回生	①⑤⑥	①⑤	幼児教育コース区分2と合計して25単位以上選択必修	
				CE-Z321	国語概論	2	選択	講義	3回生	①④⑥	①②⑤		
				CE-Z321	生活科概論	2	選択	講義	3回生	①⑤⑦	①②		
				CE-C331	保育内容総論	2	選択	演習	3回生	①④⑤	①②		
				CE-C231	保育内容演習（環境）Ⅰ	1	必修	演習	2回生	②④⑤	①②⑤		
				CE-C232	保育内容演習（環境）Ⅱ	1	必修	演習	2回生	②④⑤	①②⑤		
				CE-C131	保育内容演習（表現）Ⅰ	1	必修	演習	1回生	①②⑦	①②⑤		
				CE-C132	保育内容演習（表現）Ⅱ	1	必修	演習	1回生	①②⑦	①②⑤		
				CE-C231	保育内容演習（健康）Ⅰ	1	必修	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C232	保育内容演習（健康）Ⅱ	1	必修	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C231	保育内容演習（人間関係）Ⅰ	1	必修	演習	2回生	①②⑤	①②③④		
				CE-C232	保育内容演習（人間関係）Ⅱ	1	必修	演習	2回生	①②⑦	①②③④		
				CE-C331	保育内容演習（言語）	1	必修	演習	3回生	①④⑥	①②④⑤		
				CE-C332	保育の言語表現	1	選択	講義	3回生	①④⑥	①②④⑤		
				CE-C221	幼児体育Ⅰ	1	選択	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C222	幼児体育Ⅱ	1	選択	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C221	幼児体育指導法Ⅰ	1	選択	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C221	幼児体育指導法Ⅱ	1	選択	演習	2回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-C121	音楽演習入門	2	選択	演習	1回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C221	音楽演習Ⅱ	2	選択	演習	2回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C321	音楽演習Ⅲ	2	選択	演習	3回生	①②⑦	①⑤		
				CE-C221	音楽演習Ⅳ	2	選択	演習	3回生	①②⑦	①⑤		
				CE-Z241	学校・地域調査（国内）Ⅰ	1	選択	実験・実習	2回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z321	児童と発達教育	2	選択	講義	3回生	①②④	①④		
		学科共通	区分3	CE-C341	教育実習指導	1	選択	演習	3回生	①⑤⑥	①②	幼児教育コース区分3と合計して8単位以上選択必修	
				CE-C341	教育実習	4	選択	実験・実習	3回生	①⑤⑥	①②		
				CE-P441	教育実習（小学校）Ⅱ	2	選択	実験・実習	4回生	①⑤⑥	①②⑤		
				CE-Z321	特別支援教育論	2	選択	講義	3回生	①③⑤	①②③④		
				CE-C321	表現教育論	2	選択	講義	3回生	①②④	③④⑤		
				CE-Z321	総合学習論	2	選択	講義	3回生	②③④⑤	①②③④		
				CE-Z321	児童の教育統計	2	選択	講義	3回生	②⑥	①⑤		
				CE-Z321	児童文学研究	2	選択	講義	3回生	①④⑦	①⑤		
				CE-Z321	児童文化論	2	選択	講義	3回生	①④⑦	①⑤		
				CE-Z321	児童英語教育研究	2	選択	講義	3回生	②③④	①②		
				CE-Z331	児童英語教材研究	2	選択	講義	3回生	②③④	①②		
				CE-Z431	児童英語指導演習Ⅰ	2	選択	演習	4回生	②③④	①②		
				CE-Z432	児童英語指導演習Ⅱ	2	選択	演習	4回生	②③④	①②		
				CE-C441	教職実践演習（初等）	2	選択	演習	4回生	①⑤⑦	①②④⑤		

科目区分				科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考	
専門教育科目群	選択必修科目	幼児教育コース	区分1	CE-C121	社会福祉	2	選択	講義	1回生	①②⑤	①③④	学科共通区分1と合計して14単位以上選択必修	専門教育科目群88単位以上のうち、必修41単位、選択必修47単位以上（区分1から14単位以上、区分2から25単位以上、区分3から8単位以上）を修得
				CE-C121	こどもの保健Ⅰ－1	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥	②③④		
				CE-C121	発達心理学	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦	①②③		
				CE-C221	保育原理	2	選択	講義	2回生	①④⑥	①②⑤		
			区分2	CE-C231	相談援助	1	選択	講義	2回生	①⑤⑦	③⑤	幼児教育コースの区分2と合計して25単位以上選択必修	
				CE-C231	保育相談支援	1	選択	講義	2回生	①⑤⑦	①③⑤		
				CE-C221	児童家庭福祉	2	選択	講義	2回生	①②⑤	①④⑤		
				CE-C221	社会的養護	2	選択	講義	2回生	①②③	①④⑤		
				CE-C221	こどもの保健Ⅰ－2	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	①②③		
				CE-C222	こどもの保健Ⅱ	1	選択	講義	2回生	①②③	①②③		
				CE-C221	こどもの食と栄養	2	選択	講義	2回生	①②④	①②③		
				CE-C221	保育の心理学	1	選択	講義	2回生	①②③⑤	①②③		
				CE-C221	乳児保育	2	選択	講義	2回生	①②③	②③⑤		
				CE-C221	障害児保育	2	選択	講義	2回生	①②③	①②③④		
				CE-C221	社会的養護内容	2	選択	講義	2回生	①③⑤	①②③④		
				CE-C241	保育実習指導Ⅰ-1	1	選択	演習	2回生	①②⑦	①②③④⑤		
				CE-C241	保育実習Ⅰ-1	2	選択	実験・実習	2回生	②③④⑦	①②③④⑤		
				CE-C242	保育実習指導Ⅱ	1	選択	演習	2回生	①⑤⑥	①②③④⑤		
				CE-C221	体育実技	1	選択	実験・実習	2回生	①②⑥	①⑤		
			区分3	CE-C331	家庭支援論	2	選択	講義	3回生	①④⑤	①③④	幼児教育コースの区分3と合計して8単位以上選択必修	
				CE-C341	保育実習指導Ⅰ－2	1	選択	演習	3回生	①②③	①②③④⑤		
				CE-C341	保育実習Ⅰ－2	2	選択	実験・実習	3回生	②④⑦	①②③④⑤		
				CE-C341	保育実習Ⅱ	2	選択	実験・実習	3回生	①⑤⑥	①②③④⑤		
				CE-C341	保育実習指導Ⅲ	1	選択	演習	3回生	①②③	①②③④⑤		
				CE-C341	保育実習Ⅲ	2	選択	実験・実習	3回生	②④⑦	①②③④⑤		
	自由科目			CE-Z241	学校・地域調査（国内）Ⅱ	1	自由	実験・実習	2回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z341	学校・地域調査（国内）Ⅲ	1	自由	実験・実習	3回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z341	学校・地域調査（国内）Ⅳ	1	自由	実験・実習	3回生	①②⑤	③④⑤		
				CE-Z341	学校・地域調査（海外）	1	自由	実験・実習	3回生	①④⑦	③④⑤		
				CE-Z331	英語教育論	2	自由	講義	3回生	①②④	①④⑤		

全学共通の到達目標	①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
	②知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
	③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
	④異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
	⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
	⑥物事を論理的に分析する能力の獲得
	⑦読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得
学科・コース別のディプロマ・ポリシー	①教師・保育士として必要とされる基礎的な知識や考え方を身につける。
	②子どもが育つ道筋を理解し、子どもに働きかける力を身につける。
	③人間の尊厳への敬意を払い、相手の気持ちや考えを尊重する態度を身につける。
	④多様な背景を持つ人々を受け入れ、他者と協働する力を身につける。
	⑤専門的な知識に基づき自ら問題を発見し、探求する態度を身につける。

◆「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。
各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。
ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

〈科目ナンバーの見方〉
[例] CE － ○ 1 1 1
① ② ③ ④ ⑤

①学科　ＣＥ：児童教育学科
②コース　Ｚ：学科共通　Ｐ：児童教育　Ｃ：幼児教育
③回生　１：１回生　２：２回生　３：３回生　４：４回生
④教育目標　０：基礎的な知識や教養の獲得　１：主体的な態度の育成
２：子ども理解と専門的知識の獲得　３：教育・保育の方法、技術の習得
４：教育・保育に関わる実践的能力の育成
⑤履修順序　同系科目中の履修順序（指定なしは１）

発達教育学部　児童教育学科　幼児教育コース　カリキュラム表

基礎教育科目群

	単位	回生		単位	回生		単位	回生
日本語表現Ⅰ	2	1〜	英語ⅡB	1	1〜	英語ⅣB	1	2〜
英語ⅠA	1	1〜	英語ⅢA	1	2〜	情報処理演習Ⅰ	1	1〜
英語ⅠB	1	1〜	英語ⅢB	1	2〜	情報処理演習Ⅱ	1	1〜
英語ⅡA	1	1〜	英語ⅣA	1	2〜			

必修12単位

教養教育科目群・キャリア教育科目群 必修

教養入門　単位 2　回生 1〜　＋　地域課題研究　単位 1　回生 1〜　＝　必修 3 単位

教養教育科目群・キャリア教育科目群 選択必修

選択必修22単位以上

人間と知の伝達（領域）

●現代の思想（分野）

	単位	回生
哲学概論	2	1〜
倫理学概論	2	1〜
日本人と宗教	2	1〜
ジェンダー研究	2	1〜
宗教学概論	2	2〜
心理学概論	2	2〜

●メディアと情報（分野）

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1〜
日本語表現Ⅱ	2	1〜
キャリアコミュニケーションⅠ	2	2〜
キャリアコミュニケーションⅡ	2	2〜
現代のメディアと表現	2	1〜
情報社会論	2	1〜
情報処理演習Ⅲ	1	2〜
情報処理演習Ⅳ	1	2〜
情報処理演習Ⅴ	1	2〜
情報処理演習Ⅵ	1	2〜
数学演習Ⅰ	2	1〜
数学演習Ⅱ	2	1〜

人間と文化（領域）

●外国語と文化理解（分野）

	単位	回生
比較文化論	2	1〜
異文化コミュニケーション論（人文）	2	1〜
文化人類学	2	1〜
芸術と文化	2	1〜
中国語Ⅰ	2	1〜
中国語Ⅱ	2	1〜
中国語Ⅲ	2	1〜
中国語Ⅳ	2	1〜
韓国語Ⅰ	2	1〜
韓国語Ⅱ	2	1〜
韓国語Ⅲ	2	1〜
韓国語Ⅳ	2	1〜
フランス語Ⅰ	2	1〜
フランス語Ⅱ	2	1〜
ドイツ語Ⅰ	2	1〜
ドイツ語Ⅱ	2	1〜
外国語臨地演習	2	1〜

●歴史・文化（分野）

	単位	回生
歴史学入門	2	1〜
京都講座Ⅰ	2	1〜
京都講座Ⅱ	2	1〜
京都の歴史・文化Ⅰ	2	1〜
京都の歴史・文化Ⅱ	2	1〜
文学と京都	2	1〜

人間と社会（領域）

●法律・行政・政治（分野）

	単位	回生
日本国憲法	2	1〜
法学概論Ⅰ	2	1〜
法学概論Ⅱ	2	1〜
民法	2	2〜
行政法	2	2〜
人権と教育	2	2〜
政治学概論Ⅰ	2	1〜
政治学概論Ⅱ	2	1〜
国際関係入門	2	2〜
行政学	2	2〜

●経済・経営・社会（分野）

	単位	回生
くらしと経済	2	1〜
経済学概論Ⅰ	2	2〜
経済学概論Ⅱ	2	2〜
経営学概論	2	1〜
会計学概論	2	1〜
福祉とボランティア	2	1〜
社会学概論Ⅰ	2	1〜
社会学概論Ⅱ	2	1〜
時事問題研究	2	1〜

人間と自然（領域）

●健康・こころ・からだ（分野）

	単位	回生
健康に生きるⅠ	2	1〜
健康に生きるⅡ	2	1〜
健康に生きるⅢ	2	1〜
体育理論	2	1〜
スポーツコースⅠ	1	1〜
スポーツコースⅡ	1	1〜
スポーツコースⅢ	1	1〜
スポーツコースⅣ	1	1〜

●自然と環境（分野）

	単位	回生
地球生命論	2	1〜
地球環境論	2	1〜
エコロジー研究	2	1〜
自然の探求	2	1〜
地理学概論	2	1〜
生活の中の数学	2	1〜
物理学基礎	2	1〜
化学基礎	2	1〜
生物学基礎	2	1〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
キャリア開発講座Ⅰ	2	1〜
キャリア開発講座Ⅱ	2	1〜
キャリア開発講座Ⅲ	2	2〜
キャリア開発講座Ⅳ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅰ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅱ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅲ	2	2〜
キャリア開発演習Ⅳ	2	2〜
キャリア開発研究Ⅰ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅱ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅲ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅳ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅴ	2	3〜
キャリア開発研究Ⅵ	2	3〜
インターンシップA（ビジネス）	2	1〜
インターンシップB（図書館司書）	2	2〜
インターンシップC（行政）	2	2〜
インターンシップD（NGO・NPO）	2	2〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
よそおいの心理学	2	2〜
産業心理学	2	2〜
広告と消費の心理学	2	3〜
教職・保育職教養講義Ⅰ	2	3〜
教職・保育職教養講義Ⅱ	2	3〜
教職・保育職教養講義Ⅲ	2	4
教職・保育職教養講義Ⅳ	2	4
※教職入門	2	1〜
※教育心理学	2	1〜
※教育原論	2	1〜
※教育制度論	2	2〜
※教育課程論	2	2〜
※道徳教育の理論と方法	2	2〜
※特別活動論	2	2〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
※教育方法論	2	2〜
※生徒・進路指導	2	3〜
※教育相談	2	2〜
※教職実践演習（中等）	2	4
生涯学習概論Ⅰ	2	1〜
図書館概論	2	1〜
図書館制度・経営論	2	2〜
図書館情報資源概論	2	2〜
博物館学概論	2	1〜
博物館経営論	2	2〜
博物館資料論	2	2〜
博物館資料保存論	2	2〜
博物館展示論	2	2〜
博物館教育論	2	1〜
博物館実習Ⅰ	1	3〜
博物館実習Ⅱ	1	3〜

上記領域より２単位以上

	単位	回生
日本語教授法Ⅰ	2	2〜
日本語教授法Ⅱ	2	2〜
日本語教授法Ⅲ	2	3〜
日本語教授法Ⅳ	2	3〜
日本語教材研究	2	4
日本語教育実習	2	4
社会調査論	2	2〜
統計学基礎論	2	2〜

※科目は中等教職科目となります。

専門教育科目群 必修

1回生 ＋ 2回生 ＋ 3回生 ＋ 4回生 ＝ 必修 41単位

	単位	回生	幼稚園	保育士
研究入門ゼミⅠ	2	1〜		
研究入門ゼミⅡ	2	1〜		
教育原論（初）	2	1〜	●	●
現代と教育	2	1〜		
保育内容演習（表現）Ⅰ	1	1〜	●	●
保育内容演習（表現）Ⅱ	1	1〜	●	○
基礎演習Ⅰ	2	2〜		
基礎演習Ⅱ	2	2〜		
保育内容演習（環境）Ⅰ	1	2〜	●	●
保育内容演習（環境）Ⅱ	1	2〜	●	○
保育内容演習（健康）Ⅰ	1	2〜	●	●
保育内容演習（健康）Ⅱ	1	2〜	●	○
保育内容演習（人間関係）Ⅰ	1	2〜	●	●
保育内容演習（人間関係）Ⅱ	1	2〜	●	○
教育演習Ⅰ	2	3〜		
教育演習Ⅱ	2	3〜		
教育課程論（初）	2	3〜	●	●
教育方法論（初）	2	3〜	●	
保育内容演習（言語）	1	3〜	●	●
教育演習Ⅲ	2	4		
教育演習Ⅳ	2	4		
教育相談（初）	2	4	●	○
卒業研究	6	4		

専門教育科目群 選択必修

選択必修47単位以上

〔区分1〕

	単位	回生	幼稚園	保育士
社会福祉	2	1〜		●
保育原理	2	2〜		●
発達心理学	2	1〜		●
教育心理学（初）	2	1〜	●	
絵画・工芸演習	2	1〜	●	●
音楽演習Ⅰ	2	1〜	●	●
こども理解Ⅰ（幼児）	2	2〜	●	○
こどもの保健Ⅰ－1	2	1〜		●
教職入門（初）	2	1〜	●	●
音楽概論	2	1〜	●	○
美術概論	2	1〜	●	○
数学概論	2	1〜	●	
体育概論	2	1〜	●	●

14単位以上

〔区分2〕

	単位	回生	幼稚園	保育士
相談援助	1	2〜		●
保育相談支援	1	2〜		●
児童家庭福祉	2	2〜		●
社会的養護	2	2〜		●
こどもの保健Ⅰ－2	2	2〜		●
こどもの保健Ⅱ	1	2〜		●
こどもの食と栄養	2	2〜		●
保育の心理学	1	2〜		●
保育内容総論	2	3〜	●	●
保育の言語表現	1	3〜	●	●
乳児保育	2	2〜		●
障害児保育	2	2〜		●
社会的養護内容	2	2〜		●
音楽演習Ⅱ	2	2〜		○
音楽演習Ⅲ	2	3〜		○
音楽演習Ⅳ	2	3〜		○
幼児体育Ⅰ	1	2〜		●
幼児体育Ⅱ	1	2〜		○
幼児体育指導法Ⅰ	1	2〜	●	
幼児体育指導法Ⅱ	1	2〜	●	
保育実習指導Ⅰ－1	1	2〜		●
保育実習Ⅰ－1	2	2〜		●
保育実習指導Ⅱ	1	2〜		○
体育実技	1	2〜		●
教育制度論（初）	2	3〜	●	
国語概論	2	3〜	●	
生活科概論	2	3〜	●	
音楽演習入門	2	1〜		
児童と発達教育	2	3〜		
学校・地域調査（国内）Ⅰ	1	2〜		

25単位以上

幼児体育指導法Ⅰの履修を幼児体育Ⅰに読み替えます
幼児体育指導法Ⅱの履修を幼児体育Ⅱに読み替えます

〔区分3〕

	単位	回生	幼稚園	保育士
家庭支援論	2	3〜		●
保育実習指導Ⅰ－2	1	3〜		●
保育実習Ⅰ－2	2	3〜		●
保育実習Ⅱ	2	3〜		○
保育実習指導Ⅲ	1	3〜		○
保育実習Ⅲ	2	3〜		○
教育実習指導	1	3〜	●	
教育実習	4	3〜	●	
教育実習（小学校）Ⅱ	2	4		
特別支援教育論	2	3〜		
表現教育論	2	3〜		
総合学習論	2	3〜		
児童の教育統計	2	3〜		
児童文学研究	2	3〜		
児童文化論	2	3〜		
児童英語教育研究	2	3〜		
児童英語教材研究	2	3〜		
児童英語指導演習Ⅰ	2	4〜		
児童英語指導演習Ⅱ	2	4〜		
教職実践演習（初等）	2	4〜	●	●

8単位以上

自由科目

	単位	回生	幼稚園	保育士
学校・地域調査（国内）Ⅱ	1	2〜		
学校・地域調査（国内）Ⅲ	1	3〜		
学校・地域調査（国内）Ⅳ	1	3〜		
学校・地域調査（海外）	1	3〜		
英語教育論	2	3〜		

●幼稚園教諭一種免許状または保育士資格取得に必須となる科目
○幼稚園教諭一種免許状または保育士資格取得に選択となる科目（選択の条件等については、履修の手引き第12章免許・資格の各カリキュラム表で確認をすること）

注1：幼児教育コース生で小学校教諭一種免許状の取得を希望する学生は、事前に教務部担当課に申し出ること。
注2：教職課程および保育士養成課程については、課程のカリキュラム表により、必ず履修方法等を確認の上、履修すること。
注3：　の科目は、時間割において、科目名の後ろに（初）と表記されている科目を履修しなければなりません。（初）と表記されていない科目は、中等教職課程の科目となるので注意してください。

基礎教育科目群＋教養教育科目群＋キャリア教育科目群 37単位以上 ＋ 専門教育科目群 必修 41単位以上 ＋ 専門教育科目群 選択必修 47単位以上 ＝ 125単位以上

3．履修条件

【児童教育コース】

本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

●小学校での実習について

①「教育実習指導（小学校）」「教育実習」の履修条件

（履修条件）　小学校への教育実習を希望する学生は、以下の18科目のうち、原則として13科目以上を修得済みであること。

「教職入門」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程論」
「教科教育法（国語）」「教科教育法（社会）」「教科教育法（算数）」
「教科教育法（理科）」「教科教育法（生活）」「教科教育法（音楽）」
「教科教育法（図画工作）」「教科教育法（家庭）」「教科教育法（体育）」
「道徳教育の理論と方法」「特別活動論」「教育方法論」「生徒・進路指導」

●幼稚園での実習について

②「教育実習指導（幼稚園）」「教育実習」の履修条件

（履修条件）　幼稚園への教育実習を希望する学生は、以下の15科目のうち、原則として８科目以上を修得済みであること。

「教職入門」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」
「保育内容演習（健康）Ⅰ・Ⅱ」「保育内容演習（人間関係）Ⅰ・Ⅱ」
「保育内容演習（環境）Ⅰ・Ⅱ」「保育内容演習（表現）Ⅰ・Ⅱ」
「幼児体育指導法Ⅰ・Ⅱ」「こども理解Ⅰ（幼児）」

【幼児教育コース】

本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

●幼稚園での実習について

①「教育実習指導（幼稚園）」「教育実習」の履修条件

（履修条件）　幼稚園への教育実習を希望する学生は、以下の15科目のうち、原則として８科目以上を修得済みであること。

「教職入門」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」
「保育内容演習（健康）Ⅰ・Ⅱ」「保育内容演習（人間関係）Ⅰ・Ⅱ」
「保育内容演習（環境）Ⅰ・Ⅱ」「保育内容演習（表現）Ⅰ・Ⅱ」
「幼児体育指導法Ⅰ・Ⅱ」「こども理解Ⅰ（幼児）」

●保育実習について

①「保育実習Ⅰ－１」「保育実習Ⅰ－２」の履修条件

（履修条件）　以下の６科目のうち、原則として４科目以上を修得済みであること。

「社会福祉」「保育原理」「教職入門」「教育原論」「発達心理学」
「こどもの保健Ⅰ－１」

②「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」の履修条件

（履修条件）　以下の１）、２）の要件を満たすこと。

１）「保育実習Ⅰ－１」「保育実習Ⅰ－２」および「保育実習指導Ⅰ－１」「保育実習指導Ⅰ－２」を履修済みであること。

２）以下の15科目のうち、原則として８科目以上を修得済みであること。

「保育の心理学」「相談援助」「保育相談支援」
「児童家庭福祉」「社会的養護」「障害児保育」「こどもの保健Ⅰ－２」
「こどもの保健Ⅱ」「こどもの食と栄養」
「保育内容演習（人間関係）Ⅰ」「保育内容演習（健康）Ⅰ」
「保育内容演習（環境）Ⅰ」「保育内容演習（表現）Ⅰ」
「乳児保育」「社会的養護内容」

４．卒業研究

卒業論文、卒業研究および卒業制作は４年間の学修の集大成をなすものとして重視されています。卒業論文、卒業研究または卒業制作を提出し、合格することが卒業するための必要条件となっています。なお、卒業研究や卒業制作を提出後、口頭試問も行われます。

論文用紙や表紙等は原則として指定されています（学内の生活協同組合で販売しています）。

[受付期間および時間]

受付期間および時間については別途掲示をします。必ずそちらを確認してください。

・留学中の者以外本人以外の提出、郵送による提出は受け付けません。

提出時には、必ずコピーを１部とり、正本は学務各課へ提出し、コピーはゼミ担当教員へ提出してください。

【様式および分量】

卒業論文は、パソコンを使い、Ａ４縦置き、横書きで書きます。字数は２万字（400字詰原稿用紙で50枚）程度です。本文は10.5ポイント、詳細は各ゼミで指導します。

第11章　科目概要

【基礎教育科目群】

日本語表現Ⅰ
大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学ぶとともに、原稿用紙の使い方や履歴書の作成など、大学生活で役立つ実用的な「書く」能力も身につける。

英語ⅠA
基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

英語ⅠB
平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

英語ⅡA
スキミング、スキャニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

英語ⅡB
効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

英語ⅢA
TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

英語ⅢB
TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

英語ⅣA
日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

英語ⅣB
さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につくようにしたい。

情報処理演習Ⅰ
現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

情報処理演習Ⅱ
社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

日本語Ⅰ
留学生にとって汎用的な日本語能力の向上を図る。日本語４技能を中級後半レベルへと移行させること、日本人とコミュニケーションができること、日本社会・文化への理解を深めること、大学の講義を受講する能力を養うことを目標にする。

日本語Ⅱ
留学生にとって汎用的な日本語能力の向上を図る。日本語４技能を中級後半レベルへと移行させること、日本人とコミュニケーションができること、日本社会・文化への理解を深めること、大学の講義を受講する能力を養うことを目標にする。

日本語Ⅲ
アカデミックな日本語能力の向上を目指す。日本語４技能を上級レベルへと移行させること、特に、大学・大学院の講義やビジネスの場面で必要となる硬い書きことばの「読み」「書き」に慣れること、まとまった内容のレポートを書けることを目標とする。

日本語Ⅳ
日本語の上級レベルのコミュニケーション能力と批判能力の向上を目指す。まとまったスピーチや発表、互いを尊重した意見表明が日本語でできること、自身や他者の意見を分析・検討したり批判できることを目標にする。

日本事情Ⅰ
さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本と日本人についての知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、日本と日本人の今について考える。

日本事情Ⅱ
さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本と日本人について、より豊富な知識を身につけていく。また、発表やディスカッションを通じて、日本と日本人の今について考える。

日本事情Ⅲ
さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本の社会と経済についての知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、日本の社会や経済への理解を深める。

日本事情Ⅳ
さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本の社会と経済について、さらに豊富な知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、

その理解を一層深いものにしていく。

日本文化演習Ⅰ
日本の文化への理解を深めるため、まず授業で歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣、料理などに関する文章を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学したり、料理をつくってみたりする。

日本文化演習Ⅱ
日本の文化への理解を深めるため、まず授業で歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣に関する文章（Ⅰよりやや高度な文献）を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学する。

【教養教育科目群】

教養入門
初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

地域課題研究
地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、地域で実践的に学び、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

哲学概論
哲学はさまざまな学問の基礎だと言われている。それは、例えば数学が数を扱い、生物学が生命現象を扱うのに対して、哲学の対象が思考そのものにあるからである。哲学は言わば、物事を根本的に突き詰めて考えようとする一つの態度・スタイルを意味している。本講義の目的は、問題に取り組む際の態度としての哲学的な思考のスタイルを身につけてもらうことにある。講義のなかでは、さまざまな哲学者の思考の道筋をだどることを通して、実際に哲学することの意義を学ぶ。

倫理学概論
家族関係や市民社会、国家のそれぞれのレベルで人権の状況を確認しながら、あるべき家族関係や市民関係、国家像を考察すると同時に、生命倫理や環境倫理など新しい倫理を考える。

日本人と宗教
日本社会が伝統として培ってきた宗教の文化的土壌を理解し、そこから宗教的な見方、考え方を通して人間関係のあり方やその形成について豊かな意味を獲得していくことを理解し、実践していく態度を身につける。具体的には、日本社会に広く展開した宗教（神道、仏教、キリスト教、儒教、民俗行事など）について、その実践や文化的視点から、資料等を用いながら学ぶ。

ジェンダー研究
ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

宗教学概論
宗教を正しく理解するための必要な基礎知識を習得しながら、人間社会にとって宗教が果たす重要な役割とその意義について考える。具体的には、客観的で科学的な立場にたって、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

心理学概論
「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、社会においても「こころ」を抜きにして考えることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心をもつ人は多いが、誤解されることや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を正確に学ぶことを目的とする。生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基本的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

言語コミュニケーション論
日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

日本語表現Ⅱ
スタディ・スキルとして、最低限必要とされる読解力や文章作成能力の修得をめざす。高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

キャリアコミュニケーションⅠ
「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションのための話しことばの修得を目的とする。話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術、人間関係を円滑にするための敬語表現のスキル、パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方、正しい日本語の運用についての知識等の修得を、講義とワーク、トレーニングにより身につける。

キャリアコミュニケーションⅡ
社会人基礎力（コミュニケーション能力）を体得し、社会人としての準備を行う。適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を念頭においた社会が求めるヒューマンスキルなどの獲得をめざす。授業では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得する。

現代のメディアと表現
今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現しえていることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メデイアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化、特にアニメーションを分析、評価するのがこの講義の目標である。特に宮崎駿の創作活動に焦点を絞って、講義を進めていく。

情報社会論
授業では、情報の特性、現代社会における情報の機能等について概説的な説明を行う。とくに学生諸君にも密接な関連を持つ、個人情報の保護に関わる問題、インターネットの発達とネットリテラシー、マスメディアの発信する情報の受け取り方に関するメディアリテラシーなどについて解説する。

数学演習Ⅰ
将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、１次・連立・２次方程式、因数分解、１次・２次関数とグラフなどを主なテーマとする。

数学演習Ⅱ
数学的思考、数理的思考を身につける。１次関数、２次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

情報処理演習Ⅲ
企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデータベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

情報処理演習Ⅳ
社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に、使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

情報処理演習Ⅴ
企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

情報処理演習Ⅵ
ホームページは情報を発信するための１つの手段となっているが、インターネットのホームページは、HTMLという言語により作成されている。講義ではHTMLによりホームページを記述する基礎技術とWebメディアのマルチメディア表現の技術を修得する。HTMLによる「表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業を進めていく。

比較文化論
文化を比較研究のアプローチから理解し、世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、自分がそれにどう関わるのかを考えることがこのクラスの目標である。世界には、われわれの想像や理解を超えた「謎」が頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないものとして簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解するために、主として英語圏の文化を日本文化と比較しながら講義をすすめていく。

異文化コミュニケーション論
異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面において生じる誤解や衝突、相互理解の困難さといったことをイメージしやすいが、異文化という概念の射程はそこにとどまるものではない。男女の考え方のずれ、世代間の意見の対立といったものも、広い意味では、お互いの文化背景の無理解によって生じるものである。他者を、自分とは異なる文化背景をもつ存在として認め、積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、他者との間に関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

文化人類学
我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説する。その上で、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていく。

芸術と文化
芸術（アーツ）と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

中国語Ⅰ
中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

中国語Ⅱ
さまざまな基本短文を作ることができるように、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

中国語Ⅲ
中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

中国語Ⅳ
基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

韓国語Ⅰ
初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

韓国語Ⅱ
韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法＋会話＋講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

韓国語Ⅲ
会話＋講読＋聴解力＋作文に重点を置く。韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

韓国語Ⅳ
韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話＋スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

フランス語Ⅰ
フランス語の発音と、文法の重要な規則のうち、もっとも基礎的な部分を学び、それを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く

力を修得する。

フランス語Ⅱ
フランス語の発音、文法などの基礎知識を踏まえて、やや高度な文法事項を学び、それらを用いた文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

ドイツ語Ⅰ
ドイツ語のもっとも基本的な規則（発音の仕方と文法）を一つずつ学ぶ。できるだけ多く反復練習（リーダーの講読、教科書の練習問題、その規則を含む短い作文など）をとり入れ、一つひとつの規則を確実に身につける。

ドイツ語Ⅱ
ドイツ語Ⅰで学んだ規則をもとに、新たな規則修得の段階に進む。ドイツ語Ⅰと同様に、リーダーの講読、練習問題、作文をできるだけ多くとり入れ、規則を一つひとつ確実に身につけることを主眼とする。

外国語臨地演習
外国語を、実際に使われている土地で学び、運用能力を高めるための科目である。中国、韓国などの協定大学で寮生活を送りながら、およそ１ヵ月のプログラムを学修する。授業は午前中で、午後にときどき見学などが配置されている。プログラム終了直前には、文化遺産見学ツアーも予定される。

歴史学入門
歴史学の考え方を理解する。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

京都講座Ⅰ
テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京左京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

京都講座Ⅱ
千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

京都の歴史・文化Ⅰ
京の都は、中国・唐の都城にならって建設されたが、都への軍団の駐屯は視野に入れずに計画された都市であった。文字通り、「平安京」の名が相応しい都－京都で繰り広げられた歴史と、その歴史の展開のなかで残された歴史遺産はどのようなものであったのか、古代から幕末までの都の様相の変遷とその要因を、主として政治史・経済史・都市史・民衆史・女性史の観点から捉え直してみる。

京都の歴史・文化Ⅱ
この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく授業である。京都の文化財について、現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。また、醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。

文学と京都
京都を舞台とした近代文学の小説作品を読む。小説の読解力・鑑賞力を養うとともに、京都の歴史・風土にも触れて行きたい。京都の大学で学ぶ学生として興味・知的関心を深めることを目標とする。

日本国憲法
日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をするために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とする。授業では、日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

法学概論Ⅰ
法学概論Ⅰでは、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

法学概論Ⅱ
法学概論Ⅱでは、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

政治学概論Ⅰ
政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャル・メディア利用法などにも言及する。

政治学概論Ⅱ
具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はいかに描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

民法
民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

行政法
憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特殊性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

行政学
行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

人権と教育
今日、子どもや女性、障害者問題、部落問題、など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

国際関係入門
グローバル化の進む現代世界はどのように形成されたのか。日本はどのような影響を受けてきたのか。国際関係論の基礎を、ニュースなどで最近話題になっていることを題材にしながら様々な側面から考察する。受講生が、基礎知識を習得するとともに、自分のこととして国際関係に関心を持ち、考える習慣を身につけることを目的とする。

くらしと経済
わたしたちのくらしの物質的な基盤となるのが経済である。この経済のくらしへの影響は時とともにますます大きくなっている。したがって、経済を理解することは現代社会に暮らすすべての人間にとって必要なことである。この科目では、市場と価格メカニズム、政府の役割、経済成長、経済発展、金融システム、雇用システム、国際収支、為替相場などの、経済を理解するための基本概念を、身近な事例を用いて説明することによって、わたしたちの日常のくらしをとりまく経済現象について学ばせる。

経営学概論
「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

会計学概論
目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という５つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

福祉とボランティア
社会学の一分野としての社会福祉について、その歴史を確認し、「福祉」「ボランティア」について基本的な考え方と知識を学ぶ。また、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を学ぶ。教職の基本である<人間の尊厳>への気づきと理解を深める。福祉制度への理解を深める中で、ひとりひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。教職免許取得に必要な「介護等体験」の事前必修科目としても位置づけられている。

社会学概論Ⅰ
社会学概論Ⅰでは、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会学的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

社会学概論Ⅱ
社会学概論Ⅱでは、社会学概論Ⅰでの基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着をめざす。

時事問題研究
受講生が問題意識をもち、リサーチし、発表し、討議するという方式で行う。担当教員による講義、説明もあるが、基本は受講生の問題意識に基づく集団的討議により授業が進められる。時事問題への深い理解が得られることが授業の主たる目標だが、同時にリサーチの方法、プレゼンテーションの方法を身につけることもまた大切な目標とする。

経済学概論Ⅰ
現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

経済学概論Ⅱ
戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

健康に生きるⅠ
健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

健康に生きるⅡ
健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。

健康に生きるⅢ
個人の「健康」について精神的な側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を

促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

体育理論
体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考えるため、体育科教育の概要を理解するとともに、体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身につけることを目標とする。

スポーツコースⅠ
ソフトバレーボールと６人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

スポーツコースⅡ
Ⅰに引き続き、ソフトバレーボールと６人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

スポーツコースⅢ
生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレーボール、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

スポーツコースⅣ
生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

地球生命論
地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

地球環境論
環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会科学的アプローチ、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

エコロジー研究
環境問題は、戦争と平和の問題とともに現代に生きるものにとって避けて通ることのできない問題である。この授業では、「エコロジー」をキーワードとして、環境問題を考える。とくに、学生一人一人の経験に即して、環境問題を考える視点を吟味し、政策的な課題と「草の根」でできる取り組みとを統合的に理解できる力を育てる。先人たちの環境を守る取り組みについて学ぶとともに、学生としてできることをも考える機会としたい。

自然の探求
この授業では、①身の回りの自然を丁寧に観察し、それらを具体的に認識すること、②自然界を構成する地圏・水圏・気圏・生物圏の基本的な仕組みを理解することを通じて、③「わたしたちにとって自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指す。

地理学概論
地理学は大きく地誌学と系統地理学に分類されるが、ここでは系統地理学を扱う。系統地理学は、地球表面における自然現象を地域的な観点から究明する「自然地理学」と、地表上の人文現象（人口・集落・産業・交通・文化など）を地域特性の構成要素として考察する「人文地理学」に大別されており、その両方について概観する。

生活の中の数学
日常生活や仕事でさまざまな問題、さらに環境などの社会的課題を考える上で、数学は欠かせない。この授業では、将来、市民として的確な判断を下すために役に立つ数学的考え方や概念を、現実の課題を考えるなかで学習する。扱うのは、経済や環境を考える上で重要な指数・対数、刻々と変化する様子から全体を知るための差分や微積分、社会の集団現象を分析するための統計や確率などである。授業では、これらの数学の必要性を理解・学修することを目標とする。

物理学基礎
物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本講では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに応用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに応用されている電磁気現象の原理などを理解する。

化学基礎
生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に応用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、応用されている原理とその意義を理解する。

生物学基礎
生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

【キャリア教育科目群】

キャリア開発講座Ⅰ
21世紀の企業と経営に求められる人材をテーマに、人材開発や流通業、サービス業、製造業などの業界および具体的な企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、受講生各自のキャリア形成について考えるきっかけを得る。

キャリア開発講座Ⅱ
大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。国語や数学に関する基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

キャリア開発講座Ⅲ
Ⅱを発展させ、大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる知識を身につける。言語分野、非言語分野に関する内容についてわかりやすい講義を実施し、基礎力を身につけさせるとともに、身につけた知識を応用できる力を養成する。

キャリア開発講座Ⅳ
キャリア開発講座Ⅰから継続して、21世紀の企業と経営に求められる人材をテーマに、Ⅰで取り上げなかった業界および企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、受講生各自のキャリア形成について考える。

キャリア開発演習Ⅰ
公務員の仕事や現状を知り、職業観を育成する。授業では、地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を学び、地方公務員が担う地方行政の特質と機能を自らが働くことを想定しつつ、具体的に理解する。また、警察官・消防官など公安職の公務員の仕事と求められる専門知識を理解するため、各職種に関する講義やゲストスピーカーによる講演を通して学ぶ。

キャリア開発演習Ⅱ
キャリア開発講座Ⅲをさらに発展させ、大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる知識を身につける。特に非言語分野に関する応用力を確実に身につけることを目的に、演習形式で学ぶ。

キャリア開発演習Ⅲ
企業組織についての知識を広めより深く理解し、働くことに興味関心を持つことを最終目標とする。授業では、企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

キャリア開発演習Ⅳ
国際社会の中の日本や企業のグローバル化をテーマにキャリア開発を行う。授業では、国際化・グローバル化の中で日本が抱える政治的経済的課題や、グローバル企業や東証一部上場企業などの現状とグローバル化しつつある企業や経済社会について理解を深める。グループ学習やワークショップ型の方法で行い、必要に応じ、ゲスト講師による講演なども実施する。

キャリア開発研究Ⅰ
業界の現状と将来について事例を交えながら学ぶ。また、職種について、民間企業と公務員の仕事の違いや企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。さらに、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる「基礎能力」とその仕事を通じて得られる「専門能力」や「楽しみ」を具体的に理解する。

キャリア開発研究Ⅱ
経済のグローバル化、グローバルビジネスの動向について講義で概観したあと、いくつかのグループによる調査研究チームを編成して、グループごとにテーマを決めて調査研究を行い、それぞれの調査研究の成果の発表と討論を行う。またその後、個人による調査研究および発表と討論を実施する。実際にグローバル企業で活躍するビジネスマン等に、その豊かな経験を聴く機会も設ける。

キャリア開発研究Ⅲ
キャリア開発の自主トレーニング方法を学び、実践する。民間企業と公務員試験（地方上級、市役所、警察）の勉強に対応し、自己分析シートの作成や筆記試験対策、企業社会を理解するための経済紙の正しい活用法などについて演習形式で学ぶ。

キャリア開発研究Ⅳ
民間企業と公務員試験突破をめざした学習を通じて、20年後の自分のキャリアイメージを確立することを目標とする。グループ討論、数学的思考、企業・業種分析、文章理解、マクロ経済学、スケジュール管理とストレス管理など、さまざまなテーマを組み合わせた演習形式の授業を実施する。

キャリア開発研究Ⅴ
「起業すること」を想定して、それに必要な知識、考え方を習得する。受講生ごとに、現実の、または想定上の起業案件に、アイデアから起業に至る諸問題について、学習と演習を通して理解・習得するとともに、実践的なビジネス・プランを策定・提出する。

キャリア開発研究Ⅵ
世の中の動きに関心を持ち、時事問題の理解を深めることをテーマとして、時事問題を理解するために必要な基礎知識を身につけ、主体的に世の中の現状を考える力を育成する。公務員採用試験に出題されそうな時事問題を中心に、その問題の背景を解説する。また、各自で時事問題についての事前学習をし、その時事問題を題材に集団討論・小論文・面接の演習を行う。

インターンシップA（ビジネス）
企業における就業体験や学習を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する関心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。この授業では主に企業を対象とする。

インターンシップB（図書館司書）
主に図書館における就業体験や学習を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する関心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。

インターンシップC（行政）
主に自治体などの行政機関における就業体験や学習を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する関心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。

インターンシップD（NGO・NPO）
主にNGO、NPOなどの非営利組織における就業体験や学習を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する関心や学習する意欲を高める。また将来、就職した際に必要となるビジネスマナーや職業意識を身につける。このような経験を通して、職業人として必要な基礎能力や働く意識を培う。

よそおいの心理学
人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらし、積極的な対

他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床的実践活動について紹介する。

産業心理学
高度に発達し複雑化・巨大化した現代の産業社会を構成している基本単位はいうまでもなく「個々の人間」であり、産業活動の効率化や、そこで生じるさまざまな問題の解決をはかるためには、人間の行動や心理についての中立的で客観的な理解が欠かせない。心理学の応用分野である産業心理学はこのような課題を達成するための研究分野である。産業場面に関わる人間の行動を「生産者としての行動」と「消費者としての行動」という２つの側面からとらえたうえで考察を行う。

広告と消費の心理学
私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間（消費者）理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。

教職・保育職教養講義Ⅰ
これからの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要がある。そのために、この授業では、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につける。

教職・保育職教養講義Ⅱ
学習指導要領における「生きる力」という概念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく、改訂の趣旨及び背景（例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など）も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることを目標とする。

教職・保育職教養講義Ⅲ
中央教育審議会答申は、教育の専門家としての確かな力量を具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。この授業では、これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと、これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された具体的な教育実践について、発信できる資質や能力を身につけることを目標とする。

教職・保育職教養講義Ⅳ
学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

教職入門
子どもの生活と教師の関わり、教師の仕事、教師に求められる資質・能力、教員の地位・身分、大学の教職課程で学ぶべきことなどについて講義する。具体的な実践例を提示し、子どもと教師の関わりや教師のあり方、教師としての生きがいなどについて学ぶ。

教育心理学
子どもの指導、援助に関わる上で必要な発達や学習、パーソナリティーなどの教育心理学の知識について学び、具体的な指導場面に即した教育心理学の知識や考え方、技術の習得を目指して授業を行う。対象である子どもの発達的特徴を絶えず念頭において、指導や援助の問題を考える。

教育原論
現代教育の課題、生涯学習・生涯教育、教育方法などの考察を通して、今日の学校教育や幼児教育の課題を明らかにし、また諸外国の教育制度や内外の教育実践から教育学的な思考や態度を習得させる。

教育制度論
近代教育制度の創設と戦後改革、教育制度と教育法規、教育行政組織、学校体系・学校制度、教育内容・教科書検定に関する制度など内外の教育制度について、歴史的・行政的に広く考察する。

教育課程論
まず、「なぜ学校が必要なのか」という本質的な問いをふまえつつ教育課程の構造と意味を歴史的に解説する。次に、教育課程の現代的課題を特に子どもの成長と発達を支援する教育課程という観点から、その内容構成におけるスコープとシークェンスの構造を典型例を元に解説する。さらに、目標・内容・方法・評価など、現代日本の教育課題を教育課程論の文脈において考察する。事例としては、地域に根ざす教育課程の開発に取り組む学校の例や中等教育学校や小中一貫教育校の教育課程開発を取り上げ、教育課程の果たすべき重要な機能について解説する。

道徳教育の理論と方法
学習指導要領で定められている道徳の指導法について、哲学倫理学の蓄積と道徳教育実践の到達点を踏まえつつ学ぶ。学校教育においてどのような道徳教育が可能かを具体的に考えていく。実践的な能力を養うことを重視するため模擬授業の形態を取り入れる。

特別活動論
特別活動の意義や役割を理解し、その内容の具体的な活動事例を通して生徒の自主的、自律的な態度を育成する指導のあり方を学ぶ。講義のほかレポート作成、小集団討議を取り入れ、将来学校現場において役立つような具体的・実践的な内容とする。

教育方法論
教授＝学習過程としての授業を把握するための基礎概念と基礎技法を習得させるとともに受講者が学習指導要領に示される内容を正確に理解できるようにする。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、授業と指導の改善のための処方的知見を得ることができるようになることを目指す。日本の教育実践史の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

生徒・進路指導
生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶ。

教育相談
小学校における教育相談の意義と役割を理解し、教育相談をどのように展開するかをカウンセリングの基礎知識などを踏まえて検討する。学校における様々な事例を取り上げて、子どもと周囲の関係や係わり方などについてディスカションする。

教職実践演習（中等）
４年間の教職科目を通した学びと教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力の実践との統合を図る。（１）使命感や責任感、教育的愛情（①学校教育を取り巻く社会と環境、②教員の責務）、（２）教科内容等の指導力、（３）生徒理解や学級経営（①学級経営、②生徒指導）、（４）社会性や対人関係能力（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）の４つの視点に基づいて、４年間の学びと到達状況を振り返り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質を構築する。

教育実習Ⅰ
学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教員の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教員としての人間性を高めることをめざす。そのために、以下の点を目標とする。①実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと、②大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること、③教員として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。

教育実習Ⅱ（事前事後指導を含む）
教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、３年次へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。

生涯学習概論Ⅰ
生涯学習および社会教育の本質について理解をはかる。生涯学習という考え方が現代社会に生まれるにいたった経過を理解し、法制や施設などその具体的内容を知ることを目標とする。

図書館概論
司書課程の導入科目として、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図る。

図書館制度・経営論
図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

図書館情報技術論
情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。

図書館サービス概論
館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。

情報サービス論
図書館における情報サービスの意義を明らかにし、情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

児童サービス論
児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説する。

情報サービス演習Ⅰ
積極的な発信型情報サービス（パスファインダーの作成）などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

情報サービス演習Ⅱ
情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

図書館情報資源概論
図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

情報資源組織論
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

情報資源組織演習Ⅰ
主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

情報資源組織演習Ⅱ
多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

図書館情報資源特論
児童サービス論の概要を学んだ者に、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応した様々な内容や分野が児童資料にあることを知らせるとともに、実際に数多くの資料を紹介し、受講生にも読むことを課題とする。

図書館施設論
司書課程の必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。

図書館実習
事前・事後学習の指導を受けつつ、公立図書館業務を経験する。実習は公立図書館で５日間（40時間）を基礎とする。

学校経営と学校図書館
学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。

学校図書館とメディアの構成
高度情報社会のおける学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種別と特性について説明し、理解を図る。

学習指導と学校図書館
学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。

読書と豊かな人間性
子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子供を本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

情報メディアの活用
現代社会におけるさまざまなメディアの特色を理解し、実際に学校教育に活用することができるような知識の習得をめざす。

博物館学概論
博物館の歴史および種類、学芸員の仕事、文化財の保護、関係法規などについて概説し、博物館の課題と展望について考えを深めてゆく。

博物館経営論
博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。

博物館資料論
博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。

博物館資料保存論
博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ。

博物館展示論
展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養う。

博物館教育論
博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。

博物館情報・メディア論
視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

博物館実習Ⅰ
考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。

博物館実習Ⅱ
資料台帳カード作成と展示・体験学習のプランニングを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。

博物館実習Ⅲ
前半は、博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。また、後半は博物館の現場における実務を経験すること（館園実習）によって、博物館への理解をより一層深める。

生涯学習概論Ⅱ
生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

社会教育計画Ⅰ
社会教育計画策定の前提として、地域にくらす多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題を探る。講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。

社会教育計画Ⅱ
地域社会における学校教育と社会教育の協力を考える。また、学級・講座の企画力を養う。講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

社会教育演習
専門的な知見を踏まえた実践的な能力の向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上をはかる。受講生の関心にもとづいたテーマを設定し、グループワークやアクティビティによる学習プログラムを共同で構築する訓練を行う。

社会教育課題研究
京都市を中心とした身近な市町村の社会教育関連施設について、グループに分かれて訪問調査を行う。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。

日本語教授法Ⅰ
日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得に関する内容を主に扱う。授業は、基本的に講義形式で行うが、扱う内容によっては、課題を与え、発表もしくは提出することを課す。

日本語教授法Ⅱ
コースデザイン、ニーズ分析、カリキュラムデザイン、教材の種類、特徴及び構成、日本語指導の方法、指導内容、評価法、異文化理解と日本事情などを主に扱う。授業は、基本的に講義形式で行うが、内容によっては、課題を与え、発表もしくは提出することを課す。

日本語教授法Ⅲ
「日本語教授法Ⅰ、Ⅱ」で学んだ基礎知識を活かし、実際の授業の教案づくりと、指導法等の具体的な授業での技術を模擬授業を通じて学ぶ。とくに教案の作り方、模擬授業の視聴を中心に授業を進める。

日本語教授法Ⅳ
「日本語教授法Ⅰ、Ⅱ」で学んだ基礎知識を活かし、実際の授業の教案づくりと、指導法等の具体的な授業での技術を模擬授業を通じて学ぶ。とくに初級後半から中級の文法項目を中心に授業を進める。

日本語教材研究
日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ。初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による変化をつかむ。

日本語教育実習
日本語教育の学習には、実際に生徒を教える経験が必要となる。留学生を相手にした日本国内での実習のほかに、台湾の淡江大学における１週間の体験が可能。実習の前後には、くわしい準備と評価が課される。

社会調査論
社会調査の意義と方法、種類など、量的調査と質的調査の両方にわたって社会調査の基本的事項を学ぶとともに、フィールドワークにおけるデータの収集から分析に至るまでのプロセスについて学習する。これらの学習を踏まえて、特定の調査目的に沿って調査方法を決めて資料やデータを収集し、分析するかたちにまでまとめ上げていく社会調査の具体的な方法を学習する。また、社会調査の具体的な事例を類型ごとに紹介して、その意義を講述するとともに、解説、検討を加える。

統計学基礎論
人間集団の健康および疾病異常の状況などを把握する手段である統計学の基本的な考え方を身につけるため、データの持つ意味、初等確率論・統計的分析方法の基礎について学ぶ。また、人口統計や国勢調査、国民生活基礎統計、医療施設統計など主な保健統計調査についても学ぶ。

日本文化演習Ⅰ
日本の文化への理解を深めるため、まず授業で歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣、料理などに関する文章を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学したり、料理をつくってみたりする。

日本文化演習Ⅱ
日本の文化への理解を深めるため、まず授業で歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣に関する文章（Ⅰよりやや高度な文献）を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学する。

【専門科目群】

研究入門ゼミⅠ
このゼミの目的は、第一に、受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。そのために大学での学びについての話し合いを重視する。第二に大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの獲得などを重視する。第三にコース選択に向けて各自の考えを深めることである。そこで、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞くとともに、様々な疑問を出し合い調べることなどに取り組む。

研究入門ゼミⅡ
研究入門ゼミⅠに引き続き、大学で能動的に学ぶ姿勢を育てていく。そのために教育や保育に関する文献をゼミごとに決め、それを深く読み込み、議論していくことを通して問題意識や理解を深めるとともに、批判的に読み取る力も付けていく。また子どもたちとの交流の場を設定し、ゼミ単位でそれぞれの企画に取り組む。その目的、内容、方法などをすべて学生が考え、実際に活動していく中で、一人ひとりの主体性と、協同して何かを作っていく実践力を育む。

教育原論（初）
現代教育の課題、生涯学習・生涯教育、教育方法などの考察を通して、今日の学校教育や幼児教育の課題を明らかにし、また諸外国の教育制度や内外の教育実践から教育学的な思考や態度を習得させる。

現代と教育
教育・保育職として身につけるべき現代認識について、私たちはどのような時代を生きているかを同時代史的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育・保育の課題を考える。具体的には、戦後日本の平和教育の在り方、子どもと貧困の問題、障害者の権利と教育の課題、ジェンダーと教育などについて講義する。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設で働く教職員を招いて実際に講演を聞き、現場での教育と労働の実態を紹介する。

基礎演習Ⅰ
子ども・人間・自分自身について、またそれらを取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題に関して、受講生各自の関心に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。そのために知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。授業担当者は適宜、議論や考察を深めるための助言を行う。

基礎演習Ⅱ
子ども・人間・自分自身について、またそれらを取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題に関して、授業担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。そのために幅広い知識を身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。授業担当者は適宜、議論や考察を深めるための助言を行う。

教育課程論（初）
まず、「なぜ学校が必要なのか」という本質的な問いをふまえつつ教育課程の構造と意味を歴史的に解説する。次に、教育課程の現代的課題を特に子どもの成長と発達を支援する教育課程という観点から、その内容構成におけるスコープとシークェンスの構造を典型例を元に解説する。さらに、目標・内容・方法・評価など、現代日本の教育課題を教育課程論の文脈において考察する。事例としては、地域に根ざす教育課程の開発に取り組む学校の例や中等教育学校や小中一貫教育校の教育課程開発を取り上げ、教育課程の果たすべき重要な機能について解説する。

教育方法論（初）
教授＝学習過程という授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を修得するとともに学習指導要領に示される内容を考察するための知識を身につける。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようにする。そのために、これまでの教育実践の経緯から典型的な授業と教材を選び、可能な限り追体験しながら、教育方法学が蓄積するカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を検討する。

教育演習Ⅰ
主に教育学・保育学に関する論文・文献を講読する。また、教育現場で行われている実践事例についても調査を行う。さらに卒業論文執筆に向けて受講者各自が関心のあるテーマを研究し、報告・討議を行う。その際、卒業論文執筆のための問いの立て方、リサーチの仕方、パラグラフライティングの書き方、図書館の活用方法などについても指導を行う。学生は、小学校の教育実習を後期に控えているため、学習指導案づくりなどの個別の指導も行う。

教育演習Ⅱ
教育演習Ⅰに引き続き、主に教育学・保育学に関する論文・文献を講読する。また、教育現場で行われている実践事例についても調査を行う。さらに卒業論文執筆に向けて受講者各自が関心のあるテーマを研究し、報告・討議を行う。その際、卒業論文執筆のための問いの立て方、リサーチの仕方、パラグラフライティングの書き方、図書館の活用方法などについても指導を行う。学生は、小学校の教育実習を終えてくるため、研究授業の振り返り、検討などの個別の指導も行う。

教育演習Ⅲ
教育演習Ⅱに引き続き、主に教育学・保育学に関する論文・文献を講読する。また、教育現場で行われている実践事例についても調査を行う。さらに卒業論文執筆に向けて受講者各自が関心のあるテーマを研究し、報告・討議を行う。その際、論文執筆のための問いの立て方、リサーチの仕方、パラグラフライティングの書き方、図書館の活用方法などについても重ねて指導を行う。執筆を始める学生たちには目次案の作り方などの指導も行う。

教育演習Ⅳ
教育演習Ⅲに引き続き、主に教育学・保育学に関する論文・文献を講読する。また、教育現場で行われている実践事例についても調査を行う。さらに卒業論文執筆に向けて受講者各自が関心のあるテーマを研究し、報告・討議を行う。その際、卒業論文執筆のための問いの立て方、リサーチの仕方、パラグラフライティングの書き方、図書館の活用方法などについても重ねて指導を行う。卒業論文執筆に際しては目次案の作り方などの指導も行う。

教育相談（初）
　教育相談は、子どもたちの生きづらさを知ることから始めたい。そのためには、子どもをめぐるさまざまな問題に関心を寄せ、子どもの生活実態を知ることである。そこから、今日の学校教育の課題も明確に提示できるだろう。教育相談は、学習指導要領で学校教育の重要な一角に位置付けられている。教育相談の初歩的理論と技法を身につけるとともに、さまざまな問題行動にある、子どもの願いと要求を読み取り共感できる教師としての資質を養う。学校現場でのカウンセリングマインドの活用を図る基礎力も身につける。

卒業研究
　自ら設定したテーマについて、自ら解決方法を見いだし、それを、説得力ある方法で他人に伝達するという、大学で学ぶべき最も重要な能力をつけるのが目標である。専門演習Ⅰ～Ⅲと連携しつつ、卒業研究の完成を目指し、各自の執筆の手助けを行う。なお、学科卒業研究発表会において、成果を発表することが求められるので、そのための指導も行う。また、すぐれた卒業研究の成果は、学生学会誌に掲載される。

教職入門（初）
　今日の教育・学校・子どもをとりまく状況を具体的に考察しながら、その中での教師の仕事の内容、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。そのために、映像や文章などを通して子どもたちの姿や先生方の取り組みを具体的に紹介し、学生自身の表面的な理解を見直す契機とする。そして子どもの内面の成長を支えるような学習指導や生活指導のあり方を考えていく。また地域や保護者との連携についても考える。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

教育心理学（初）
　教育心理学の基礎概念の習得を通して、子どもの発達と教育の関わりについての理解を深める。具体的には、「子どもの発達」「学習理論」「教育評価」「心理臨床」の４つの柱を立て、それぞれの分野における基礎的概念と基礎的知識について講義し、初等教育段階の子どもの理解と指導についての基本的な視点を得ることができるようにする。さらにその際、できるだけ教育現場において生じている各種の問題を取り上げ、その問題について教育心理学的に考察することによって、教育現場と現在に生きる子どもについても理解する。

音楽概論
　社会的背景や他の芸術との関わりという視点から西洋音楽や日本音楽の歴史を概観することにより、各時代の音楽や様式についての基礎的な知識を習得し、音楽表現への理解を深める。また、西洋音楽のみでなく、多彩な民族音楽やポップス系音楽にも目も向け、現代の音楽文化のゆたかさに関心が向くようにする。様々な音楽や総合芸術作品を鑑賞する中で、特にリズム、メロディ、和声等の視点から音楽の特徴をとらえ、それらを自らの言葉で表現できる力を養う。

美術概論
　芸術と人間・社会との関連についての理解を深める。そのためにまず、芸術作品の分析を通して個々の意味内容を理解する。また作品を構成する造型言語に親しみ理解する。そして芸術作品に意味を与える文化の構造とそれを支える概念の理解に至る。作品理解に際しては、自ら思考してその理解を確かなものとする。具体的にはパワーポイントを用いて作品を呈示し、作品に関する基本的な情報を解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し意見を交換して解答を出す。その解答をもとに授業を展開する。これにより受講生の積極的な授業への参加を促す。

数学概論
　小学校や幼稚園の教師として必要な数学の素養を養う。そのために小学校から高校までに学んできた数学を改めて見直し、その中に潜む重要な原理に気づかせることで、数学をより高いところから俯瞰できるようにする。また知識を理解し覚えることよりも、自分で考え発見し、それを他者に伝えるという数学的活動を授業の中で体験することを重視する。さらに子どもの躓きを取り上げ、それを数学的に検討しながら、幼児や児童の数理的思考をどのように伸ばすかも考えていく。

体育概論
　文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展・創造を考える。体育・スポーツについての文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。その上で、体育・スポーツについて仲間と共に考えることのできる力、体育・スポーツを正しく理解する力の獲得をめざす。人間の運動発達、現代の子どもの体力・運動能力、人間の身体機能、様々なスポーツ、スポーツ基本法などについて疑問を提起し（クイズで問いかけ）、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を学ぶ。また、自分たちで体育・スポーツに関するテーマを見付け、グループで共に考え、発表し理解を深める。

音楽演習Ⅰ
　ピアノ演奏の実技演習により、鍵盤楽器の基礎的な演奏技術を高めるとともに、コード理論の講義および実習を通して、保育・教育現場で子どもたちの表現活動を援助するための簡易伴奏法を習得し、応用力を身につける。実技演習についてはグループレッスン形式を導入し、学生個々のレベルに合わせた教材を用いて演奏能力の向上を図り、コード理論の実習においては、保育・教育現場でよく用いられている小学校共通教材や子どもの歌に即興的に伴奏を付けて、弾き歌いできる力を養う。

こども理解Ⅰ（幼児）
　子ども理解は幼児教育の目標・内容・方法・評価の全体構造を把握するための基盤である。その幼児期には顕著な劇的な役割遊び活動と運動遊びの二つの発展が始まる。その「遊び」の原理をふまえて、多様な子どもの行為に関する意味理解を深め、幼児の発達と保育実践の在り方との連関を問うことになる。子どもの発達の見方にとどまらず、カウンセリングマインドやケア、家庭や保護者との信頼関係を築く大切さなども視野に入れ、実際の具体的な実践事例を通して検討していく。

絵画・工芸演習
　幼児・児童期の図画工作における表現行為の充実を導くための指導法を学ぶ。図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法について、実習を通して学習する。さらに実習と関連づけて、子どものもつ発達段階に応じた造形性の特質なども学習する。また身近な素材や道具を生かして造形の楽しさを実感させるための指導法を、実践を通して学習する。子どもの表現行為の充実を促す指導力を身につけるために、色彩、形態、素材の３つの視点から実践を行う。

教育制度論（初）
　教育制度をいつでも、どこでも、だれによっても行われる教育とひとまず区別し、社会的に公証された体系として取り上げる。最初にその制度の歴史的発展に焦点をあて、近代社会の教育制度の展開、大戦後の改革、現代日本の改革動向などの視点から整理する。そこで、憲法と教育基本法をはじめ現代の教育法制や教育行政、学校制度の原理や機能、教育課程にかかわる法とシステム、教員の地位と専門職性、教師養成制度、教育条件整備などを広く扱い、教育制度全般について学生の基礎的・基本的な知識の修得に努める。

国語概論
　小学校国語科の基本的・基礎的な教育内容について、小学校学習指導要領・国語科編を踏まえ解説する。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を中心に、具体的に詳述するとともに、書写指導のポイントについても実技を取り入れながら詳述する。

生活科概論
　小学校低学年の子ども達の周りにある自然や社会について、個別にそして具体的に認識することを目的とする。自然認識や社会認識の基礎を培う。生活科を自然との関わりを中心に捉え、実験やものづくりを通して法則的に気付き、仮説をたてさらに実験によって検証する方法を教える。身近な動物や植物、磁石や空気、自分の体や自分がくらす、学校や家庭などを主な題材とする。そして、体験を経て身の回りの様々なことに興味をもてるようにする。

保育内容総論
　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領などに関連する保育内容の健康、人間関係、環境、言葉、表現などの５領域について、それぞれの個別領域が実践事実の視点から総合化できる全体構造を説明する。子どもの生活や発達的理解を重視し、教育・保育実習に備える実習指導計画の作成方法の基礎、及び指導内容の編成や長期・短期の指導計画の立案過程の基本を学生が修得できるよう、また、具体的な実践事例を扱う視聴覚教材を併用して現場の保育内容全体に関する理解が得られるようにする。

保育内容演習（環境）Ⅰ
　子どもの発達を保育内容「環境」の観点から捉え、子ども理解を深める。子どもが身近な自然に親しみ触れ合うなかでさまざまな事象に関心を持ったり、発見したり、考えたりすることを学習する。保育活動の中で植物を育てたり、季節の草花を使った遊びを取り入れている実践に学びながら、保育内容についての理解を深める。演習ではプランター菜園に取り組み、植物を植え、育て、収穫する体験を通して、幼児にとっての身近な自然との関わりについて考える。

保育内容演習（環境）Ⅱ
　子どもの発達を保育内容「環境」の観点から捉え、子ども理解を深める。子どもが身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにすることを学習する。法的に定められている環境に関わる事項を学びながら、保育活動の中で園庭や保育室などの広さや遊具の種類、大きさなどが子どもの生活や遊びを方向付けていくことについての理解を深める。演習では園庭の環境構成を計画することから、幼児が自ら周囲と関わる意欲をどのように育てていくことができるかを考える。

保育内容演習（表現）Ⅰ
　幼児の造形表現の発達について理解を深め、幼児に造形の喜びと自信をもたせる援助のあり方を考える。また子どもの感性と創造性を育てる表現の指導法を学ぶ。幼児期の造形表現について資料を基に理解し、発達段階に応じたその特質、意義をふまえ、その指導法を学ぶ。様々な題材を基にあそびと活動の有用性を研究して、幼児の豊かな発想を引き出せるよう考察する。主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現などによる表現指導法を学ぶ。

保育内容演習（表現）Ⅱ
　幼児の造形表現の発達について理解を深め、幼児に造形の喜びと自信をもたせ、幼児の自発的表現を引き出せるような指導法を学ぶ。また子どもの感性と想像力および創造性を豊かに育てる表現の指導法を学ぶ。幼児期の発達段階に応じた造形表現の特質を理解し、その意義をふまえ、その指導法を学ぶ。幼児の豊かな想像力を育成する素材としてペープサート（紙人形劇）などを取り上げ、その制作と上演を実践し、それを通して発展的に劇作りによる表現指導法を学ぶ。

保育内容演習（健康）Ⅰ
　どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの生活、子どもの運動遊び、体育的な取り組み、子どもの運動発達、獲得させたい運動能力等について理解を深める。また保育所・幼稚園における乳幼児の健康・体育領域の指導（目的、内容、方法、評価、教材づくり等）についての理解を深める。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の特に健康領域の内容を理解する。学生らに現代の子どもや保育所・幼稚園の状況をクイズ等で示し、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を身に付ける。講義形式、グループワーク、グループ発表を行い相互に意見を交換しながら学ぶ。

保育内容演習（健康）Ⅱ
　どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの生活、子どもの運動遊び、体育的な取り組み、子どもの運動発達、獲得させたい運動能力等について理解を深める。また保育所・幼稚園における乳幼児の健康・体育領域の指導（目的、内容、方法、評価、教材づくり等）についての理解を深める。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の特に健康領域の内容を理解する。Ⅰで得た知識・認識をもとにⅡにおいては、学生は子ども役と先生役に分かれ模擬保育を行う。学生はグループで運動遊びに関する指導案を作成し、先生役となり子ども役の学生を指導・援助し、この領域の指導や援助の力を高める。

保育内容演習（人間関係）Ⅰ
　社会の変化に伴い、乳幼児を取り巻く人間関係も大きく変化している。このような現代社会の変化の中で、乳幼児の人間関係がどのような状況にあるのかについて深く理解し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の子どもや親とのかかわり方について学ぶ。その際、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での子どもの観察事例や多様な保育実践の検討を通して具体的に理解していく。併せて、保育内容演習（人間関係）Ⅰでは、子どもの年齢段階別の人間関係の特徴とその支援のあり方についても検討する。

保育内容演習（人間関係）Ⅱ
　現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。人間関係Ⅰでの学びをもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、保育現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。特に人間関係Ⅱでは、「気になる子ども」の事例を取り上げ、様々な「気になる子ども」の背景やその発達的特徴についての理解を深め、発達障害だけでなく、発達に気になるところのある子どもたちへの支援のあり方について検討する。

保育内容演習（言語）
　子どもがことばを獲得していく過程（ことばの発達）について理論的に述べ、領域「言葉」について解説する。また、実践事例を通じて、保育における子どもたちのことばに触れ、子どもの育ちにとってのことばの位置や役割、ことばを育てる環境などに関してグループ討議を取り入れながら学ぶ。保育内容（言語）の基礎にあたるものとして、（1）乳幼児におけることばの発達過程の事実的考察、（2）言語の本質的特徴と基本的機能、について学習する。前者は、喃語、理解語、有意味語の発生、一語文、自律的言語、二語文、文法発達、話しことばの体系の獲得、外言、ひとりごと、内言など、乳幼児期におけることばの目覚ましい発達を特徴づける諸概念を発達順に並べて、それらの言語発達や心理発達上における意義について学習する。後者においては、外言、自己中心的言語（ひとりごと等）、内言という幼児後期から学齢期にかけての言語発達を事例にとりながら、言語がコミュニケーションの媒介であるのみならず、心理活動の媒介でもあることを理解する。

保育の言語表現
　保育内容演習（言語）の学習内容を踏まえつつ、（1）幼児期の

保育実践により直接的にかかわる諸概念の考察と、（2）保育実践における言語の機能などを理解する。前者は「ことばと想像」の関係、「書きことばの前段階にある視覚的記号としての身ぶり・描画・遊び」を中心に考察する。後者は、自然や物語をとりあげた保育実践の記録をもとにして、幼児のものの見方や感じ方が深められていく上での、身ぶりと言語の役割（もちろん絵画・製作・歌唱などにも及ぶが）について理解する。

幼児体育Ⅰ
　どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、幼児の運動遊び、子どもの運動発達、獲得させたい運動能力、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の内容、そして幼児の健康・体育領域の指導（目的、内容、方法、評価、教材づくり等）について学ぶ。授業では様々な運動遊びを行いながら、幼児の体育指導に必要な技術・技能（適切な運動遊びを選択し子どもたちに指導し、子どもと共に楽しく運動できる力）を獲得する。例えば、道具なしで行う運動遊び、ボール・縄・輪・棒などの道具を用た運動等を実際に行う。また子どもの頃、どんな運動遊びをしたか思い出しそれらを学生相互に紹介し合いながら実際に行う。

幼児体育Ⅱ
　どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、幼児の運動遊び、子どもの運動発達、獲得させたい運動能力、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の内容、そして幼児の健康・体育領域の指導（目的、内容、方法、評価、教材づくり等）について学ぶ。Ⅱにおいては、マットや跳び箱等（器械）を用いた運動、身近にある物（新聞紙、ビニール袋など）を用いて簡単な道具（ボール、棒、輪、ヒモなど）を作成しそれを用いて行う運動、音楽に合わせて行う体操などを実際に行う。

幼児体育指導法Ⅰ
　幼児の体育及び健康領域の指導方法（目的、内容、方法、評価、教材づくり等）について学ぶ。幼児の運動遊びや運動発達、獲得させたい運動能力、「幼稚園教育要領」の内容、小学校への接続等を理解し、そして幼児の体育指導を通して育てたい子ども像や獲得させたい力について考える。授業では様々な運動遊びを行いながら、幼児の体育指導に必要な指導方法（適切な運動遊びを選択し子どもたちに指導し、子どもと共に楽しく運動できる方法）を学ぶ。例えば、道具なしで行う運動遊び（鬼ごっこ等）、ボール・縄・輪・棒等の道具を用いた運動等を実際に行う。

幼児体育指導法Ⅱ
　幼児の体育及び健康領域の指導方法（目的、内容、方法、評価、教材づくり等）について学ぶ。幼児の運動遊びや運動発達、獲得させたい運動能力、「幼稚園教育要領」の内容、小学校への接続等を理解し、そして幼児の体育指導を通して育てたい子ども像や獲得させたい力について考える。授業では様々な運動遊びを行いながら、幼児の体育指導に必要な指導方法（適切な運動遊びを選択し子どもたちに指導し、子どもと共に楽しく運動できる方法）を学ぶ。例えば、マットや跳び箱等を用いた運動、身近にある新聞紙等を用いて行う運動、音楽に合わせて行う体操等を実際に行う。

音楽演習入門
　音楽理論の基礎の講義とピアノ演奏の実技演習を通して、楽譜の読み取り方を学び、それを実際に音として表現できるように、鍵盤楽器の初歩的演奏技術を習得する。実技演習についてはグループレッスン形式を導入して学生個々のレベルに合わせた教材を選択し、個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、保育・教育現場での実践基礎力をつけることを目指した指導を行う。またコードネームを理解し、簡易な伴奏付けができようにする。

音楽演習Ⅱ
　音楽理論の講義を通して、保育・教育現場で必要とされる知識を定着させる。それとともに、読譜力を高め、子どもの前で音程を正確に歌ったり、リズム奏を行ったりすることができるように、ソルフェージュ力を養う。さらに、小学校共通教材をはじめ、保育園、幼稚園でよく用いられる子どもの歌を教材として取り上げ、実際に歌ったり、合唱したりすることにより、歌唱力を高めるとともに、保育や教育の場において指導する際の留意点を理解し、指導法を身につける。

音楽演習Ⅲ
　講義と弾き歌いを中心に、学生個々の音楽技術に応じて音楽を自由に表現する力を養い、保育・教育実践において子どもの深い表現活動をひきだすための援助技術の育成を図る。実技演習については、グループレッスン形式を導入して細やかな指導を行い、講義では、さらに広い範囲の調性におけるコード進行を学ぶほか、遊び歌、わらべうた、手づくり楽器など保育や授業を展開するための多彩な音楽表現活動を取り上げる。さらに、旋律の変奏や簡単な創作も取り入れ、子どもの表現活動について的確な指導が行えるようにする。

音楽演習Ⅳ
　楽曲の分析や合唱の実技演習をとおして、呼吸法と発声法を身につけるとともに、ハーモニーをつくる練習を行い、和声感を養う。楽曲の分析の講義と並行して実際に演奏することにより、フレーズ感、調性感、曲想、様式感など総合的な音楽理解力を育てるとともに、簡易な編曲が行えるようにする。さらに、日本の伝統的な唱歌やわらべうたをはじめ、歌い継ぎたい名曲を紹介し、保育・教育現場においてより豊かな音楽表現が行えるように、歌唱力を高める。

学校・地域調査（国内）Ⅰ
　主として学校、保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センターでのボランティアなどフィールドワーク活動を通して、子どもの姿や生活の実際をつかみ、現代の子ども理解を深めるとともに、それぞれの施設及び教師・保育者等の現代社会における意義や役割の理解を促すことが目的である。具体的には、１週間に１回程度現場に出かけ、授業・保育等の見学や子ども等と関わり、その体験から学んだこと、気づいたことのレポートを書き、それをもとに小グループの中で意見交流し、グループとして整理したことを全体に向けて発表し、教師のアドバイスを受ける。

児童と発達教育
　幼児期と異なる児童期の子どもの発達的特徴をとらえたうえで、児童の発達を促すための方法について多面的に検討し、児童の発達と教育についての理解を深める。

教育実習指導
　小学校の実習指導では、指導者としての心構えや意欲を高め、小学校教育の役割や実際の教育課程の理解を促し、授業を想定した学習指導案づくりについて学ぶ。そのうえで、実習を通して、あるべき教師像についての認識を深めさせる。幼稚園の実習指導では、幼児期の教育の重要性の理解および幼稚園の役割や教育課程の理解を促し、幼児の発達段階にふさわしい保育の方法や内容について考察する。そのうえで、実習を通して、保育に対する考えを深めさせる。

教育実習
　小学校実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。具体的には、学習指導案を作成して授業を行い、児童の様子や自らのとりくみの振り返りを行う。幼稚園教育実習を通して、幼稚園教育についての理解を深め、幼稚園教諭の役割や指導援助についての適切な方法を身につけ、保育者としての人間性を高めることをめざす。具体的には、保育指導案を立案し設定保育を行い、幼児の様子や取り組みの振り返りを行う。

教育実習（小学校）Ⅱ
　小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。そのために、実習校の取り組みから子どもたちの成長に対する願いをつかむこと、大学で学んだことを具体的なとりくみを通して深めること、教師として自らを成長させていくうえでの課題をつかむことが課題となる。教育実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返ることを行う。

特別支援教育論
　障害のある子ども、発達的に課題を有する子どもは特別支援学校、特別支援学級、さらに通常学級に在籍しており、その教育は特別支援教育として取り組まれていることを学ぶ。障害児教育の変遷と世界の障害者福祉・教育の考え方を理解し、特別支援教育の意義および、通常の学級に在籍する特別なニーズを有する子どもの現状について学び、指導内容や方法等についての課題を考える。また、障害児・者の抱える問題についての理解を通して、障害児教育、特別支援教育に対する今日的課題を理解する。

表現教育論
　芸術作品を分析して社会との関わりを理解し、教育の現場を含めて、人が芸術的表現を如何に認知し受容してきたかを考える。そのためにまず作品表現の分析を通して作品の意味内容を理解する。次いで鑑賞教育を含む作品受容に関して、如何に受け入れられてきたかを社会からの要請と認知のメカニズムいう視点から理解する。作品表現の理解に際しては、授業担当者から適宜提起される問題を討論し意見交換することで、受講生は受け身ではなく自ら思考してその理解を確かなものにする。

総合学習論
　教科の枠を超えた現代的課題に取り組む総合学習は、また子どもの主体性・能動性を伸ばす場としても重要である。総合学習のこのような意義を理解し、授業の計画・内容・方法・地域や保護者との連携などについて考えていく。特に環境、国際理解、平和、人権、健康、情報、地域理解などについて、優れた実践を映像や文献で紹介し、それについて話し合う中で、総合学習に対するイメージを膨らませる。そして自分の総合学習プランを作成する力を育む。

児童の教育統計
　教育現場では様々な場面でデータを読みそれを理解するだけでなく、試験や調査を行い、その結果を整理することが求められる。この授業では、このような学校現場において求められる教育に関するデータを読み取る力をつけるとともに、実際に教育に関する調査を行う際の方法とその留意点、そして試験や教育調査で得られた結果をデータとして数値化し、そのデータを統計的に処理しわかりやすく整理する方法について学ぶ。具体的には記述統計を中心に扱うが、推測統計の考え方と基礎的な検定方法についても論じる。

児童文学研究
　児童文学が子供の発達にとって重要なことは言うまでもない。物語の世界を堪能し、その世界観を子供の中に取り入れることができるようにすることは、子供の成長において意味があり価値があることである。しかし、その意味や価値は固定されたものではなく、社会情勢に応じて、いくらかの変化をみることができる。授業では、日本の児童文学の歴史と児童観の変遷をたどるとともに、童謡や昔話など、周辺的なものも取りあげ、児童文学とは何かを考える。

児童文化論
　児童文学が子供の発達にとって重要なことは言うまでもない。物語の世界を堪能し、その世界観を子供の中に取り入れることができるようにすることは、子供の成長において意味があり価値があることである。子どもと社会、明治の児童文学「お伽噺」、大正の児童文学「童話」、「唱歌」と「童謡」、近代的子ども観の成立と社会など児童文学のテーマを取り上げ、誰もが「知っていること」「知っていると思っていること」＝「知識」が、どのようにして社会的に形成され、普及するのかを社会学の観点から考察する。

児童英語教育研究
　小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいのかを異文化理解と英語教育のあり方について、実践と理論の両側面から考察する。児童英語教育の現状をふまえ、児童英語の意義と歴史、環境づくり、教材の選び方、小学生低学年・高学年に対する英語教育を、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの内容別指導などを学ぶ。また、実際に幼稚園児や小学生に教える場合に役立つ歌、ライム、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。

児童英語教材研究
　小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいのかを異文化理解と英語教育のあり方について、実践と理論の両側面から考察する。そして、児童に英語を教えるために必要となる教材とその活用法について学習する。児童英語の到達目標にそくした言語材料、カリキュラム作成を学んだ上で、具体的に歌、ライム、チャンツ、アクティビティの指導法、小道具制作などを扱う。期末の課題としてオリジナル絵本を製作する。

児童英語指導演習Ⅰ
　児童に英語を楽しく身につけさせるための指導法を学ぶ。レッスンの組み立て方、歌、フォニックス、ライム、チャンツ、GDM（Graded Direct Method）やTPR（Total Physical Response）など、児童への英語教授に有効なさまざまな指導法を説明し、その後、学生は発表や演習を行う。模擬授業は主として学内で行うが、数回近隣の公立小学校を訪問し学校現場での英語学習の観察実習を行う。本科目の履修は児童英語教育研究と児童英語教材研究が修得済みであることが条件となる。

児童英語指導演習Ⅱ
　英語教育を行っている公立小学校での英語学習、私立幼稚園での英語あそびについて、観察実習を行う。また、観察実習の事前および事後学習を通して、観察実習で学んだことを実際の教育現場に生かすため、学内では模擬授業を多く実施し実践力を培う。最終的には英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、授業実践ができることを到達目標とする。本科目の履修は児童英語指導演習Ⅰが修得済みであることが条件となる。

教職実践演習（初等）
　大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力とを統合し、４年間の学びのまとめを行う。その中で、教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質と能力が要求されるのかを確認し、自分自身の資質や能力について吟味する。そのうえで、必要な知識と技能を補っていくことを目標とする。４年間の学びを振り返るための具体的な視点として、①子ども理解、②各教科の指導、③教科以外の指導、④コミュニケーション能力、⑤保護者・地域との連携、の５点とする。

道徳教育の理論と方法（初）
　学校教育における道徳教育の理論と方法について学習することを目的とする。道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考える。前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究する。また、現職の教師をゲスト講師として迎え、道徳教育の授業実践について話を聞くことから、道徳の授業についての学びを深める。

特別活動論（初）
特別活動の意義や役割を理解し、その内容の具体的な活動事例を通して生徒の自主的、自律的な態度を育成する指導のあり方を学ぶ。特に本授業では、小学校または中学校で学級担任を経験した教員が担当し、特別活動の意義や役割を理解し、その内容の具体的な活動事例を深く学ぶことが可能となるようにしている。講義のほかレポート作成、小集団討議を取り入れ、将来学校現場において役立つような具体的・実践的な内容とする。

生徒・進路指導（初）
生徒指導は、学校が教育目標を達成するために重要な役割を果たし、生徒の変化等によって、近年ますます重要となっている。ここでは、初等教育段階の児童を中心として、生徒・児童指導の基本原理、児童の心理的特質、生徒・児童理解の方法などについて考察していく。具体的には、学校、地域社会で発生する様々な問題行動等をケーススタディによって実践的指導力として育てる。同時に、進路指導やキャリア教育についての基本的理解をはかりながら、進路指導と受験指導の異質を正しく認識し、適切な進路指導及びキャリア教育を実践していく方法について考察をしていく。

教科教育法（算数）
小学校算数を教えられる力を育む。そのために算数に潜む重要な考え方や、算数的活動の意義をしっかり理解する。そして、数と計算、量と測定、図形、数量関係の４領域の中の特に重要な内容について、教科書を検討しながら教え方を考えるとともに、優れた実践報告を読み、子どもの思考の様子を知る。そしてグループ単位で模擬授業を行う。単元、内容、方法、評価などについてグループで話し合い、リレー形式で授業に取り組み、それを相互に検討し合うことで、授業を創ることのむずかしさとやりがいを体験させる。

教科教育法（理科）
各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、生物とその環境、物質とエネルギー、地球と宇宙の３領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても指導する。

教科教育法（音楽）
小学校における音楽科教育の目標や指導内容、教授方法について理解を深めることを目的とする。学習指導要領の内容と指導案作成の方法について解説するとともに、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の各分野において教材研究を行い、授業をデザインすることのできる能力を育てる。講義の総括として、教師と生徒役に分かれて模擬授業を行い、実際に授業を遂行する力を身につける。さらに、互いの授業内容について討論を重ね、効果的な指導法について考察する。

教科教育法（家庭）
初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。家庭科教育の内容について、具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探究する。まず、学習指導要領改訂の趣旨を学び、家庭科の目標・内容を踏まえた家庭科学習指導案を作成する。その上で、各自模擬授業を行う。また、演習を通してその基本的技術及び活用の仕方を学び、初等教育における学習指導のより豊かな内容と方法を工夫する。

教科教育法（国語）
言語を理解し表現する能力や認識力・思考力・想像力の育成、豊かな人間性を身につけるための授業を行う。学習指導要領の各学年の目標と内容をもとに、教材のあり方、領域別の学習指導、指導と評価の関連などを学び、模擬授業を通して、指導案の作成、教材研究、評価などを行い、実践的な指導力を養う。国語科とは何か、国語の授業を作る基礎とは、漢字指導のあり方、作文指導について、音読の指導について、読書指導について、学習指導案作りなどの項目について指導する。また、低学年の指導とのあり方と、小学校の国語の教科書にある教材に基づいて、模擬授業を行う。「ごんぎつね」「大造じいさんとがん」などの教材を想定している。

教科教育法（社会）
小学校の社会科の授業をつくる視点と方法、児童の実態に即してどのように授業をすすめるかを具体的に学ぶ。そのために、次のような流れで授業をすすめる。①学習指導要領や現行の教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる、②できあがった指導案をグループの中で検討する、③グループごとに指導案を１つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う、④模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。これらの取り組みを通して、全体指導計画づくりや評価の方法・意義についても学ぶ。

教科教育法（図画工作）
小学校図画工作科における造形の意義および小学校図画工作教育の意義を理解し、また学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年期・中学年期・高学年期の発達の違いによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場における授業のねらい・展開を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

教科教育法（生活）
子どもと共に自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。身近な環境を対象としながら体験を通して学習する。そのため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。ものづくりなどにおいては、子ども達の制作過程を想定しながら、実際に作成して実践的理解を促す。その上で、子ども達の具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びの連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

教科教育法（体育）
自分の体育の授業を通して、どんな子どもに育ってほしいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考える。体育授業に関わる目的、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。「学習指導要領」、優れた体育の授業実践等についても理解を深め、その上で自分の体育授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を考える。グループに分かれ、マット（器械）運動、陸上運動、球技等の指導案を作成し先生役となり、他の学生を子どもに見立て模擬授業を行う。体育授業は多くの場合、運動場や体育館等の広い場所で行われる。教室とは違う場所での安全で楽しい授業の方法も模擬授業を通して学ぶ。１つの題材（教材）をもとに、単元計画と各時間の指導案を作成し、体育授業が展開できる力を身につける。

自然科学概論
21世紀を生きる市民に求められる「科学的自然観」「自然科学と社会との正しい関わり方」などについて具体的事例を通して学ぶ。理科教育に必要な科学的態度を養うことを主眼とし、生物をとりまく自然環境、身近な動植物の分類とその形態、動植物体の動き、その他小学校理科の教材と関連づけながら基礎的知識を習得すると共に、顕微鏡による生物材料の観察、簡単な装置でできる物理・化学実験などを行う。グループ討論を重視し、ミニプレゼンも取り入れて学習を深める。

こども理解Ⅱ（児童）
こどもへの理解を深めるために、こどもの詩や作文を読み合い、自分の「こども時代」を振り返りながら、教育現場で起こっている課題を通して、こどもをまるごとつかむことをめざす。授業では、不登校・引きこもりの問題やいじめの問題、学級崩壊などに関する教師に向けられるこどもからのさまざまなサインをいかに見極め、適切に対応するかを考察する。また、保護者との連携をいかに進めるか、学校内の職員間やスクールカウンセラーとの連携などを具体的な事例のもとに検討する。

ディベート指導技術入門（小学校）
言語技術教育の総合的な学びとして、ディベートを行う。アクティブラーニングの学び方の一つとして注目されているディベートは、それだけでなく、論証のスキルを身につけること、メモを取りながら聞くこと、議論の構築のためのリサーチの仕方など、大学での学びの基礎になる部分が多い。本授業では、マイクロディベート、シナリオ方式のディベート、改良シナリオ方式のディベートなどの学習形態を取りながら、スモールステップでディベート初学者に向けてディベートの能力を高めていくことにする。

社会科概論
小学校社会科の各学年の授業を体験的に学びながら、社会科という教科の性格と役割、社会科の目標・内容・方法、社会科指導の基礎的な技能の習得をめざすことが目標となる。また、学習指導要領をふまえた実践的課題についても考える視点を獲得する。授業では、学習指導要領や現行の教科書をもとに、小学校３～６年の社会科学習の目標・内容・方法のアウトラインをつかむ。そのうえで、実際に１時間の社会科の授業案づくりを試みる。

家庭科概論
小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識や技能を習得するとともに、子どもの生活課題を踏まえた指導の深め方を考察する。家庭科教育の内容として、家庭生活と家族、日常の食事と調理の基礎、身近な消費生活と環境など具体的な題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探究する。講義だけでなく学生のグループ発表により理解を深める。また、実習を通してその基本的技術及び活用の仕方を学び、初等教育における学習指導のより豊かな内容と方法を工夫する。

学級担任論
教師として働き始め働き続ける時、学級経営を避けて通ることはできない。むしろ担任という仕事に教職の魅力を感じるものである。しかし、現在、熱意だけでこの学級経営をしていけるほど学校の状況は安定はしていない。学級の仕組みと学級担任の仕事についての基礎的な知識を習得し、教職に対する認識を深めるとともに、よい人間関係をつくるための方法を身につけさせたい。担任の仕事の基礎的かつ重要なポイントを理解し、適切な学級経営のあり方を考える。

小学校ICT教育演習
本演習では、視聴覚機器の歴史を踏まえ、学校教育における Information and Communication Technology（ICT）の活用の意義や目的、その特徴を実際の機器を活用しながら理解させる。

児童社会学
現代社会に生きる子どもの生活・文化・環境を、社会学、教育学、心理学、文化人類学、児童文学、社会福祉学などの学問分野から総合的にとらえていくことを目的にしている。日本の子どもの生活現実からさまざまな問題状況が見えてくる。さまざまな問題状況を実証的・理論的に考察するだけでなく、その成果を教育指導にどう反映させていくかを合わせて議論させる。と同時に、子どもの生育環境にとってどのような社会をめざすべきかを考えさせる。

社会福祉
社会福祉の意義・理念と歴史的変遷について理解し、子どもを取り巻く家族や社会の様々な課題、子どもの権利や家庭支援に対して、社会福祉がどう関わっているのかを社会福祉の理念をベースにしながら現在の社会福祉の制度や法体系、行財政や実施機関・施設等の実施体系等を理解する。また、社会福祉における相談援助や情報提供の在り方や第三者評価、苦情解決制度などの利用者保護に関わる仕組みについて理解する。社会福祉の動向と現状課題について理解するとともに、これからの社会福祉のあるべき姿について考える。

こどもの保健Ⅰ－１
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義とその内容を理解する。子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的保健知識を得る。子どもの身体・精神・生理・運動の機能や発達、子どもの疾病とその予防、施設等における衛生・安全管理等の基礎知識を学ぶ。子どもの健康状態把握のための地域における保健活動や母子保健対策と保育の状況、児童虐待への取組等を学ぶ。乳幼児の身体発育や生理機能、運動機能と精神機能の発達と保健、子どもの疾病（感染症、慢性疾患、先天異常）、免疫とアレルギー、小児期からの生活習慣病予防等の基礎知識を獲得する。

発達心理学
乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴と主要な発達理論について理解し、それについて説明できることを目標とする。また、主な発達障害の特徴と障害に応じた支援の方法についても理解し、発達障害をもつ子どもたちを支援する際の基礎的知識を習得できるようにする。そのために、乳幼児期から青年期にかけての子どもの発達を中心に、人間の受精に始まり死にいたるまでの各発達段階の発達的特徴と発達理論、そして発達障害について生涯発達的な視点から論じる。講義形式をとるが、適宜、視聴覚教材を利用し、子どもの発達について具体的に理解できるようにする。

保育原理
保育の意義、歴史、子ども観の変遷、保育所、こども園、幼稚園の目的・機能などについて講義する。その際に、主要な資料とするのは、幼児の保育の一年間の流れを示す種々の事例・記録である。それらの事例・記録に関連する箇所で、保育の意義・歴史・子ども観なども併せて考察する。そのように関連づけることによって、保育のイメージを持つとともに、保育の事実と理論とのつながりを意識することをめざす。これらには含みにくい、保育制度の問題などは別個に講義する。

相談援助
相談援助の理論や意義、機能について学び、相談援助の対象や援助過程、方法や技術について体系的に理解する。具体的に援助計画の立て方、援助記録の書き方、その実践の評価について学ぶとともに、多様な相談援助機関・専門職者との連携の在り方や、様々な社会資源の活用や調整、開発について学ぶ。保育における相談援助（ソーシャルワーク）の応用について、虐待の予防・対応事例や、障害のある子どもとその保護者への支援事例等をもとにロールプレイや、グループワークにより、ソーシャルワークの基本的スキルを体得するとともに、その事例分析を通して対象への理解を深める。

保育相談支援
保護者に対する保育相談支援の意義と基本的視点を理解し、保育の特性と保育士の専門性をどのように活かして保護者を支援するのか、支援の基本・原則、理論、方法、技術を理解する。保護者支援では、保育士と保護者がともに子どもの成長の喜びを共有し、信頼関係を基本として受容的にかかわり、自己決定などの支援過程を通して、保護者自身の課題解決力、養育力の向上をはかることが重要であることを理解する。保育所や子育て支援センター、乳児院等の児童福祉施設での事例を用いて学ぶ。

児童家庭福祉
児童家庭福祉の現代的意義と日本及び諸外国の児童家庭福祉の歴史的変遷を学び、児童家庭福祉と保育との関連性や子どもの権利について理解する。また、児童家庭福祉の諸制度・サービスや実施体系、行財政等の仕組みについて学ぶ。増加し続ける児童

虐待やひとり親家庭の経済的困窮、子どもの貧困、待機児童問題などの現状を知り、児童家庭福祉の課題を整理するとともに、「子どもの最善の利益」を保障する観点から、児童家庭福祉のあるべき姿について考える。

社会的養護
社会的養護の現代的意義と歴史的変遷について学び、社会的養護と児童家庭福祉との関連性及び児童の権利擁護について理解するとともに、社会的養護の制度および実施体系等を学ぶ。社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を踏まえた上で、子どもの養護及び自立支援の計画、子ども・家族への援助の進め方、社会資源等の利用を考える必要性を理解する。施設養護と家庭的養護の相違や、そのメリット、デメリットについても学び、社会的養護の現実に対する課題を理解する。

こどもの保健Ⅰ－２
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義とその内容を理解する。子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的保健知識を得る。子どもの身体・精神・生理・運動の機能や発達、子どもの疾病とその予防、施設等における衛生・安全管理等の基礎知識を学ぶ。この科目では「Ⅰ－１」で学んだことを深め、次の事等の理解を深める。子どもによく見られる疾病や症状の特徴と予防及び適切な対応、予防接種についての知識、子どもの心の健康と家庭への対応、職員間や専門機関や地域との連携、子どもの衛生的で安全な生活のための保育環境の整備、危機管理等である。

こどもの保健Ⅱ
子どもの日常生活の健康と安全に関わる保健活動の計画と評価、子どもの健康管理と健康増進に関する保健活動の技術、子どもの事故防止と安全な保育環境についての知識と技術等について理解を深める。子どもの衣類の着脱・おむつ交換、身体計測、生理機能の測定、精神機能・感覚の発達と評価、運動機能の発達と評価の方法、等を実技・実習を通してその知識と技術・技能を習得する。子どもの歯の健康、乳幼児の身体の清潔（沐浴）、子どもの異常症状とその対応、事故と応急手当、心肺蘇生法等も実技を通して学ぶ。「保健便り」の作成もグループワークで学習する。また、保育者の健康管理についても学ぶ。

こどもの食と栄養
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養の基礎知識を学ぶ。小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題についての知識を深める。また、特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。

保育の心理学
子どもたちの発達過程や保育という営みを心理学的に理解することにより、人格形成における保育の役割について深く理解できるようにする。その際、子どものエピソード記録や実践記録等を用い、実際の保育実践への想像力を涵養しつつ、単なる知識としての学習ではなく、保育者として必要とされる実践的力量の形成をめざして講義を行う。また、障害のある子どもたちの障害特性や発達的特徴についての学習を通して、保育における支援の在り方についても考える。

乳児保育
乳児保育の基本となる考え方を学び、保育所、乳児院、こども園、家庭的保育など今日の社会的な必要性と保育者の役割について学ぶ。保育所保育指針における３歳児未満の発達のめやすについて学び、それぞれの発達段階における乳児の生活や遊びへの援助の方法を習得する。乳児保育の計画を作成することから、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。保護者とのパートナーシップ、保健・医療機関との連携についての重要性を理解する。

障害児保育
障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害についての基本的知識を深め、障害のある子どもとその家族や社会との関わりについて理解し、様々な障害について知り、障害のある子どもが集団生活の中で、他の子どもたちとともに育ち合うための援助の方法、環境構成、保育者としての役割や指導について学ぶ。また、障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解し、障害のある子どもの保育に関わる保健・医療・福祉・教育などの現状と課題について理解する。

社会的養護内容
様々な理由から家庭では養育されない児童に対して家庭に替わる児童福祉施設の養護について、児童の権利擁護の観点から、その意義と実際を理解するとともに、そこで働く保育士など職員の倫理について学ぶ。DVDの視聴や事例を用いて、児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を知り、保育士として現場で活躍するための基礎知識や技術を理解する。また、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について学び、個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に考えられるようにする。

保育実習指導Ⅰ-１
保育所実習の意義と目的を理解し、保育実習Ⅰ-１の段階と内容、実習生としての心構えや社会人としてのマナー等を学び実習への期待を高める。また保育所保育指針解説書を教科書にしながら、視聴覚教材や事例研究により保育所の役割や機能、乳幼児の発達等を学ぶ。あわせて発達に即した教材の扱いやかかわり方等における保育者の具体的な仕事の内容と留意点を学び、初めての保育実習に備える。１日の流れや子ども理解につながる記録の書き方も学ぶ。事後は実習簿や自己評価シート、意見交流、実習評価票等による振り返りを行い、自己課題を整理して次の実習につなぐ。

保育実習Ⅰ-１
保育所の生活と１日の流れを知り、保育所の役割や機能を理解する。子どもの観察とその記録による理解を深める。また、子どもとの関わりを通して発達過程の理解を深め、援助的な関わりについて考える。既習の教科内容を踏まえ、子どもの発達過程に応じた保育内容や方法、生活や遊びに適した保育環境、健康や安全への配慮について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、専門職としての保育士の役割について知る。

保育実習指導Ⅱ
保育実習Ⅰ-１の体験を踏まえて、保育実習Ⅱの段階のねらいと内容を理解し実習の課題と目標を具体的に立てる。記録の書き方や考察を深める演習、発達段階に即した教材研究、指導案作成の実際など、部分実習や責任実習を意識して必要な知識や技術を学ぶ。また保育士の役割について、保育所保育指針解説書や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、先輩の体験等から認識を深め、探求心や期待感を高めて実習に向かう準備をすすめる。事後は実習簿、自己評価シート、実習評価票等により振り返りを行い、最終の実習に向けて自己課題を明確にする。

体育実技
各種の体育・スポーツに関する基礎的な運動技能を獲得する。その運動技能の獲得に加え、どのように練習すればうまくなるのか、そのスポーツの歴史的背景やルール、勝敗に関わる戦術・戦略等も理解する。また学生相互で学び合い、学生全員が「できる・わかる」ようになることを目指す。就学前や小学校で行う器械運動、陸上運動、球技運動、体つくり運動等を行い、その内容を記録し整理する。整理した内容をもとに次の実技の課題を明らかにする。各種目の技術・戦術などについては、この時間だけなく図書館で本を借り自習により技能向上のポイントを探る。運動技能の向上をめざし自宅でも毎日練習するように心掛ける。

家庭支援論
家庭の意義とその機能について理解するとともに、子育て家庭を取り巻く社会的状況等の変化と家庭支援の諸施策・支援体制および、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について知り、子育て家庭への支援の在り方についての理解をはかる。家庭支援の原則・方法、理論を理解した上で、一般子育て家庭、障害のある子ども家庭、ひとり親家庭、特別な配慮を必要とする家庭など、支援の対象により必要とする社会資源や方法について、事例を用いて学ぶ。

保育実習指導Ⅰ－２
施設実習の意義と目的を理解する。特に施設における養護の具体的な内容や保育士の援助の方法等について、視聴覚教材や事例から学ぶとともに、様々な施設や施設ごとの役割、職員組織等を自己調査や児童福祉法等の復習によって把握し、施設や子ども（利用者）の特徴を知る。また、生活支援の意味と重要性について先輩の記録や実践例、私生活の実態から認識を深め、心構えと生活習慣を整えて、施設の社会的な役割と保育士の職務内容の理解を広げられるような実習につなぐ。事後は自己評価や実習評価票、意見交流等から振り返りを行い自分の子ども観の変容や人間的な成長を捉える。

保育実習Ⅰ－２
居住型児童福祉施設等を利用する子ども（利用者）への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について理解する。施設の生活に参加し、１日の生活の流れを理解した上で、子ども（利用者）のニーズや施設の生活状況を理解する。保育士の援助の実際を通して養護技術を修得するとともに、生活の一部を実際に担当し、養護を理解する。特に、子ども（利用者）の個別性に配慮した養護のあり方や、職員間の役割分担とチームワークや施設と家庭・地域社会との連携の実際に触れ、その在り方について理解する。日常の子ども（利用者）との関わりを通して、子ども（利用者）にとってよりより生活や関わりの在り方を学ぶ。

保育実習Ⅱ
実習では失敗も経験するが、それをプラスに生かし実践的な力を身に付ける。実習保育所の配属クラスの実態を踏まえ、指導保育士の助言を得ながら指導案を作成し指導・援助を行う。子どもの反応を学び、指導保育士からの指導・助言を得て、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。「保育所保育指針」について、実践を通してさらに理解を深める。日頃から様々な領域の保育に関わる題材に関心を持ち、子どもと遊ぶには、指導・援助するには、指導案ではどう書くのか、などを事前に考え準備しておく。

保育実習指導Ⅲ
「保育実習Ⅰ-２」を振り返り、保育士や児童指導員を目指す者として自己の課題を明確化する。グループワークにより学生相互の意見交流を促し、施設を利用する子ども（利用者）のおかれている家庭環境や地域の生活実態の理解を深め、目の前の子ども（利用者）の言動について、それらも合わせて全体的に理解できるようにする。また、子ども（利用者）の個人差について理解し、対応方法を考える。特に発達のおくれや生活環境にともなう子ども（利用者）のニーズを理解しその対応について理解する。実習事後指導においては、実習記録及び、実習評価票を基に実習の振り返りをし、自己課題の整理をする。

保育実習Ⅲ
保育士に必要な資質・能力・技術や知識の習得および、家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉等のニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て（利用者）を支援するために必要とされる能力を養う。養護全般に参加し、施設を利用する子ども（利用者）の理解や施設機能および保育士の職務内容の専門性の理解、職業倫理観や、施設内外の多様な専門機関・専門職者が互いに連携し合いながら行う養護行為・活動や自立支援の実際について、体験を通して学ぶ。援助計画を立案し、実際に実践する。

学校・地域調査（国内）Ⅱ
小学校でのボランティアの場合は、学校・地域調査（国内）Ⅰを継続する内容であり、１年間に亘り同じ小学校を訪問し、子ども理解と小学校の意義や役割の理解をさらに深める。その他の施設（保育所、幼稚園等）でのボランティアの場合は、運動会、遠足、生活発表会といった行事を中心に、それに向けての準備も含めて、職員の働きや、行事を通して見られた子どもの姿の観察を通して、施設や保育者の役割、子どもの理解をさらに深める。具体的には、授業・行事等の見学や子ども等との関わりからの気づき、学びのレポートを書き、小グループの中で意見交流し、全体に向けて発表し、教師のアドバイスを受ける。

学校・地域調査（国内）Ⅲ
近隣の小学校や幼稚園を定期的に訪問することや、遠くても特色ある小学校や幼稚園を数回訪問することを通して、その学校・園の教育について調査する。カリキュラムや教育方針の調査、実際の授業や活動の見学、児童や園児の観察、校長・園長や教師からの聴き取りなどにより、その学校・園の教育活動の全体像を理解する。その各学生の報告をもとに話し合い、学生が学校・園の様々な教育活動を知ることで教育観や学校・園のあり方について視野を広げることをめざす。

学校・地域調査（国内）Ⅳ
学校・地域調査（国内）Ⅲに引き続き、当該の学校・園に継続して調査に入る学生、あるいはⅢの調査をふまえ、その結果を掘り下げる為に新たな学校・園の調査を試みる学生を対象に、より深い調査のあり方を指導し、その結果について考察する。授業は各学生の報告と話し合いを軸に行うが、個別の学校・園の問題に留まらずに、現在の日本の小学校や幼稚園教育の特質や課題、それを解決する為の新たな方向性などに学生が目を向け、学校・園のあり方についての考察をより深くすることをめざす。

学校・地域調査（海外）
海外の教育機関を訪問し、授業の様子や子どもたちの暮らしぶり、教師の仕事についての見聞を広める。そして、日本の教育機関と対比させながら、訪問した国の教育の特徴についての理解を深め、日本の教育を見直すきっかけをつくることが目的である。主として訪問する教育機関は保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校であり、授業を参観した後には訪問先の学校の先生たちとの間で教育をめぐる情報交換を行う。まとめとして、学校地域調査の報告集を作成する。

英語教育論
グローバル化の進展と共に英語教育の充実が一層求められる中、我が国の英語教育施策、児童生徒の英語学習に関する状況、生徒・教員の英語力の現状、諸外国における外国語教育の状況、英語教育における国際理解教育、母語習得と第二言語習得などの言語学習指導理論等、幅広いテーマを取り上げ、英語教育はどうあるべきか、日本における英語教育全般についての理解を、発表活動などを通して深める。

1 取得可能資格一覧

資格名称		対象学部・学科	掲載ページ
教育職員免許状	小学校１種 幼稚園１種	発達教育学部児童教育学科	93〜
保育士		発達教育学部児童教育学科幼児教育コース	102〜
司書		発達教育学部児童教育学科	106
学校図書館司書教諭			107
博物館学芸員			108〜
社会教育主事			110〜
日本語教員養成			112〜
小学校英語指導者資格（J-SHINE 認定）		発達教育学部児童教育学科	114〜

2 教職課程

（1）教職課程とは

教職課程とは、教育職員免許法に基づいて授与される教育職員免許状（以下、教員免許状）を取得するための課程です。

大学卒業後、教職につくことを志望する者は、この課程で定められた所定の単位を修得し、都道府県教育委員会に教員免許状授与の申請をしなければなりません。

また、小学校教諭・中学校教諭免許状取得のためには、「介護等体験」が義務づけられています。（（7）参照）

（2）履修上の心構え

中等教職課程において、中学校教諭、高等学校教諭両方の教員免許状取得が可能な学科は、在学中に両方の免許状取得を目指すことを原則としています。

所定のすべての単位を修得して教員免許状の交付が受けられても、地方自治体や各私立学校が行う教員採用試験に合格しなければ、教員には採用されません。近年の公立学校の教員採用人数については、たいへん厳しいものがあります。

教職課程履修にあたっては、適性と将来の計画についてよく考え、教員になろうとする強い意志と努力が必要であり、実際に教職につくことを志望する人のみが履修するようにしてください。

教員免許状を単に資格のひとつとしてとらえることは、教育の軽視であり、教育実習校・生徒たちや介護等体験先に多大な迷惑をかける結果となります。

加えて、教職課程必修科目の履修が、時間割上の制約のため、卒業に必要な科目の選択を狭めることにもなります。

（3）免許状の種類および教科

本学で取得できる教員免許状の種類および教科

学部・学科		免許状の種類	免許状の教科
文学部	日本語日本文学科	中学校教諭１種免許状	国語
		高等学校教諭１種免許状	国語
		高等学校教諭１種免許状	書道
	歴史学科 および 歴史遺産学科	中学校教諭１種免許状	社会
		高等学校教諭１種免許状	地理歴史
国際英語学部	国際英語学科	中学校教諭１種免許状	英語
		高等学校教諭１種免許状	英語
発達教育学部	児童教育学科	小学校教諭１種免許状	
		幼稚園教諭１種免許状	
現代ビジネス学部	経営学科 および 都市環境デザイン学科	中学校教諭１種免許状	社会
		高等学校教諭１種免許状	公民
健康科学部	心理学科	高等学校教諭１種免許状	公民

（4）基礎資格および最低修得単位数

教員免許状を取得するには、基礎資格を有し表１および表２のとおり最低必要単位数を修得しなければなりません。

教育職員免許法別表第１関係（最低必要単位数）

（表１）

所要資格 ＼ 免許状の種類	基礎資格	最低取得単位数			
		科目			合計単位数
		教職に関する科目※1	教科又は教職に関する科目※2	教科に関する科目※3	
幼稚園教諭１種免許状	学士の学位を有すること	35	10	6	51
小学校教諭１種免許状	学士の学位を有すること	41	10	8	59
中学校教諭１種免許状	学士の学位を有すること	31	8	英　語　20 国　語　20 社　会　20	59
高等学校教諭１種免許状	学士の学位を有すること	23	16	英　語　20 国　語　20 書　道　20 地理歴史　20 公　民　20	59

※１　教職に関する科目（（8）表3）

「教職に関する科目」は、教員免許状取得希望者は全員履修しなければなりません。

※２　教科又は教職に関する科目（（8）表4）

「教科又は教職に関する科目」は、「教職に関する科目」、「教科に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」の３分野から、合計で中等教育課程においては８または16単位、初等教育課程においては10単位を修得しなければなりません。

※３　教科に関する科目（（8）表5）

「教科に関する科目」は、取得希望の教員免許状の教科ごとに履修科目が定められています。

教育職員免許法施行規則第66条の６関係

発達教育学部（表２）

施行規則による科目名	法定単位	本学開設科目名	単位	種別
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修
体育	2	体育理論	2	必修
		スポーツコースⅠ	1	１単位選択必修
		スポーツコースⅡ	1	
外国語コミュニケーション	2	英語ⅠA	1	必修
		英語ⅠB	1	必修
情報機器の操作	2	情報処理演習Ⅰ	1	必修
		情報処理演習Ⅱ	1	必修

（5）教職課程の履修方法

教職課程を履修しようとする者は、１回生から４回生まで、さまざまな手続きやガイダンスへの出席が必要です。諸手続きを行わない場合は、履修意志がないものとみなし、教職関係科目の履修ができなくなりますので注意してください。

①　教職課程履修登録

１回生の４月に「教職課程履修希望票」を提出し、教職課程履修者として登録をしてください。

②　各科目の登録について

受講登録の際に、各自が必要な科目を登録してください。科目によっては履修条件が付されている場合がありますので、履修の手引きやシラバス等で事前に確認する必要があります。

③　教職課程履修の辞退・変更について

教職課程の履修を辞退または取得希望免許種の変更をする場合は、学務第２課へ「教職課程履修辞退・免許種変更届」を提出しなければなりません。

④　各種連絡について

教職課程（介護等体験に関するものも含む）に関する上記以外の日程等連絡事項は、資格関係掲示版で通知します。常に掲示板には注意をはらうようにしてください。

⑤　必要な費用

教育実習を受ける際には、実習校に対する教育実習委託費や、保険料・消耗品費などが必要です。また、交通費、食費等は実習生負担となります。（詳細は、実習時に通知します）。また、免許状申請時には所定の手続きおよび、申請料、手数料等の納入が必要です。

⑥　感染症の予防について

教育実習や介護等体験に際し、麻疹等の抗体検査・ワクチン接種が求められることがあります。

（6）教員免許状を取得するまで（児童教育コース）

１回生

時　期	予　定	概　要
4月	教職課程履修ガイダンス	「教職課程履修希望票」を提出し、教職課程履修者として登録
	受講登録	教職課程で必要な科目を登録
1月	介護等体験申込ガイダンス	小学校の免許状取得に必須のため２回生での参加に向けて申込
3月	受講登録	教職課程で必要な科目を登録

２回生

時　期	予　定	概　要
4月	健康診断	介護等体験参加には、健康診断証明書が必要
	教育実習内諾ガイダンス	内諾方法を確認し内諾活動を開始
4月～5月	介護等体験事前指導	事前指導を３回受講
6月～	介護等体験参加	指定された日時・場所にそれぞれ体験に参加
7月	介護等体験報告会①	体験の内容・学びを共有
11月	介護等体験報告会②	体験の内容・学びを共有
1月	教育実習反省会	３回生の実習報告を聞き学ぶ
3月	受講登録	教育実習の条件を満たせるよう受講登録

3回生

時　期	予　定	概　要
4月	健康診断	教育実習実施には健康診断書が必要
4月～7月	教育実習事前指導	
7月	教育実習事前ガイダンス	実習に必要な書類の確認、最後の指導
9月	成績確認	教育実習の条件を満たしているか確認
9月～	教育実習実施	４週間小学校で実施
12月	教育実習事後指導	実習の振り返り
1月	教育実習反省会	実習内容・学びを共有
3月	受講登録	教職課程で必要な科目の修得状況を再度確認しながら登録

4回生

時　期	予　定	概　要
11月	教員免許状授与申請 ガイダンス	申請書・申請料を確認し期限までに大学に提出（現行１免許につき3,500円）
3月	卒業判定・成績の確認	卒業が確定し、かつ免許状に必要な科目を全て修得したか確認
	教員免許状交付	卒業式前日に交付

（7）介護等体験

小学校教諭１種免許状及び**中学校教諭１種免許状**取得のための必要要件として、所定の単位の修得以外に、法令により、介護等体験が義務づけられています。

介護等体験の概要は以下のとおりです。

【趣　　旨】「個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることを重要視し、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期すること」を目的としています。

【内　　容】盲学校、聾学校、養護学校（以下、特別支援学校という）の児童・生徒や、社会福祉施設での障害者、高齢者等の施設利用者に対する介護、介助等（満18才になってからの体験で、文部科学省・厚生労働省で認められた施設での体験でなければなりません）。

【期　　間】免許状申請時までに７日間以上の体験が必要です（７日間以上の介護等体験実施の証明書が必要）。体験期間７日間の内訳は、特別支援学校で２日間以上、社会福祉施設で５日間以上とされています。

児童教育学科の幼児教育コースの学生は、「保育実習Ⅰ－２」の施設実習を社会福祉施設（５日間）の体験とみなすことができます。従って、幼児教育コースの学生は特別支援学校（２日間）での体験のみ必要となります。

【介護等体験施設】介護等体験は大学をとおして申込手続をしてください（学生個人で直接申込することはできません）。特別支援学校の場合は各都道府県教育委員会経由で、社会福祉施設の場合は各都道府県社会福祉協議会を経由して、実施施設の決定がされます。

【体験証明書】体験実施の証明書を教員免許状申請時（４回生時10月頃）に教員免許状授与申請書に添付しなければなりません。

【適用除外】１）既に、中学校教諭や小学校教諭の免許状を取得済みの場合。

２）既に、看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士等の免許や資格を有する場合。

３）学生自身が、１級から６級の身体障害者として認定されている場合。

【実施回生】介護等体験実施回生は、児童教育学科は２回生、その他の学科生は３回生とします。

①　介護等体験に参加するには

１）介護等体験参加年度当初の『定期健康診断』を受診していること。

２）介護等体験ガイダンス等に出席していること。申し込みを行っても、必要なガイダンスに出席していない場合、介護等体験には参加できません。

３）以下の介護等体験諸費用を大学をとおして受入機関等に納入すること（いったん納入された諸費用は返金されません）。

上記１）～３）の各事項を満たしていない場合、介護等体験に参加できない場合があります。また、麻疹等の抗体検査が必要となる場合もあります。

１．実施費用

ａ）社会福祉施設：8,100円～（学生実費負担）

→実施都道府県により異なります。

食費・交通費は含みません。

ｂ）養・聾・盲学校（＝特別支援学校）：各都道府県により異なります。

２．保険

学生教育研究災害傷害保険（学研災）および学研災付帯賠償責任保険（学研賠）に、大学で一括加入しています。したがって、介護等体験中に、学生本人に災害傷害が発生したり、他人にけがをさせたり、他人の物を破損したりした場合、保険が適用されます。

３．検便等検査報告書の提出（現行費用約500～約2,000円）（学生実費負担）

受入施設により、検便や細菌培養検査等の検査結果報告書の提出が求められる場合があります。

４．麻疹等抗体検査結果報告書の提出

受入施設により、麻疹等の抗体検査結果の報告が求められる場合があります。

②　介護等体験必読文献

以下２点を事前学習のための必読テキストとします。

生協等一般書店で購入できます。購入申込手続は各自で行ってください。

①『特別支援学校における介護等体験ガイドブックフィリア』
全国特別支援学校長会編著　933＋税（現行）

②『よくわかる社会福祉施設教員免許志願者のためのガイドブック』
社会福祉法人全国社会福祉協議会　600＋税（現行）

（8）教職課程のカリキュラム表と履修にあたっての注意事項（初等教職課程用）

教職に関する科目（表３）

小学校教諭１種免許状の課程〈発達教育学部　児童教育学科〉

施行規則に定める科目区分等		本学基準	本学における科目	単位	種別		備考
科目	単位数	単位			必修	選択必修	
教職の意義等に関する科目	2	2	教職入門	2	◎		
教育の基礎理論に関する科目	6	6	教育原論	2	◎		
			教育心理学	2	◎		
			教育制度論	2	◎		
教育課程及び指導法に関する科目	22	26	教育課程論	2	◎		
			教科教育法（国語）	2	◎		書写を含む
			教科教育法（社会）	2	◎		
			教科教育法（算数）	2	◎		
			教科教育法（理科）	2	◎		
			教科教育法（生活）	2	◎		
			教科教育法（音楽）	2	◎		
			教科教育法（図画工作）	2	◎		
			教科教育法（家庭）	2	◎		
			教科教育法（体育）	2	◎		
			道徳教育の理論と方法	2	◎		
			特別活動論	2	◎		
			教育方法論	2	◎		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	4	生徒・進路指導	2	◎		
			教育相談	2	◎		（カウンセリングを含む）
教育実習	5	5	教育実習指導	1	◎		
			教育実習	4	◎		
			教育実習（小学校）Ⅱ	2			自由科目
教職実践演習	2	2	教職実践演習（初等）	2	◎		

注１）本学基準の教職に関する科目（表３）の合計単位数の内、法定単位数を超える単位については、教科又は教職に関する科目（表４）の単位数に含まれます。

幼稚園教諭１種免許状の課程〈発達教育学部　児童教育学科〉

施行規則に定める科目区分等		本学基準	本学における科目	単位	種別		備考
科目	単位数	単位			必修	選択必修	
教職の意義等に関する科目	2	2	教職入門	2	◎		
教育の基礎理論に関する科目	6	6	教育原論	2	◎		
			教育心理学	2	◎		
			教育制度論	2	◎		
教育課程及び指導法に関する科目	18	18	教育課程論	2	◎		
			保育内容総論	2	◎		
			保育内容演習（健康）Ⅰ	1	◎		
			保育内容演習（健康）Ⅱ	1	◎		
			保育内容演習（人間関係）Ⅰ	1	◎		
			保育内容演習（人間関係）Ⅱ	1	◎		
			保育内容演習（環境）Ⅰ	1	◎		
			保育内容演習（環境）Ⅱ	1	◎		
			保育内容演習（言語）	1	◎		
			保育の言語表現	1	◎		
			保育内容演習（表現）Ⅰ	1	◎		
			保育内容演習（表現）Ⅱ	1	◎		
			幼児体育指導法Ⅰ	1	◎		
			幼児体育指導法Ⅱ	1	◎		
			教育方法論	2	◎		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	2	4	こども理解Ⅰ（幼児）	2	◎		
			教育相談	2	◎		（カウンセリングを含む）
教育実習	5	5	教育実習指導	1	◎		
			教育実習	4	◎		
教職実践演習	2	2	教職実践演習（初等）	2	◎		

注１）本学基準の教職に関する科目（表３）の合計単位数の内、法定単位数を超える単位については、教科又は教職に関する科目（表４）の単位数に含まれます。

履修にあたっての注意事項（初等教育課程用）

教職に関する科目（表３）についての注意事項

■教職に関する科目表の配当回生欄に記載どおり、１回生から履修可能です。１回生から計画的に履修するようにしてください。

■　の科目は、必ず科目名の後に（初）と表記のあるものを履修してください。キャリア教育科目群にある同じ科目名のものは、中等教職科目の為内容が異なります。

■「教育実習指導」「教育実習」の受講条件は、学校種により、以下の通りとなっています。

１）以下に掲げる科目を修得済みであること

●小学校での実習について

「教職入門」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程論」「教科教育法（国語）」「教科教育法（社会）」「教科教育法（算数）」「教科教育法（理科）」「教科教育法（生活）」「教科教育法（音楽）」「教科教育法（図画工作）」「教科教育法（家庭）」「教科教育法（体育）」「道徳教育の理論と方法」「特別活動論」「教育方法論」「生徒・進路指導」18科目から原則として13科目以上を修得済。

●幼稚園での実習について

「教職入門」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」「保育内容演習（健康）Ⅰ・Ⅱ」「保育内容演習（人間関係）Ⅰ・Ⅱ」「保育内容演習（環境）Ⅰ・Ⅱ」「保育内容演習（表現）Ⅰ・Ⅱ」「幼児体育Ⅰ・Ⅱ」「こども理解Ⅰ（幼児）」15科目から原則として８科目以上を修得済。

教科又は教職に関する科目（表４）

〈発達教育学部　児童教育学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目（単位数）	種別 必修	種別 選択必修	備考
教科又は教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	小 10 幼 10	学級担任論（2） 児童英語教育研究（2） 児童英語教材研究（2） 児童英語指導演習Ⅰ（2） 児童英語指導演習Ⅱ（2）		○ ○ ○ ○ ○	小学校のみ選択科目

注）「教科又は教職に関する科目」は「（表３）教職に関する科目」と「（表５）教科に関する科目」の修得単位数の内、法定単位数を超えて修得した単位数と「教科又は教職に関する科目」から修得した単位数の合計で、最低10単位必要になります。したがって、（表３）と（表５）の本学基準を満たせば、（表４）における「教科又は教職に関する科目」の必要単位数を満たすことが出来ます。

教科又は教職に関する科目（表４）についての注意事項

①教科又は教職に関する科目は、最低修得単位数を超えて履修した教職に関する科目や、教科に関する科目の単位数を含めることができます。

②教科又は教職に関する科目については、必修科目はありません。

教科に関する科目（表５）

小学校教諭１種免許状の課程〈発達教育学部　児童教育学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目（単位数）	必修	選択必修	備考
教科に関する科目（小一）	国　語（書写を含む）	2	国語概論（2）	◎		（書写を含む）
	社　会	2	社会科概論（2）	◎		
	算　数	2	数学概論（2）	◎		
	理　科	2	自然科学概論（2）	◎		
	生　活	2	生活科概論（2）	◎		
	音　楽	2	音楽概論（2）	◎		
	図画工作	2	美術概論（2）	◎		
	家　庭	2	家庭科概論（2）	◎		
	体　育	2	体育概論（2）	◎		

注１）必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。
注２）本学基準の教科に関する科目の合計単位数の内、法定単位数（教科に関する科目全体で８単位）を超える単位については、教科又は教職に関する科目（表４）の単位数に含まれます。

幼稚園教諭１種免許状の課程〈発達教育学部　児童教育学科〉

教科	施行規則に定める科目区分	本学基準単位	本学における授業科目（単位数）	必修	選択必修	備考
教科に関する科目（幼一）	国　語	2	国語概論（2）	◎		
	算　数	2	数学概論（2）	◎		
	生　活	2	生活科概論（2）	◎		
	音　楽	4	音楽概論（2） 音楽演習Ⅰ（2）	◎ ◎		
	図画工作	4	美術概論（2） 絵画・工芸演習（2）	◎ ◎		
	体　育	2	体育概論（2）	◎		

注１）必修・選択必修は、教員免許状取得の際の必修・選択必修の意味です。要卒の必修・選択必修とは別です。
注２）本学基準の教科に関する科目の合計単位数の内、法定単位数（教科に関する科目全体で６単位）を超える単位については、教科又は教職に関する科目（表４）の単位数に含まれます。

教科に関する科目（表５）についての注意事項

①教科に関する科目は、学校種ごとに履修教科を定めており、所定の科目を卒業までに修得しなければなりません。１回生から計画的に履修するようにしてください。

3 保育士課程

（1）保育士課程とは

保育士とは、「この法律で、保育士とは、第十八条の十八第一項の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう。（児童福祉法第十八条の四）」と定義されています。

［参考：保育士となる資格を有する者が保育士となるには、保育士登録簿に、氏名、生年月日その他厚生労働省令で定める事項の登録を受けなければならない。（同第十八条の十八第一項）］

保育士となる資格を有する者は、次のいずれかに該当する者とされています。（同第十八条の六）

①厚生労働大臣の指定する保育士を養成する学校その他の施設（以下「指定保育士養成施設」という。）を卒業した者

②保育士試験に合格した者

児童教育学科幼児教育コースの保育士課程は、上記①の指定保育士養成施設となりますので、この課程に在籍し、必要な単位を修得し、卒業すれば、保育士試験を受験しなくても、保育士の資格を得ることができます。

ただし、「保育士証」を得るには、都道府県知事に対して「保育士登録」の申請が必要です。申請説明会は、４回生の11月に実施します。なお、「保育士登録」には申請手数料（2017年度4,200円）が必要です。

（2）履修上の注意

保育士課程科目の単位認定には、当該授業への３分の２以上の出席を必要としています。保育士課程カリキュラム科目を受講する際には、充分注意してください（授業総数が15回の場合は、10回以上の出席が必要です。また、授業総数が８回の場合は、６回以上の出席が必要です）。

保育実習時には、交通費、宿泊費、食費、および消耗品費などの実費が必要です（詳細は、実習時に通知します）。

（3）保育士課程カリキュラム

教養科目

児童福祉法施行規則				本学開講科目				
系列	教科目	授業形態	単位	科目名	授業形態	必修	選択	備考
教養科目	体育	講義	8単位以上（うち体育に関する講義及び実技各1単位）	体育概論	講義	2		
		実技		体育実技	実技	1		
	外国語	演習		英語ⅠA・ⅠB	演習		各1	左記より６単位以上選択必修
				英語ⅡA・ⅡB	演習		各1	
	外国語・体育以外の科目			比較文化論	講義		2	
				音楽概論	講義		2	
				美術概論	講義		2	
	合計		8	合計　９単位（必修合計　３単位、選択必修合計　６単位）				

必修科目

児童福祉法施行規則				本学開講科目				
系列	教科目	授業形態	単位	教科名	授業形態	必修	選択	備考
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		
	教育原理	講義	2	教育原論	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	1		
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義	2		
	保育者論	講義	2	教職入門	講義	2		
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	発達心理学	講義	2		
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学	演習	1		
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	こどもの保健Ⅰ－１	講義	2		
				こどもの保健Ⅰ－２	講義	2		
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	こどもの保健Ⅱ	演習	1		
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養	演習	2		
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2		
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	教育課程論	講義	2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習（環境）Ⅰ	演習	1		
				保育内容演習（表現）Ⅰ	演習	1		
				保育内容演習（健康）Ⅰ	演習	1		
				保育内容演習（人間関係）Ⅰ	演習	1		
				保育内容演習（言語）	演習	1		
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習	2		
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	2		
	保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習	1		
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	絵画・工芸演習	演習	2		
				音楽演習Ⅰ	演習	2		
				保育の言語表現	演習	1		
				幼児体育Ⅰ	演習	1		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ－１	実習	2		
				保育実習Ⅰ－２	実習	2		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ－１	演習	1		
				保育実習指導Ⅰ－２	演習	1		
総合演習	保育実践演習	演習	2	教職実践演習（初等）	演習	2		

選択必修科目

児童福祉法施行規則				本学開講科目				
系列	教科目	授業形態	単位	科目名	授業形態	必修	選択	備考
保育の本質・目的に関する科目			9単位以上（うち保育実習3単位以上）					
保育の対象の理解に関する科目				こども理解Ⅰ（幼児） 教育相談	講義 講義		2 2	
保育の内容・方法に関する科目				保育内容演習（環境）Ⅱ 保育内容演習（表現）Ⅱ 保育内容演習（健康）Ⅱ 保育内容演習（人間関係）Ⅱ	演習 演習 演習 演習		1 1 1 1	このうち6単位以上選択必修
保育の表現技術				音楽演習Ⅱ 音楽演習Ⅲ 音楽演習Ⅳ 幼児体育Ⅱ	演習 演習 演習 演習		2 2 2 1	
保育実習	保育実習Ⅱ	実習		保育実習Ⅱ	実習		2	いずれか必修3単位
	保育実習指導Ⅱ	演習		保育実習指導Ⅱ	演習		1	
	保育実習Ⅲ	実習		保育実習Ⅲ	実習		2	
	保育実習指導Ⅲ	演習		保育実習指導Ⅲ	演習		1	

（4）保育実習について

「保育実習Ⅰ～Ⅲ」の履修条件は以下のとおりです。

〈発達教育学部児童教育学科〉

（対象科目）「保育実習Ⅰ－1」・「保育実習Ⅰ－2」

（履修条件）以下の6科目のうち、原則として4科目以上を修得済みであること。

「社会福祉」「保育原理」「教職入門」「教育原論」「発達心理学」「こどもの保健Ⅰ－1」

（対象科目）「保育実習Ⅱ」・「保育実習Ⅲ」

（履修条件）以下の1）、2）の要件を満たすこと。

1）「保育実習Ⅰ－1」「保育実習Ⅰ－2」および「保育実習指導Ⅰ－1」「保育実習指導Ⅰ－2」「保育実習指導Ⅱ」を原則として履修済みであること。

2）以下の15科目のうち8科目以上を原則として修得済みであること。

「保育の心理学」「相談援助」「保育相談支援」「児童家庭福祉」「社会的養護」「障害児保育」「こどもの保健Ⅰ－2」「こどもの保健Ⅱ」「こどもの食と栄養」「保育内容演習（環境）Ⅰ」「保育内容演習（表現）Ⅰ」「保育内容演習（人間関係）Ⅰ」「保育内容演習（健康）Ⅰ」「乳児保育」「社会的養護内容」

4 司書課程

司書とは、地方公共団体の設置する公立図書館、または法人の設置する私立図書館において、図書資料の収集・整理・保管や利用者サービス等に従事する専門職です。

司書資格は、大学において所定の図書館に関する科目を履修した者に授与されます（図書館法第５条第１項）。

（1）司書課程の履修方法

司書となる資格を得るために必要な科目は、図書館法施行規則（第１条）に規定されています。本学ではこれに基づいて司書課程の履修方法を規定しています。

併せて本学の司書資格取得には登録が必要です。登録については、３回生の４月初旬に行う資格ガイダンス時に登録用紙を配布いたしますので、定められた期間に登録してください。

履修にあたっての注意事項

① 本学基準の必修科目のすべてと選択必修科目より２単位を修得すれば、司書資格に必要な単位を満たすことができます。

② 「図書館実習」の受講にあたっては、２回生終了時のGPAが2.3以上あり、「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」「図書館サービス概論」「情報サービス論」「児童サービス論」「図書館情報資源概論」「情報資源組織論」を実習前年度までに修得済みであること。詳細については、各年度のガイダンス時にお知らせします。

③ なお、本資格科目の受講登録に際しては、下記の内容に注意してください。

・「情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ」は、「情報資源組織論」を履修済みであることが望ましい。
・「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ」は、「情報サービス論」を履修済みであることが望ましい。
・「図書館施設論」は、「図書館概論」又は「図書館サービス概論」を履修済みであることが望ましい。
・「図書館情報資源特論」は、「児童サービス論」を履修済みであることが望ましい。

（2）司書資格証明書の授与

本学を卒業し、司書課程の所定の単位を修得した者には「司書資格証明書」を授与します。司書資格取得の可否通知は、卒業認定通知等の発表と同時に行います。

証明書の交付は、卒業時に行います。

（3）図書館に関する科目

司書資格を取得するためには、大学を卒業した上に、次の表にしたがい科目を修得しなければなりません。

法定基準			本学基準				
種別	科目名	単位	種別	科目名	単位	配当回生	備考
必修	生涯学習概論	2	必修	生涯学習概論Ⅰ	2	1～	
	図書館概論	2		図書館概論	2	1～	
	図書館制度・経営論	2		図書館制度・経営論	2	2～	
	図書館情報技術論	2		図書館情報技術論	2	2～	
	図書館サービス概論	2		図書館サービス概論	2	2～	
	情報サービス論	2		情報サービス論	2	2～	
	児童サービス論	2		児童サービス論	2	2～	
	情報サービス演習	2		情報サービス演習Ⅰ	1	2～	
				情報サービス演習Ⅱ	1	2～	
	図書館情報資源概論	2		図書館情報資源概論	2	2～	
	情報資源組織論	2		情報資源組織論	2	2～	
	情報資源組織演習	2		情報資源組織演習Ⅰ	1	2～	
				情報資源組織演習Ⅱ	1	2～	
選択必修	図書館情報資源特論	1	選択必修	図書館情報資源特論	1	2～	２単位選択必修
	図書館施設論	1		図書館施設論	1	2～	
	図書館実習	1		図書館実習	1	3～	

5 学校図書館司書教諭課程

「学校図書館法」では、すべての小・中・高等学校に学校図書館を設けなければならないこと、その専門的職務に携わるために学校図書館司書教諭を置くことが定められています。

学校図書館司書教諭は、教諭であり、文部科学省で定めている講習を修了した者と規定されています（学校図書館法第５条）。この学校図書館司書教諭に必要な科目は「学校図書館司書教諭講習規程（第３条）」に定められ、修了者には、文部科学大臣による修了証書が授与されます（同講習規程第６条）。

＊「教育職員免許状」と「学校図書館司書教諭講習修了証書」を併せて持つことで、学校図書館司書教諭の資格を有することになります。

（1）学校図書館司書教諭課程の履修方法

司書教諭となる資格を得るために必要な科目は、学校図書館司書教諭講習規程（第３条）に規定されています。本学ではこれに基づいて司書教諭関係科目の履修方法を規定しています。

司書教諭課程に関する科目は、２回生から履修できます。ただし、司書教諭課程履修者は、同時に教職課程履修者でなければなりません（既に教員免許状を取得済の場合は除く）。

（2）学校図書館司書教諭に関する科目

法定科目名	単位	種別	本学開設科目	単位	配当回生
学校経営と学校図書館	2	必修	学校経営と学校図書館	2	2～
学校図書館メディアの構成	2	必修	学校図書館メディアの構成	2	2～
学習指導と学校図書館	2	必修	学習指導と学校図書館	2	2～
読書と豊かな人間性	2	必修	読書と豊かな人間性	2	2～
情報メディアの活用	2	必修	情報メディアの活用	2	2～

（3）学校図書館司書教諭講習修了証書の授与

文部科学省は毎年、大学を指定して司書教諭講習を委嘱しています。小学校、中学校および高等学校いずれかの教育職員免許状を取得し、本学の学校図書館司書教諭課程の所要単位を修得した者は、文部科学省の委嘱した講習を修了したものと認められます。

申請手続きの説明会を下記の要領で実施します。申請は、単位の取得時期により下記のとおり異なります。なお、単位を取得しても申請をしなければ講習修了証書は発行されません。

① ３回生までに必修５科目を取得済みの者：申請手数料400円

５月～６月　「学校図書館司書教諭講習」申請説明会
６月　大学よりまとめて講習申込を申請（書類参加のみ。講習に参加する必要は無し）
翌年３月　卒業時に「講習修了書」を交付

② ４回生で履修中の科目がある者：申請手数料700円

11月　「学校図書館司書教諭講習」申請説明会
翌年６月　大学よりまとめて講習申込を申請（書類参加のみ。講習に参加する必要は無し）
翌々年３月　本学より申請者宛に「講習修了証書」を郵送

6 博物館学芸員資格課程

一般に博物館と呼ばれているものには、歴史・考古・民俗（族）の博物館、美術館、郷土館、記念館、民芸館のほかに、自然を対象とする自然史博物館、天文館、科学館、水族館のようなものまで幅広く包含されます。これら社会教育機関で、資料の収集・保管・展示および調査研究等に従事する者が学芸員です。したがって、学芸員は研究者であるとともに教育者として位置付けられています。

学芸員資格は、学士の称号を有する者で大学において文部科学省令の定める所定の単位を修得した者に授与されます（博物館法第５条第１項）。

（1）博物館学芸員課程の履修方法

履修にあたっての注意事項

① 本学の学芸員資格取得には登録が必要です。登録については、３回生の４月初旬に行う資格ガイダンス時に登録用紙を配布いたしますので、定められた期間に登録してください。

② **３回生時に「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」を履修する者は、２回生終了時の累計GPAが、2.3以上であることが必要です。**

③ **４回生時に「博物館実習Ⅲ」を履修する者は、３回生終了時までに「博物館実習Ⅲ」を除く全ての課程必修科目を履修済みであることが必要です。**

④ 館務実習の際には、博物館実習委託費（実費）が必要な場合があります。

⑤ 受講者全体の実習館確保を最優先とするため、希望の館以外での実習となる場合があります。

（2）博物館学芸員資格証明書の授与

本学を卒業し、博物館学芸員課程の所定の単位を修得した者には「学芸員資格証明書」を授与します。博物館学芸員資格取得の可否通知は、卒業認定通知等の発表と同時に行います。

証明書の交付は、卒業時に行います。

（3）ガイダンス等の実施

博物館学芸員課程を履修しようとする学生は、１回生から４回生まで、さまざまな手続きやガイダンスへの出席が必要です。諸手続きを行わない場合は、履修意志がないものとみなし、博物館学芸員課程関係科目の履修ができなくなりますので、注意してください。

博物館実習（館務実習）関連ガイダンス等スケジュール

対象	時期	内容
３回生	10月頃	実習説明会および実習先希望調査
	11月	地方館内諾依頼説明会（大学が斡旋する実習館以外での実習希望者対象）
	10～３月	地方館内諾依頼（大学が斡旋する実習館以外）
４回生	５月下旬頃	実習配当館決定 実習事前ガイダンス、実習関連書類提出開始
	６月～12月	博物館実習（館務実習）

※ガイダンス等の案内は掲示・ポータルサイトにて行いますので、自主的に確認するよう心がけてください。

（4）博物館学芸員に関する科目

学芸員の資格を得るためには、次の表にしたがい科目を修得しなければなりません。

法定基準			本学基準					
種別	科目名	単位	種別	科目名	単位	配当回生	区分	備考
必修	生涯学習概論	2	必修	生涯学習概論Ⅰ	2	1～		
	博物館概論	2		博物館学概論	2	1～		
	博物館経営論	2		博物館経営論	2	2～		
	博物館資料論	2		博物館資料論	2	2～		
	博物館資料保存論	2		博物館資料保存論	2	2～		
	博物館展示論	2		博物館展示論※1	2	2～		
	博物館教育論	2		博物館教育論	2	1～		
	博物館情報・メディア論	2		博物館情報・メディア論	2	1～		
	博物館実習	3		博物館実習Ⅰ	1	3～		
				博物館実習Ⅱ	1	3～		
				博物館実習Ⅲ	1	4		
			選択必修	古都学Ⅰ	2	3～	A文化史	8単位選択必修（A～Eの区分のうち、2区分以上にわたって修得すること。）
				古都学Ⅱ	2	3～		
				出土文字資料論	2	2～		
				建築遺産研究Ⅰ	2	2～		
				建築遺産研究Ⅱ	2	2～		
				歴史遺産研究Ⅰ	2	2～		
				歴史遺産研究Ⅱ	2	2～		
				木簡・金石文学	2	3～		
				古文書学ＡⅠ（古代・中世）	2	2～		
				古文書学ＡⅡ（古代・中世）	2	2～		
				古文書学ＢⅠ（近世）	2	2～		
				古文書学ＢⅡ（近世）	2	2～		
				日本美術史Ⅰ	2	1～	B美術史	
				日本美術史Ⅱ	2	1～		
				東洋美術史	2	1～		
				西洋美術史	2	1～		
				美術工芸史研究Ⅰ	2	2～		
				美術工芸史研究Ⅱ	2	2～		
				考古学概説Ⅰ	2	1～	C考古学	
				考古学概説Ⅱ	2	1～		
				考古学研究Ⅰ	2	2～		
				考古学研究Ⅱ	2	3～		
				人文地理学	2	2～	D地学	
				自然地理学	2	2～		
				地理学概論	2	1～		
				民俗学	2	1～	E民俗学	
				文化遺産学	2	1～		

注１：都市環境デザイン学科の学生は、学科の選択必修科目として設定されている「展示デザイン論」で読み替えを行います。

7 社会教育主事課程

社会教育主事は、都道府県および市（特別区）町村の教育委員会の事務局に置かれ、社会教育を行う者の求めに応じて専門的、技術的な助言と指導を与えることを職務とする専門的教育職員です（「社会教育法」第９条の２・３「教育公務員特例法」第２条第５項）。

「社会教育法」第９条の４には、大学に２年間以上在学して、62単位以上を修得し、且つ大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で、以下のイ～ハに掲げる期間を通算した期間が１年以上になるものは「社会教育主事となる資格を有する」と定められています。

イ．社会教育主事補の職にあった期間

ロ．官公署又は社会教育関係団体における社会教育に関係のある職で文部科学大臣の指定するものにあった期間

ハ．官公署又は社会教育関係団体が実施する社会教育に関係のある事業における業務であって、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（イ又はロに掲げる期間に該当する期間を除く。）

（１）社会教育主事課程の履修方法

社会教育主事となる資格を得るために必要な科目は、「社会教育主事講習等規程」第11条に規定されています。本学ではこれに基づいて社会教育主事関係科目の履修方法を規定しています。

社会教育主事課程に関する科目は１回生から計画的に履修してください。

（２）社会教育主事課程修了証書の授与

社会教育主事課程の所要単位を修得した者には、社会教育主事としての基礎資格を有する者として、卒業時に本学より「社会教育主事課程修了証書」を授与します。社会教育主事課程の修了可否の通知は、卒業認定通知等の発表と同時に行います。修了証書の交付は卒業時に行います。

（３）社会教育主事課程に関する科目

法定基準			本学基準				
種別	科目名	単位	種別	科目名	単位	配当回生	備　考
必修	生涯学習概論	4	必修	生涯学習概論Ⅰ	2	1～	
				生涯学習概論Ⅱ	2	1～	
	社会教育計画	4		社会教育計画Ⅰ	2	2～	
				社会教育計画Ⅱ	2	2～	
	社会教育演習または、 社会教育課題研究	4		社会教育演習	2	2～	
				社会教育課題研究	2	2～	
選択必修	社会教育特講Ⅰ （現代社会と社会教育）	4	選択必修	地球環境論	2	1～	４単位 選択必修
				人権と教育	2	2～	
				自然の探求	2	1～	
				情報社会論	2	1～	
				時事問題研究	2	1～	
	社会教育特講Ⅱ （社会教育活動・事業・施設）	4		博物館学概論	2	1～	４単位 選択必修
				図書館概論	2	1～	
				情報サービス論	2	2～	
				博物館情報・メディア論	2	1～	
				文化財行政論	2	1～	
	社会教育特講Ⅲ	4		図書館サービス概論	2	2～	４単位 選択必修
				教育原論	2	1～	
				道徳教育の理論と方法	2	2～	
				人文地理学	2	2～	
				地誌	2	2～	
				エコロジー研究	2	1～	

8 日本語教員養成

日本語教員養成に関する科目は、外国人に対して日本語を教授する人材（日本語教員）を養成することを目的として開講する科目群です。日本と外国との交流が活発化するにしたがい、日本語を学習しようとする外国人が増加してきています。このような社会的背景を考慮して本科目群を開講します。

なお、現在日本語教員の資格・免許は制度化されていませんが、本学の日本語教員養成を修了すれば、日本語教員となる基準をみたすことができます。

※国際英語学部生は、１年間または半年留学のため、在学４年間のうちに取得することが難しい場合もあります。

（1）日本語教員養成科目の履修方法

文部科学省によって定められた「日本語教育機関の運営に関する基準」の第11条では、「教員の資格」について以下のように示されています。

① 大学(短期大学を除く)において日本語教育に関する主専攻(日本語教育科目45単位以上)を修了し､卒業した者。

② 大学（短期大学を除く）において日本語教育に関する科目を26単位以上修得し、卒業した者。

本学では、これに基づいて日本語教員養成の履修方法を規定し、本学としての自主的な判断から、大学学部卒の日本語教師として望まれる資質、能力を養成するため、次表に示す日本語養成に関する科目を修得することを条件に、日本語教員養成修了証を授与します。

（2）教育実習参加の条件

教育実習は国内もしくは海外のいずれかで実施することとしています。実習に参加するためには以下の条件を満たす必要があります。

① 海外実習希望者について

ア）「日本語教材研究」の単位を取得していること。

イ）「日本語教授法Ⅲ」・「日本語教授法Ⅳ」２科目の成績平均が 80 点以上であること。

ウ）言語教育・国際交流支援オフィスが実施する書類選考および面接選考に合格すること。

なお、書類選考は以下の 2 テーマに関する 1000 字程度のレポートにより行う。

（ア）模擬授業を実際に行ってわかった自身の課題点

（イ）海外実習参加希望理由

② 国内実習希望者について

ア）「日本語教材研究」の単位を取得していること。

イ）言語教育・国際交流支援オフィスが実施する書類選考に合格すること。

書類選考は、以下の 2 テーマに関する 1000 字程度のレポートにより行う。

（ア）模擬授業を実際に行ってわかった自身の課題点

（イ）国内実習参加希望理由

（3）日本語教員養成修了証書の授与

日本語教員養成の所要単位を修得した者には、本学より「日本語教員養成修了証」を授与します。日本語教員養成修了の通知は、卒業認定通知等の発表と同時に行い、修了証書の交付は卒業時に行います。

（3）日本語教員養成に関する科目

	必修科目	単位	配当回生	選択科目	単位	配当学年	備考
社会・文化・地域	時事問題研究	2	1～	英語圏文学Ａ	2	1～	左記科目から10単位選択必修
				情報社会論	2	1～	
				文化人類学	2	1～	
				国際関係入門	2	1～	
				社会学概論Ⅰ	2	1～	
				社会学概論Ⅱ	2	1～	
				日本文学史Ⅰ	2	2～	
				日本文学史Ⅱ	2	2～	
				近現代文学講義Ⅰ	2	2～	
				近現代文学講義Ⅱ	2	2～	
				近現代文学講義Ⅲ	2	2～	
				近現代文学講義Ⅳ	2	2～	
				英語圏文学Ｂ	2	3～	
				比較文化論	2	3～	
言語と社会				ジェンダー研究	2	1～	
				言語コミュニケーション論	2	1～	
				現代のメディアと表現	2	1～	
				異文化コミュニケーション論（人文）	2	1～	
				多文化コミュニケーションＡ	2	1～	
				日本語学講義Ⅲ（社会言語学）	2	2～	
				多文化コミュニケーションＢ	2	3～	
				翻訳演習	2	3～	
				通訳演習	2	3～	
言語と心理				教育心理学	2	1～	
				心理学概論	2	2～	
言語と教育	日本語教授法Ⅰ	2	2～	英語教育論	2	2～	左記科目から2単位選択必修
	日本語教授法Ⅱ	2	2～				
	日本語教授法Ⅲ	2	3～				
	日本語教授法Ⅳ	2	3～				
	日本語教材研究	2	4				
	日本語教育実習	2	4				
言語	日本語学概説Ⅰ	2	1～	日本語学講義Ⅳ（日本語史）	2	2～	
	日本語学概説Ⅱ	2	1～	アナウンス技術演習Ⅰ	2	2～	
	日本語学講義Ⅰ（日本語文法）	2	2～	アナウンス技術演習Ⅱ	2	2～	
	日本語学講義Ⅱ（日本語文法）	2	2～	英語学 A	2	1～	
				Language Studies A	2	2～	
				Language Studies B	2	2～	
小計		22		小計	12		

注１：「日本語教材研究」は、「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を修得済みでなければ登録できません。
注２：「日本語教育実習」は、「日本語教材研究」とあわせて登録しなければなりません。
注３：「日本語教材研究」の成績が「不可」の場合、「日本語教育実習」の登録は取り消されます。
注４：「比較文化論」は、国際英語学科の専門科目を指し、教養教育科目の「比較文化論」とは別科目です。

9 小学校英語指導者資格（J-SHINE認定）

「小学校英語指導者資格」を取得したい方は、小学校英語指導者認定協議会（略称：J-SHINE）の認定を受けた登録団体が主催する「指導者養成講座」を修了し、その団体より「小学校英語指導者」としての推薦を受けなければなりません。

京都橘大学はJ-SHINEより登録団体認定を受けており、本学の開講する（2）表の科目を修得することで「指導者養成講座」を修了したことが認められます。資格の受講対象は国際英語学科、児童教育学科の希望学生となります。資格取得後は各地域の小学校で行われる英語活動の指導やサポートをすることができます。

※小学校英語指導者認定協議会（略称：J-SHINE）とは

日本における「小学校での英語教育の普及・発展を支援する」という趣旨のもと、2003年２月に内閣府へ「特定非営利活動法人」としての申請を行い、民間主導で設立された英語教育指導者の資格認定を行うNPOです。

（1）小学校英語指導者資格の履修方法

以下（2）に定める科目の修得に加えて、次の２点の基準を満たす必要があります。

1．（4）で定める指導時間50時間以上の実施経験があること。

2．英語力の目安として、英語で授業が行えること。

（2）小学校英語指導者資格に関する科目

科目名	単位	配当回生	備考
英語教育論	2	3～※1	必修
児童英語教育研究	2	3～	必修
児童英語教材研究	2	3～	必修
児童英語指導演習Ⅰ	2	4	必修
児童英語指導演習Ⅱ	2	4	必修

※「英語教育論」について、国際英語学科生は2回生配当、児童教育学科生は3回生配当です。

※「児童英語指導演習Ⅰ」、「児童英語指導演習Ⅱ」を受講するためには、
「児童英語教育研究」および「児童英語教材研究」を修得済みであることが条件になります。

（3）小学校英語指導者資格申請の手続き

手続き方法については、別途ガイダンスを開催します。資格認定を希望する学生は必ず参加をしてください。所定の単位修得後も資格申請を行わない場合はJ-SHINEから認定を受けることができません。（ガイダンスは４回生時の12月を予定しています）

【申請時の提出書類】

・願書　　・写真２枚（4.5cm×3.5cm）

・申請料6,000円（現行）　　・50時間指導経験申告書

※１．資格申請の都合上、認証書（英語指導者資格証明書）の交付は卒業後になります。

※２．資格の有効期限は４年間です。更新料は5,000円（現行）。

（4）小学生等に対する英語指導経験について

50時間の指導経験については、当面次のように扱います。

1．小学校での経験の有無にこだわらず、英会話スクール、学習塾、自宅教室、公民館、家庭教師などの経験をすべて含めて合計50時間以上の経験時間があること。

2．その中には、見学の時間も含んでもよい。ただし、見学の時間は20時間以内とし、小学校での通常授業の見学に限定することとする。

3．小学校の通常授業での指導経験が35時間以上ある場合（見学の時間は含まない）には、50時間を満たさなくてもよい。

4．英語の指導経験であること（日本語を母語としない幼児、児童に対しては英語を使っての指導を含む）。

5．小中学校での指導経験については１コマを１時間として認定する。

6．指導の対象は、満３歳から満12歳までとする。

7．中学生の指導時間については、10時間のみ50時間の指導経験に含めてもよい。

8．指導の際の「打合せの時間」は指導経験に含めない。

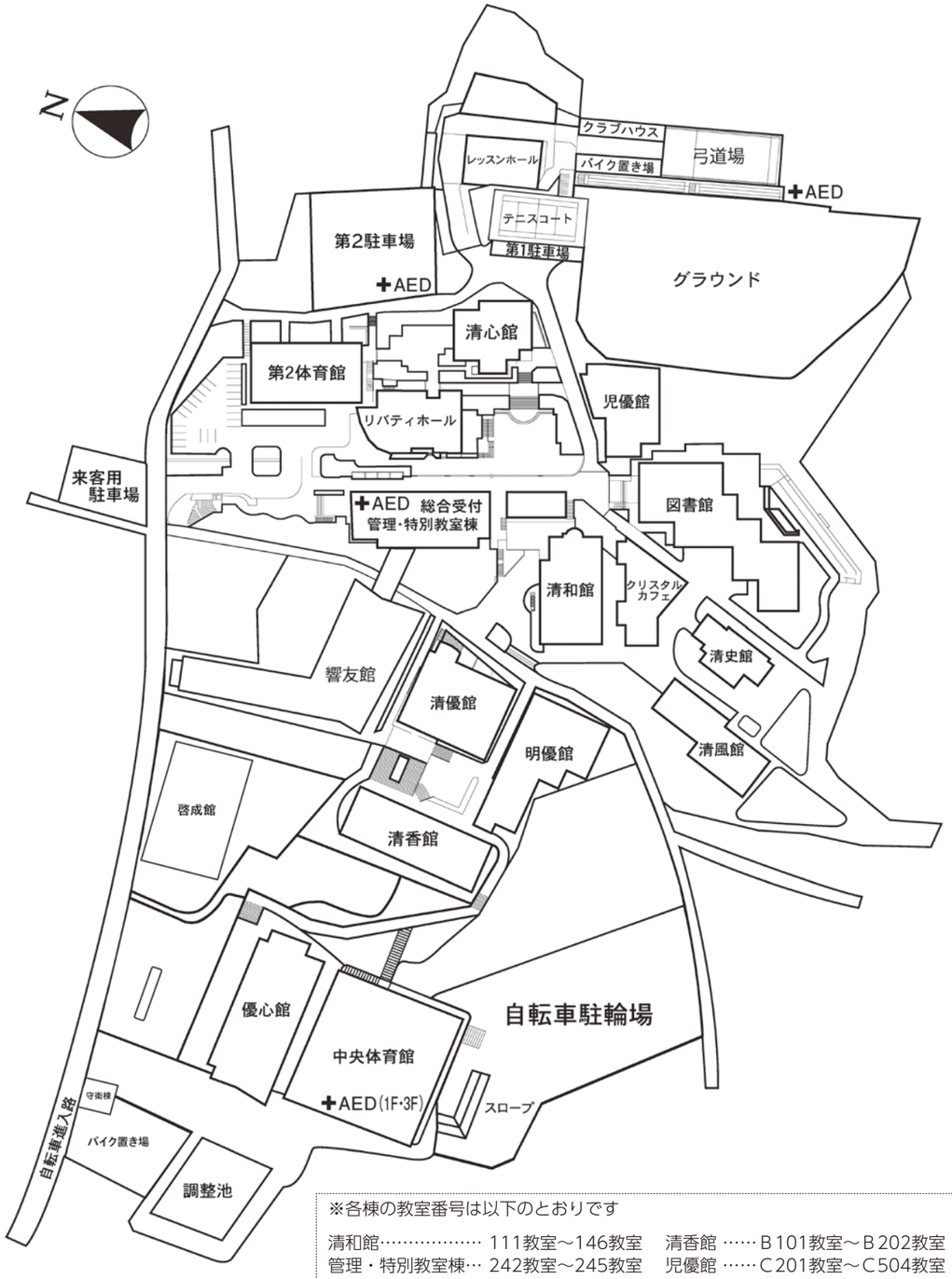
9．イングリッシュキャンプについては、キャンプ活動における生活指導は原則として指導時間に含めず、キャンプ中に実施した英語指導の時間だけを50時間の指導経験に取りこむこととする。

指導経験が50時間未満の人は「小学校英語準認定指導者」として推薦を受けることができます。また、小学校英語準認定指導者は、指導時間が50時間を越えたと登録団体が認めた段階で、「小学校英語指導者」（正資格）に書き換えることができます。

（卒業後の指導経験を含めることができます）

その他

キャンパスマップ



※各棟の教室番号は以下のとおりです

清和館…… 111教室～146教室
管理・特別教室棟… 242教室～245教室
清心館…… 711教室～731教室
清史館…… 811教室～831教室
清風館……9301教室～9502教室
清優館 …… A101教室～A406教室
清香館 …… B101教室～B202教室
児優館 …… C201教室～C504教室
明優館 …… D101教室～D302教室
優心館 …… E101教室～E603教室
響友館 …… F101教室～F504教室
啓成館 …… G001教室～G402教室

教室一覧

建物	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
清和館	111教室	58	121教室	58	131教室	76
	112教室	58	122教室	58	132教室	98
	113教室	58	123教室	58	133教室	58
	114教室	107	124教室	107	134教室	108
	115教室	60	125教室	60	135教室	169
	116教室	60	126教室	60		
	4階	収容数				
	141教室	58				
	142教室	58				
	143教室	33				
	144教室	33				
	145教室	119				
	146教室	186				
管理・特別教室棟	4階	収容数				
	242教室〈書道教室〉	45				
	244教室〈書道教室〉	72				
	245教室〈書道教室〉	–				
清心館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	711教室〈PC教室〉	60	721教室〈PC教室〉	36	731教室〈PC・LL教室〉	40
			722教室〈PC教室〉	36		
			723教室〈PC・LL教室〉	56		
			724教室〈PC教室〉	56		
清史館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	811教室〈実習室〉	48	821教室	204	831教室〈共同研究室D〉	20
	812教室	56	822教室	22		
			823教室	22		
清風館	3階	収容数	4階	収容数	5階	収容数
	9301教室	22	9401教室	36	9501教室	321
	9302教室〈共同研究室1〉	24	9402教室〈共同研究室3〉	24	9502教室〈製図教室〉	35
	9303教室〈共同研究室2〉	24				
清優館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	A102教室〈実験室〉	40	A201教室	165	A301教室〈第1実習室〉	–
	A103教室	24			A302教室〈第2実習室〉	–
	4階	収容数				
	A401教室〈第3実習室〉	–				
	A405大学院生室	–				
	A406教室〈ゼミ・会議室〉	36				
清香館	1階	収容数	2階	収容数		
	B101教室	24	B201教室	292		
	B102教室	24	B202教室	174		
	B103教室	24				
	B104教室	24				
	B105教室	24				
	B106教室	24				
	B107教室	24				
	B108教室	24				
	B109教室	24				
	B110教室	24				

建物	2階	収容数	3階	収容数	4階	収容数
児優館	C201教室〈多目的教室〉	90	C301教室〈理科実験室〉	42	C401教室〈調理実習室〉	40
			C302教室〈図工実習室〉	54	C402教室〈音楽実習室〉	60
	5階	収容数				
	C502教室〈臨床教育実践スタジオ〉	40				
明優館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	D101教室	245	D201教室	245	D301教室〈CAD教室〉	46
	D102教室〈実習室〉	−	D202教室	180	D302教室〈製図教室〉	96
			D203教室	180		
優心館	1階	収容数	2階	収容数	3階	収容数
	E101教室	110	E201教室	150	E301教室〈運動療法実習室〉	−
	E110教室〈大学院生室〉	−	E202教室	150	E302教室〈評価実習室〉	−
					E304教室	125
					E305教室	87
					E306教室〈大学院生室〉	−
	4階	収容数	5階	収容数	6階	収容数
	E401教室〈演習室2〉	−	E501教室〈共同研究室〉	24	E601教室〈物理療法・水治療義肢装具実習室〉	−
	E402教室〈共同研究室〉	24	E502教室〈基礎医学実習室〉	−	E603教室〈日常動作訓練室〉	−
	E403教室〈演習室3〉	30	E505教室〈運動生理機能評価測定実習室〉	−		
	E404教室〈演習室4〉	30				
	E405教室〈演習室5〉	30				
	E406教室〈演習室6〉	30				
	E407教室〈会議演習室〉	36				
響友館	1階	収容数	3階	収容数	4階	収容数
	F101教室〈保育実習室〉	−	F303教室〈GroupAccessRoom〉	12	F401教室〈演習・会議室〉	60
			F304教室〈GroupAccessRoom〉	12	F402教室〈講義室〉	60
			F305教室〈GroupAccessRoom〉	12	F403教室	60
			F306教室〈IndivisualStudyRoom〉	20	F404教室	60
					F405教室	60
	5階	収容数				
	F501教室〈演習・会議室〉	54				
	F502教室	60				
	F503教室	60				
	F504教室	60				
啓成館	地下1階	収容数	1階	収容数	2階	収容数
	G001教室〈生理機能実習室〉	48	G101教室	63	G201教室〈織物・手工芸・絵画室〉	48
	G002教室〈レクレーションルーム〉	−	G102教室	120	G202教室〈木工・金工・陶工・義肢装具室〉	48
	G003教室	48	G103教室	108	G203教室〈共同研究室〉	−
	G004教室	105	G104教室	105		
	G005教室	120	G105教室	135		
	G006教室	107				
	G007教室					
	3階	収容数	4階	収容数		
	G301教室〈細胞診演習室〉	24	G401教室〈顕微鏡実習室〉	96		
	G302教室〈生化学・免疫系実験室〉	96	G402教室〈微生物・形態系実験室〉	96		
	G303教室〈共同研究室1〉					
	G304教室〈共同研究室2〉					
中央体育館	1階	収容数	3階	収容数		
	小アリーナ	−	大アリーナ	−		
	中アリーナ	−				
第2体育館	1階	収容数	2階	収容数		
	小アリーナ	−	アリーナ	−		

事務局連絡先一覧

セクション名			直通電話番号	メールアドレス	場所
総務課			574−4111	gen@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟2階
人事秘書課			574−4375	jinji@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
経理課			574−4113	acc@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
教務部	学務第1課		574−4324	1academic@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟2階
	学務第2課		574−4192	2academic@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟2階
	学務第3課		574−4325	3academic@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟2階
	総合教育課		574−4365	g-edu@tachibana-u.ac.jp	リバティホール1階
学生部	学生支援課		574−4114	studentc@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟1階
	就職進路課（キャリアセンター）		574−4117	career@tachibana-u.ac.jp	リバティホール1階
学術情報部	図書館情報課	図書館	574−4118	library@tachibana-u.ac.jp	図書館
		情報メディアセンター	574−4130	media@tachibana-u.ac.jp	清心館1階
	学術振興課	エクステンションセンター	574−4186	aca-ext@tachibana-u.ac.jp	清風館2階
		リエゾンオフィス	574−4186	liaison@tachibana-u.ac.jp	清風館2階
入学部	入学課		574−4116	admis@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟1階
企画広報課			574−4112	pub@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
公務員試験支援センター			574−4125	koumuin@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
教職保育職支援室			574−4192	tpsc@tachibana-u.ac.jp	管理・特別教室棟3階
女性歴史文化研究所			574−4120	iwhc@tachibana-u.ac.jp	清風館2階
地域連携センター			574−4131	icps@tachibana-u.ac.jp	清風館2階
看護異文化交流・社会連携推進センター			574−4235	ktnc@tachibana-u.ac.jp	清優館2階
看護教育研修センター			574−4133	cpdn@tachibana-u.ac.jp	清風館2階

京都橘学園生活協同組合		571−2325	tachibana-coop@ma1.seikyou.ne.jp	響友館1階

＊電話番号の市外局番はすべて「075」

教務部各課業務内容と窓口時間

各課とも窓口業務は月曜日〜金曜日で、11：10〜12：10は窓口業務を行いません。

	主な業務内容
学務第1課	教務システム管理、学籍管理・時間割・受講登録・成績管理等に関すること （上記に関する個別の相談は、学務第2課・学務第3課、もしくは総合教育課で行います。） ※学務第1課に学生受付カウンターはありません。
学務第2課	文学部の教学に関すること 発達教育学部の教学に関すること 現代ビジネス学部の教学に関すること 大学院文学研究科の教学に関すること 大学院現代ビジネス研究科の教学に関すること 大学院文化政策学研究科の教学に関すること 資格に関すること ※教育職員免許状／保育士／司書／学校図書館司書教諭／博物館学芸員／社会教育主事／2級考古調査士／一級建築士受験資格／二級・木造建築士受験資格／インテリアプランナー登録資格／初級地域公共政策士資格／アーツマネジメント／小学校英語指導者資格（J-SHINE認定）／診療情報管理士資格／その他
学務第3課	看護学部の教学に関すること 健康科学部の教学に関すること 大学院看護学研究科の教学に関すること 大学院健康科学研究科の教学に関すること 看護師・保健師・助産師・公認心理師・理学療法士・作業療法士・救急救命士・臨床検査技師・細胞検査士の国家試験に関すること 資格に関すること ※認定心理士／社会調査士
総合教育課	国際英語学部の教学に関すること 基礎教育科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群に関すること 国際交流・言語教育に関すること 留学相談に関すること 資格に関すること（日本語教員資格）
窓口時間	
基本は8：45〜17：15。平常授業期間中の月〜金は以下の業務に限り、窓口業務を延長します。 証明書自動発行は18：15まで 授業に関する対応は19：40まで（6講時に授業がある場合） 土曜日の補講・集中講義 8：45〜17：15（授業対応・証明書自動発行のみ）	

発行　　〒607－8175 京都市山科区大宅山田町34　Tel075－571－1111㈹
編集　　京都橘大学

2018年4月1日発行

印刷　株式会社グラフィック